

江南市図書館基本計画 (案)

平成 30 年 11 月

江 南 市

目 次

1. 計画策定の目的	1
2. 現市立図書館の現状と特性	2
2.1. 沿革	2
2.2. 新図書館の整備に関するこれまでの経緯	4
2.3. 施設の現状	7
2.4. サービスの現状	11
2.5. 所蔵資料の現状	13
2.6. 利用の現状	15
2.7. 他自治体図書館との整備水準の比較	19
3. 江南市の概要・まちづくりの方向性と図書館の役割	28
3.1. 江南市の概要	28
3.2. まちづくりの方向性	36
4. 図書館を取り巻く動向	46
4.1. 先進的事例	46
4.2. 社会的動向	58
5. 市民ニーズ	61
5.1. 図書館ボランティアヒアリング調査	61
5.2. 図書館職員ヒアリング調査	64
5.3. 市民アンケート調査	67
5.4. 利用者アンケート調査	70
5.5. 平成 28 年度生涯学習講演会「まちの未来につながる図書館」アンケート	73
5.6. 市民ワークショップ	74
6. 江南市図書館の課題と今後のサービスのあり方	77
6.1. 江南市図書館の課題	77
6.2. 今後の江南市図書館のあり方	80
7. 新市立図書館の基本方針・サービス計画と資料収集計画	85

7.1. 新市立図書館の基本方針.....	85
7.2. サービス計画.....	88
7.3. 資料収集計画.....	96
8. 新市立図書館の蔵書規模と施設規模.....	99
8.1. 蔵書規模の計画値.....	99
8.2. 施設規模の計画値.....	120
9. 新市立図書館の施設整備計画.....	122
9.1. 各諸室のイメージ・必要備品等.....	122
10. 新市立図書館の管理運営計画.....	127
10.1. 開館時間・開館日.....	127
10.2. 管理運営手法.....	128
10.3. 必要職員数.....	128

1. 計画策定の目的

市民の「知」の拠点であり、生涯学習推進の拠点でもある江南市図書館（公民館図書室・サービスポイント等含む）には、市民が新たな知識や情報を得る場としての役割だけでなく、それらを有効に活用したり市民同士の繋がりや交流を創出したりする場としての役割も求められます。近年では、社会の情勢や構造が大きく変化する中で、市民一人ひとりの図書館利用ニーズはより多様化・複雑化しているものと考えられます。

本市の図書館は、昭和 51 年に開館した現在の江南市立図書館（以下、「現市立図書館」とします。）1 館のみですが、公民館図書室や配本サービスなどを通じてより多くの市民の読書・学習機会の拡充に努めてきました。現市立図書館は、開館以来多くの市民に親しまれてきましたが、施設の狭隘化・老朽化といった問題も抱えており、新たな市民ニーズに応えていくことは難しい状況です。

本市では、これまでも新たな図書館（以下、「新市立図書館」とします。）の整備に関する検討を行ってきましたが、財政上の理由などから整備には至りませんでした。しかし、平成 24 年度に検討を再開し、職員やボランティアによる協議を進め、平成 28 年度には「江南市公共施設等総合管理計画」において、現市立図書館の更新及び今後の図書館のあり方を検討することや新図書館建設に係る取り組みに着手することなどを掲げました。

また、名鉄犬山線布袋駅周辺の鉄道高架事業の進捗と合わせ、「江南市の南玄関口にふさわしい、安心して住み続けられるまちの交流施設」を整備コンセプトとする布袋駅東複合公共施設整備事業を進めており、子育て支援機能や保健機能、図書スペースを含む施設の整備を計画してきました。

こうした状況を踏まえ、市民からの期待が非常に高い新市立図書館については、本市のシンボルとして整備予定の布袋駅東複合公共施設（以下、「複合公共施設」とします。）内に設置するものとし、現市立図書館の移設かつ国からの交付金制度の活用を前提とすることで、効率的・効果的な施設整備及び一層の機能充実を図ることとしました。

そこで、「江南市図書館基本計画」（以下、「本計画」とします。）では、将来の江南市図書館の果たすべき役割や充実すべき機能の方向性、サービス網や施設整備の考え方などを明らかにするとともに、より多くの市民に愛され、利用され続ける本市らしい新市立図書館の実現をめざし、その将来像やサービス、蔵書、施設、管理運営の具体的な方向性を定めるものとします。

2. 現市立図書館の現状と特性

2.1. 沿革

本市の図書館は、昭和 29 年 6 月に古知野町、布袋町、宮田町、草井村の 3 町 1 村の合併により本市が発足した際に、旧古知野町の町役場内に図書室を設置したことに始まります。昭和 44 年 4 月には館外貸出を開始し、昭和 50 年 7 月には現市立図書館の建設に着手、翌 51 年 4 月に開館しました。

表 2-1 に示すとおり市内図書館サービスの拡大を図る中で、平成 4 年のコンピューターシステムの導入が大きな契機となり、利用は飛躍的に増加しました。また、平成 15 年 8 月には図書館以外の場所での貸出・返却を開始し、平成 19 年度からは指定管理者制度を導入したほか開館時間を延長するなど、さらなるサービス向上に努めながら現在に至っています。

表 2-1 本市図書館のあゆみ

年月	経過・取り組みなど
昭和 29 年 6 月	古知野町、布袋町、宮田町、草井村の 3 町 1 村合併により本市誕生 古知野町図書室を引き継ぎ、庁舎内に図書室を設置
昭和 40 年 4 月	図書室を旧蚕業指導所江南出張所へ移設
昭和 44 年 4 月	図書室を旧市民体育会館内へ移設し、登録制で貸出業務を開始
昭和 51 年 4 月	市立図書館開館（蔵書数 14,657 冊） 貸出業務 1 人 3 冊 2 週間以内へと変更
昭和 53 年 4 月	団体貸出業務（1 団体貸出冊数 50 冊、1 ヶ月以内）を開始
昭和 54 年 4 月	団体貸出の貸出冊数を 1 団体 200 冊以内へと変更
昭和 54 年 12 月	名誉市民横田喜三郎氏の図書寄贈により横田文庫を開設
昭和 55 年 1 月	点字本の貸出業務を開始
昭和 56 年 8 月	団体貸出の期間を 1 ヶ月から 2 ヶ月に変更
昭和 57 年 7 月	身体障害者に対する郵送貸出サービスを開始
昭和 58 年 4 月	個人貸出の貸出冊数を 3 冊から 4 冊に変更
昭和 59 年 7 月	参考資料室設置。電動書架を導入し、蔵書可能規模を 6 万冊に拡大
昭和 59 年 12 月	紙芝居の貸出サービスを開始
平成 4 年 5 月	コンピューターシステム導入。個人貸出の貸出冊数を 5 冊に変更し、ビデオテープの貸出業務（1 人 1 点 1 週間）を開始
平成 5 年 3 月	朗読ボランティアによる読み聞かせ会を開始
平成 6 年 6 月	夏期（6 月～8 月）開館時間を午後 6 時まで延長
平成 10 年 10 月	不用図書のブックリサイクル開始
平成 14 年 6 月	検索・予約可能なインターネットホームページを開設
平成 14 年 11 月	利用者用パソコンを 2 台導入

年月	経過・取り組みなど
平成 15 年 4 月	全日開館を実施(月 1 回の館内整理日・年末年始・特別整理期間を除く)
平成 15 年 8 月	ブックスタート事業開始
	貸出、返却などを可能とする端末機とブックリターンポストを布袋支所(布袋ふれあい会館)、宮田支所、草井支所に設置
平成 16 年 1 月	尾張北部広域行政圏市町立図書館の相互利用開始(5市2町)
平成 16 年 11 月	CD・DVDの貸出開始
平成 18 年 1 月	雑誌の予約開始
平成 19 年 4 月	図書館の管理運営を指定管理者制度に移行
	宅配サービス開始、開館時間を午後 6 時 30 分まで延長
	個人貸出の貸出冊数を 5 冊から 10 冊に変更
平成 20 年 4 月	図書館職員による「出張おはなし会」開始
平成 22 年 4 月	江南駅にブックリターンポストを設置
平成 23 年 4 月	雑誌スポンサー制度採用
平成 24 年 4 月	新入生スタートパック 66 実施
平成 24 年 6 月	視聴覚ブース 2 台設置
平成 27 年 5 月	高齢者サロン訪問開始
平成 27 年 9 月	W i - F i 設置
平成 27 年 10 月	読書通帳の配布開始
平成 28 年 4 月	青空文庫開設

※「江南市立図書館の概要 2018」の「I 図書館のあゆみ」から施設修繕・行事などを除いて作成

2.2. 新図書館の整備に関するこれまでの経緯

(1) 新図書館の整備に関する取り組み

現市立図書館の開館から15年以上が経過した平成4年度には、貸出冊数が20万冊を超えるとともに登録者数も飛躍的に増加し、蔵書の増加に伴う施設の狭隘化も進行したことから、新図書館の整備を望む市民の声が高まりました。

こうした状況を受けて、本市は平成6年度から7年度にかけて新図書館建設準備調査研究会を設置し、新たな図書館の整備に向けた検討を開始しました。

以降の主な取り組みを、表2-2に整理します。

表 2-2 新たな図書館の整備に向けた主な取り組み

年度	取り組みなど
平成6～7年度	「新図書館建設準備調査研究会」を設置し、新たな図書館整備に向けた検討を開始
平成8年度	「江南市新図書館建設事業基金の設置、管理及び処分に関する条例」施行
	市議会が「図書館建設特別委員会」を設置、「図書館建築計画書（案）」を作成
平成9年度	「江南市新図書館建設基本計画策定会議」を設置 （「新図書館建設準備調査研究会」の調査・研究を踏まえ、図書館行政のあり方を見直し、体系を整備）
平成10年度	「江南市新図書館建設基本計画」を策定
平成16年度	本市全体の事業を勘案し、「江南市新図書館建設基本計画」を撤回 （平成17年3月議会答弁）
平成24年度	「第2次江南市生涯学習基本計画」を策定、新たな生涯学習拠点の整備として図書館のあり方の検討を再開
平成26年度	市議会が「図書館問題特別委員会」を設置
平成27年度	「これからの江南市立図書館のあり方を考える職員検討会」を設置
平成28年度	「図書館で活動をするボランティア等を対象とした会議」を開催
	平成28年度生涯学習講演会「まちの未来につながる図書館」を開催

(2) 各段階での整備の方向性

1) 「江南市新図書館建設基本計画」の策定（平成10年度）

平成7年度に新図書館建設準備調査研究会より「新図書館建設に関する報告書」が提出されたことなどを踏まえ、本市は平成8年度に策定した「第4次江南市総合計画」の基本計画で、文化的で豊かな生涯学習の場としての新図書館建設を目指すこととしました。また、市議会も同じく平成8年度に「図書館建設特別委員会」を設置し、先進図書館の視察を始めとする調査・研究を重ねました。その後、本市では平成9年度に21世紀を見据えた生涯学習時代にふさわしい新図書館づくりを目指す「江南市新図書館建設基本計画策定会議」を設置し、そこでの検討を通じて平成10年度に「江南市新図書館建設基本計画」を取りまとめました。計画内では図書館サービスの現状

を整理した上で、今後目指すべきサービス内容やサービス網計画、管理・運用の計画、中央図書館の建築計画などを示しましたが、財政上の理由や、候補地の選定が困難であったことなどから、計画は一旦白紙に戻ることとなりました。

2) 「図書館問題特別委員会」の設置（平成 26 年度）

平成 24 年度策定の「第 2 次江南市生涯学習基本計画」の中で本市が再び新図書館建設を掲げたことから、市議会は現市立図書館の問題点とこれからの図書館のあり方について調査研究を行うとともに、今後の図書館が重点とするべきテーマについて取りまとめるために特別委員会を設置しました。

特別委員会は 9 回開催され、「これからの江南市図書館のあり方について」をまとめました。現市立図書館の立地は利便性が低く、施設も狭隘で蔵書収容能力も限界であることなどを踏まえ、下記の 3 点を提言しています。

1. 早期に正式な新図書館建設検討委員会（仮称）を設置し、新図書館建設のビジョンを策定すること
2. 新図書館の目指すべき姿
 - ①誰にでも居場所がある図書館 ②地域の情報拠点となる図書館
 - ③市民の暮らしに役立つ図書館 ④情報化時代の市民ニーズに対応する図書館
3. 江南市新図書館建設事業基金への積み立てを再開すること

3) 「これからの江南市立図書館のあり方を考える職員検討会」の設置(平成 27 年度)

市職員 24 名による検討会において、複数のテーマに沿ってソフト面・ハード面の両面から検討を行いました。各テーマと対応する主な意見は表 2-3 のとおりです。

表 2-3 職員検討会の検討テーマと主な意見

番号	テーマ	主な意見
1	江南市立図書館の良いところ	子ども向けの講座が充実している/職員が親切だった サービスがとても良い/図書館スタッフが作った資料案内が充実
2	江南市立図書館の悪いところ	<u>雰囲気・サービス</u> 本が少ない、古い/夜、開館していない 居心地が悪く、雰囲気が暗い <u>建物の構造</u> 本が置いてある場所が狭い 中 2 階、3 階に車椅子の方は入れない/読むスペースがない

番号	テーマ	主な意見
3	江南市立図書館はどんな時に利用する(したい)	本を読みたいとき 買うまではないが、興味のある本を読みたいとき 高価な本を読みたいとき/子どもと一緒に利用したいとき 静かな所で調べものをしたいとき/時間つぶし
4	居心地(雰囲気)が良い図書館とは	座り心地の良い椅子・飲食スペース・学習室(個室)などがある 静かすぎないほうが良い/本棚同士のスペースが広い 開放感がある
5	子どもと一緒に居て楽しもう	絵本、しかけ本などの種類を増やす 本の表紙が見える本棚だと一緒に本を選びやすい 育児相談などができる職員の配置 騒がしすぎない程度のおしゃべりが可能な場所
6	高齢者や障害者にやさしい	高齢者や障害者を図書館へ送迎する 車椅子でも動きやすい幅の通路/対面朗読サービスなどの充実 独り暮らしの高齢者が集まる場所としての利用
7	ボランティア団体との協働	活動できる場所を増やす/やりがいを持てる仕組みづくり ボランティア同志の交流の場の提供
8	立地	公共交通機関で行くことのできる場所にある 他の公共施設の近く/何かのついでに行きやすい場所

4) 「図書館で活動をするボランティア等を対象とした会議」の開催(平成28年度)

- 開催日:平成29年3月27日(月)
- 参加団体:8団体
- 内容:江南市立図書館には何が必要かなど6つのテーマについて意見交換

表 2-4 「ボランティア等を対象とした会議」のテーマと主な意見

No.	テーマ	主な意見
1	江南市立図書館には何が必要か	高齢者や障害者にやさしい/交通アクセスが良い 蔵書の充実
2	江南市以外の図書館を利用する理由は	蔵書が多い/CDの量が多い 高齢者にとっては江南市立図書館の階段がづらい
3	江南市立図書館はどのようなときに利用するのか	本を借りたいとき/調べものをするとき
4	江南市立図書館の良いところは	スタッフの対応がいい/駐車場が広い 施設がきれい(清潔感・明るさ)
5	江南市立図書館の良くないところは	交通の便が悪い/施設が古い/スペースが狭い 本の冊数が少ない
6	今後、江南市の図書館はどのような形態がよいか	他の公共施設に併設/市内に分館 北部の方たちにとっても交通の便が良いところ

2.3. 施設の現状

(1) 位置及び建物

現市立図書館は、名鉄犬山線江南駅から約1km（江南市石枕町神明82番地）に位置しています（図2-1参照）。駅から徒歩では15分ほどかかるため、利用者の多くは自動車・自転車で来館しています。



図 2-1 現市立図書館の位置

建物の概要は以下のとおりで、築42年が経過して老朽化が進んでおり、エレベーターがないなど、利用に不便な点があります。

- 開館年月：昭和51年4月
- 構造：鉄筋コンクリート造 3階建
- 建築面積：438.83㎡
- 延床面積：962.32㎡（1階 433.83㎡、2階 407.65㎡、3階 120.84㎡）

平成26年にバリアフリー工事を行い、平成27年4月には1階から2階への階段昇降機を設置して芝生広場も新設、平成28年にはベンチを設置するなどして読書環境を整備してきました。

(2) 建物内部

1) 1階の状況

事務室、利用者用パソコン2台、新聞・雑誌コーナー（16席）、閉架書庫（兼郷土資料室）、会議室・横田文庫、参考資料室を設置しています。貸出・返却業務は事務室ではなく、2階で行っています。

新聞・雑誌コーナーには最新号と一部のバックナンバーを置いていますが、雑誌架は2階に配置しています。新聞のバックナンバーは参考資料室に保管し、利用者が入室して閲覧する形をとっています。

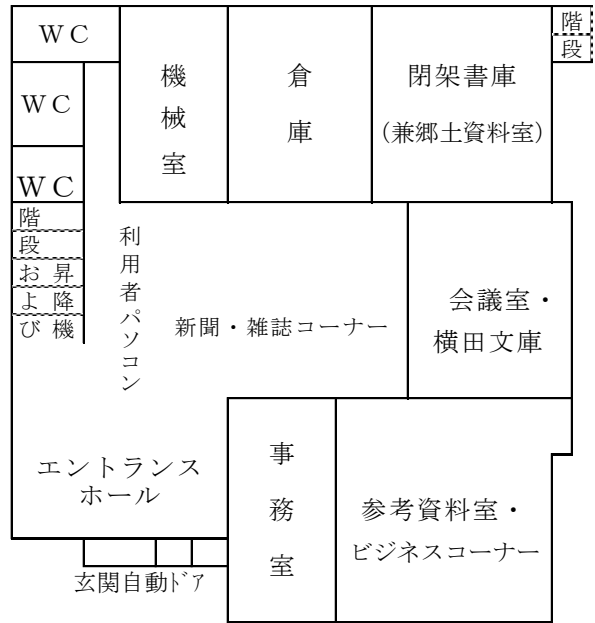


図 2-2 1階平面図



図 2-3 1階の様子

閉架書庫は郷土資料室を兼ねていますが、利用者が資料を閲覧する際は申し出が必要です。なお、収容能力を超えたため、一部の資料は藤里小学校に保存しています。

横田文庫は会議室内にあり、郷土資料室と同様、利用者が資料を閲覧する際は申し出が必要です。会議室内にはボランティアが作成した録音資料なども保存しています。

参考資料室には閲覧席を 32 席とビジネス支援コーナー・シニアコーナー・心のコーナーを設置しています。これらのコーナーにある資料は、1 階事務室窓口または 2 階カウンターで借りることができます。

2) 中 2 階・ 2 階の状況

中 2 階には一般書の開架書庫と閲覧席を設置しています。行き来は階段のみで、書架の間隔も狭く、車椅子では利用できない状況です。

2 階には開架スペースや児童・絵本コーナー、ヤングアダルト (YA) コーナーのほか、雑誌架や視聴コーナーを設置しています。児童コーナーには子どもが本を手にとりやすい低書架を配置していますが、蔵書の増加とともに書架は狭隘化し、表紙を見せて展示する余裕などはない状況です。絵本コーナーに隣接して、保護者のニーズが高い手芸などの実用書を配架するなど、親子で来館した際に利用しやすい動線になるよう配慮しています。

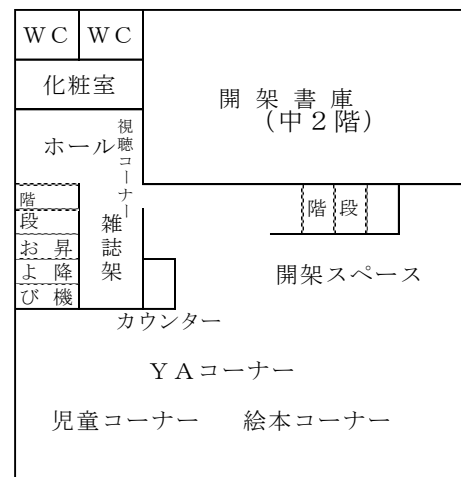


図 2-4 中 2 階・ 2 階平面図



図 2-5 中 2 階・ 2 階の様子

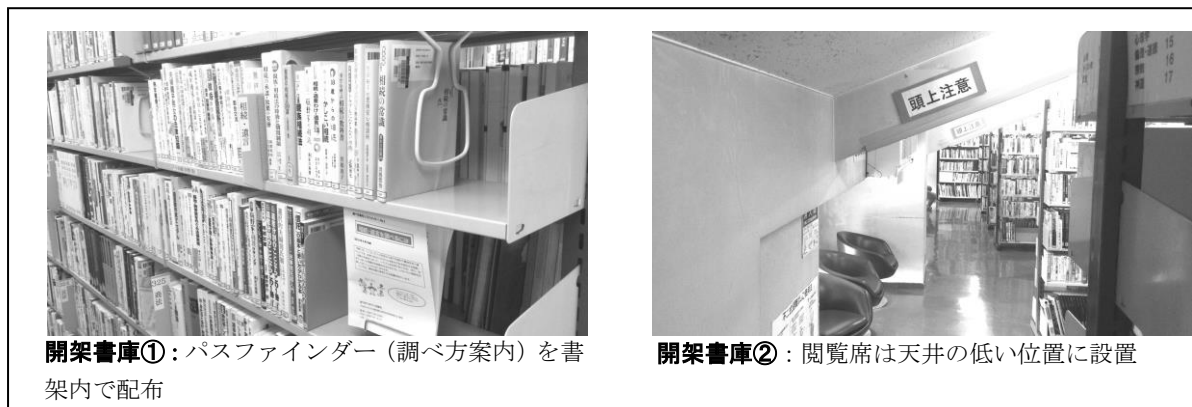
3) 3階の状況

一般書の開架書庫を配置していますが、中2階と同様に行き来は階段で、書架間隔も狭くなっています。

閲覧席は天井が低い場所にあるため、着席すると圧迫感があり、利用しづらい状況にあります。



図 2-6 3階平面図



開架書庫①: パスファインダー (調べ方案内) を書架内で配布

開架書庫②: 閲覧席は天井の低い位置に設置

図 2-7 3階の様子

2.4. サービスの現状

(1) サービス概要

開館時間など、サービスの概要を表 2-5 に示します。

表 2-5 サービスの概要

項目	内容
開館時間	9：00～18：30
休館日	毎月第4木曜日、年末年始（12月29日～1月4日）、特別整理期間
開館日数	333日（平成29年度実績）
登録要件	愛知県内在住・在勤・在学者
貸出冊数	図書・雑誌・紙芝居…10点2週間 CD・DVD・ビデオ…2点2週間 合計10点
予約・リクエスト	予 約：利用したい本が貸出中の場合は予約受付 リクエスト：検討後購入または他館から借用して可能な限り対応
レファレンスサービス	対面だけでなく電話や文書による質問にも対応
図書館資料の 複写サービス	著作権法の範囲内で所蔵資料に限り複写可能 手数料：白黒1枚10円、カラー1枚50円
配本サービス	図書館と以下の施設で、祝日を除く月・水・金の午前中に予約資料の受け渡しを実施 <受け渡し施設> 草井支所・宮田支所・布袋ふれあい会館・市役所（生涯学習課）・老人福祉センター・古知野北公民館・古知野西公民館・布袋南部地区学習等供用施設
宅配・郵送貸出 サービス	市内在住の高齢者・身体に障害のある市民を対象に実施

※ 公民館図書室

設置場所：古知野東公民館、古知野西公民館、古知野北公民館

開館時間：9：00～17：00

開館日：年末年始（12月29日～1月4日）以外

その他：利用の際は利用名簿に記名が必要

(2) 主な実施事業

1) 各種行事

乳幼児向け「だっこのおはなし会」、幼児から小学校低学年向け「読み聞かせ会」、5歳以上向け「ストーリーテリング」のほか、子どもから大人まで幅広い年代を対象としたイベントを開催しています。平成30年度で第8回となる「江南市立図書館まつり」では2日間に亘って図書館クイズ・リサイクル市、館内展示などを行っており、毎年多くの利用者が訪れます。

2) 読書通帳の配布

「第2次江南市子ども読書活動推進計画」に基づき、市内在住または在学・在園の小学生以下の子ども（0歳～12歳）に「ふじかちゃん子ども読書通帳」を配布しています。読書記録が満期（100冊）となった際に新しい読書通帳を配布するとともに、記念品として「缶バッジ」を贈呈し、子どもたちの読書意欲の向上を図っています。中学生以上向けには「読書記録ノート」を作成し、本市及び現市立図書館ホームページからダウンロードして利用できるようにしています。

3) ブックスタート

乳児期からの本との触れ合いや、保護者への読み聞かせ・読書の大切さの周知を目的として、平成15年8月から保健センターの4か月児健診で実施しています。

4) 雑誌スポンサー制度

企業・商店・団体などに雑誌の購入代金を負担してもらい、最新号のカバーに提供者（スポンサー）の名称・広告を表示することで広告媒体として利用してもらう制度です。平成23年に「江南市立図書館雑誌スポンサー制度に関する要綱」を制定し、雑誌コーナーの充実を図っています。

5) インターネットを活用した情報発信

公式ホームページ「ようこそ江南市立図書館へ」と併せて、平成25年4月から公式ツイッターも開設し、行事案内、おすすめの本などの情報をタイムリーに発信しています。



図 2-8 公式ツイッタートップ画面

組織体制

指定管理者として17名が従事しており、内訳は、現場統括である図書館長（1名）、管理責任者である副館長（1名）、責任者（2名）、リーダー（1名）、一般スタッフ（12名）となっています（平成30年4月現在）。

2.5. 所蔵資料の現状

(1) 蔵書数・資料種別構成

平成25年度から平成29年度の5年間の蔵書の状況は表2-6のとおりで、蔵書数は3,070冊増加しています。資料種別での構成比に大きな変化はなく、一般書が約60%、児童書が約25%で全体の約85%を占めています。

表 2-6 蔵書数の推移

資料種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成29年度-平成25年度 (冊)
	冊数 (冊)	構成比 (%)	冊数 (冊)	構成比 (%)	冊数 (冊)	構成比 (%)	冊数 (冊)	構成比 (%)	冊数 (冊)	構成比 (%)	
一般書	75,254	61.4	75,033	61.2	75,455	60.9	76,167	60.7	76,180	60.6	926
児童書	29,575	24.1	29,729	24.3	30,401	24.6	31,112	24.8	31,107	24.8	1,532
雑誌	2,251	1.8	2,278	1.9	2,215	1.8	2,257	1.8	2,304	1.8	53
視聴覚資料	2,471	2.0	2,474	2.0	2,623	2.1	2,742	2.2	2,911	2.3	440
郷土資料	8,650	7.1	8,669	7.1	8,755	7.1	8,804	7.0	8,859	7.1	209
横田文庫	3,463	2.8	3,451	2.8	3,430	2.8	3,405	2.7	3,367	2.7	-96
点字図書	961	0.8	963	0.8	965	0.8	966	0.8	967	0.8	6
合計	122,625	100.0	122,597	100.0	123,844	100.0	125,453	100.0	125,695	100.0	3,070

※「江南市立図書館の概要」2014～2018年掲載のデータを基に作成

平成29年度は6,348冊の受入に対し、除籍は6,105冊とその差は243冊のみで、書架の狭隘化が進んでいる状況がうかがえます（表2-7参照）。

表 2-7 平成29年度受入・除籍冊数

資料種別	受入				除籍				受入-除籍
	購入	寄贈	弁償・ 復籍・ リサイクル ・その他	受入合計	保存期限 切れ	不要	紛失 ・不明 (曝書) ・汚破損 ・その他	除籍合計	
一般	3,064	40	147	3,251	2,696	89	453	3,238	13
児童	1,491	36	89	1,616	1,149	2	470	1,621	-5
雑誌	867	260	2	1,129	1,058	-	24	1,082	47
視聴覚資料	150	5	101	256	74	-	13	87	169
郷土資料	-	56	-	56	-	-	-	-	56
横田文庫	38	-	-	38	70	2	4	76	-38
点字図書	-	2	-	2	-	-	1	1	1
合計	5,610	399	339	6,348	5,047	93	965	6,105	243

※平成30年度第1回江南市図書館運営委員会会議録 別紙-1掲載のデータを基に作成

(2) 一般書の蔵書数・分野構成

平成25年度から平成29年度までの5年間の一般書の状況は表2-8のとおりで、全体で926冊増加していますが、構成比の大きな変化はなく、文学の約40%と社会科学の約10%とを併せて全体の約半数を占めます。

表 2-8 一般書の蔵書数の推移

分類名	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成29年度-平成25年度(冊)
	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	
0: 総記	3,058	4.1	3,055	4.1	3,061	4.1	3,100	4.1	3,067	4.0	9
1: 哲学	2,491	3.3	2,465	3.3	2,496	3.3	2,533	3.3	2,509	3.3	18
2: 歴史	6,745	9.0	6,805	9.1	6,816	9.0	6,883	9.0	6,960	9.1	215
3: 社会科学	9,869	13.1	9,824	13.1	9,920	13.2	10,097	13.3	10,098	13.3	229
4: 自然科学	4,982	6.6	4,815	6.4	4,892	6.5	4,982	6.5	5,053	6.6	71
5: 技術	5,830	7.8	5,937	7.9	5,985	7.9	6,025	7.9	5,986	7.9	156
6: 産業	2,228	3.0	2,261	3.0	2,287	3.0	2,313	3.0	2,274	3.0	46
7: 芸術	7,355	9.8	7,280	9.7	7,285	9.7	7,299	9.6	7,263	9.5	-92
8: 言語	1,116	1.5	1,122	1.5	1,129	1.5	1,127	1.5	1,128	1.5	12
9: 文学	31,580	42.0	31,469	41.9	31,584	41.9	31,808	41.8	31,842	41.8	262
合計	75,254	100.0	75,033	100.0	75,455	100.0	76,167	100.0	76,180	100.0	926

※「江南市立図書館の概要」2014～2018年掲載のデータを基に作成

(3) 児童書の蔵書数・分野構成

児童書については表2-9のとおりで、5年間での増加数は1,532冊と一般書を上回っています。構成比には大きな変化はなく、絵本の占める割合が約35%と最も高く、文学が約30%と続いています。

表 2-9 児童書の蔵書数の推移

分類名	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成29年度-平成25年度(冊)
	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	冊数(冊)	構成比(%)	
0: 総記	477	1.6	463	1.6	477	1.6	486	1.6	492	1.6	15
1: 哲学	194	0.7	196	0.7	208	0.7	231	0.7	248	0.8	54
2: 歴史	1,198	4.1	1,189	4.0	1,197	3.9	1,231	4.0	1,234	4.0	36
3: 社会科学	1,121	3.8	1,131	3.8	1,224	4.0	1,297	4.2	1,331	4.3	210
4: 自然科学	2,480	8.4	2,405	8.1	2,447	8.1	2,511	8.1	2,497	8.0	17
5: 技術	888	3.0	864	2.9	884	2.9	907	2.9	918	3.0	30
6: 産業	538	1.8	544	1.8	581	1.9	596	1.9	617	2.0	79
7: 芸術	1,449	4.9	1,435	4.8	1,437	4.7	1,468	4.7	1,493	4.8	44
8: 言語	362	1.2	352	1.2	365	1.2	367	1.2	366	1.2	4
9: 文学	9,241	31.3	9,100	30.6	9,221	30.3	9,335	30.0	9,234	29.7	-7
C: 紙芝居	1,051	3.6	1,078	3.6	1,043	3.4	1,069	3.4	1,019	3.3	-32
E: 絵本	9,962	33.7	10,417	35.0	10,752	35.4	11,007	35.4	11,054	35.5	1,092
M: 漫画	614	2.1	555	1.9	565	1.9	607	2.0	604	1.9	-10
合計	29,575	100.0	29,729	100.0	30,401	100.0	31,112	100.0	31,107	100.0	1,532

※「江南市立図書館の概要」2014～2018年掲載のデータを基に作成

2.6. 利用の現状

(1) 登録者数・貸出者数の現状

1) 登録者数

登録者数・登録率はともに5年間ほぼ横ばいで推移しています（図 2-9 参照）。

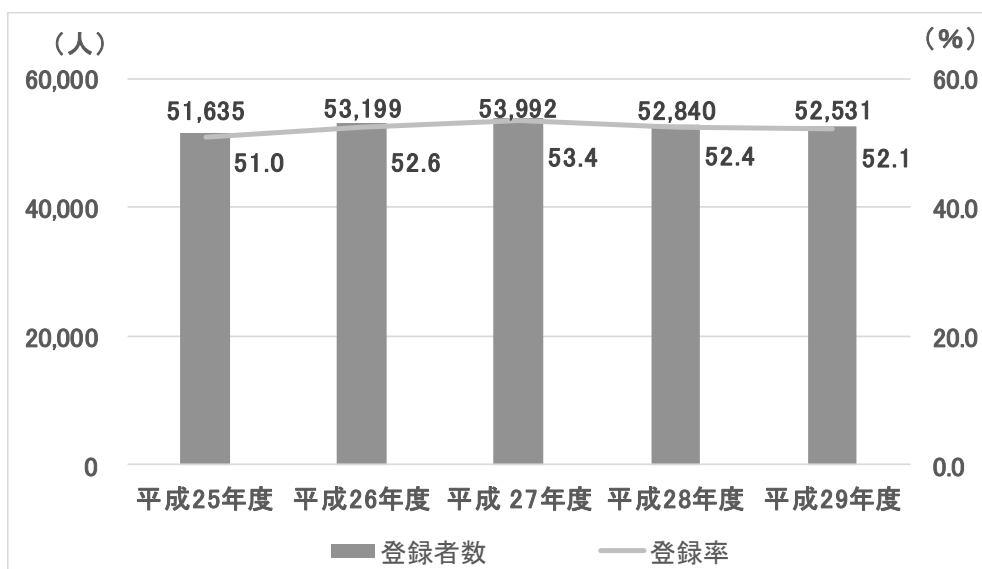


図 2-9 登録者数・登録率の推移

※「江南市立図書館の概要 2018 年」掲載のデータを基に作成

2) 貸出者数

貸出者数と1日平均貸出者数も同様に横ばいで推移しています（図 2-10 参照）。

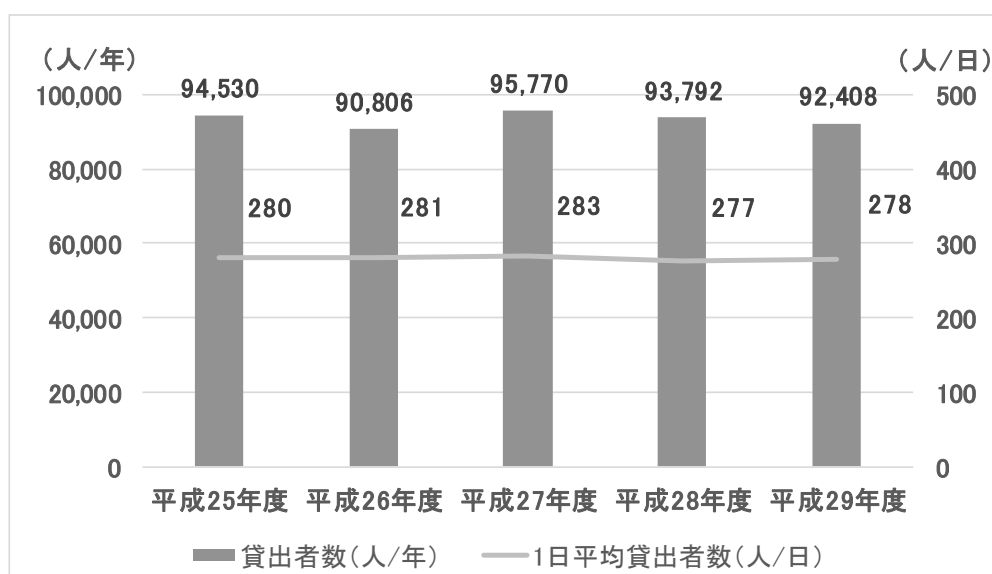


図 2-10 貸出者数と1日平均貸出者数の推移

※「江南市立図書館の概要」2014～2018 年掲載のデータを基に作成

3) 年齢別利用状況

人口に対する登録者数・利用者数を年齢別にみると、19歳から30歳までの若い世代は登録者のうちの利用者が40%に満たず、他の年代に比べて少ない傾向にあります（表2-10参照）。

表 2-10 年齢別利用状況

年齢区分	人口 (人)	登録者数 (人)	利用者数 (人)	登録者数/ 人口 (%)	利用者数/ 人口 (%)	利用者数/ 登録者数 (%)
0～6	5,626	797	7,514	14.2%	133.6%	942.8%
7～12	5,566	2,972	13,409	53.4%	240.9%	451.2%
13～15	3,217	1,891	1,927	58.8%	59.9%	101.9%
16～18	3,057	2,064	922	67.5%	30.2%	44.7%
19～22	3,644	2,842	812	78.0%	22.3%	28.6%
23～30	7,219	6,284	2,372	87.0%	32.9%	37.7%
31～40	11,777	8,173	10,606	69.4%	90.1%	129.8%
41～50	15,322	8,378	14,761	54.7%	96.3%	176.2%
51～64	16,028	6,888	12,701	43.0%	79.2%	184.4%
65歳以上	25,805	6,860	17,829	26.6%	69.1%	259.9%
年齢不詳	1,098	6	10	0.5%	0.9%	166.7%
合計	98,359	47,155	82,863	47.9%	84.2%	175.7%

※人口データは平成27年10月1日時点、国勢調査より（図2-11も同様）

4) 地区別利用状況

利用率が高い地域は図2-11に示すとおりで、古知野地区、布袋地区でともに90%を超えており、登録率も50%前後です。

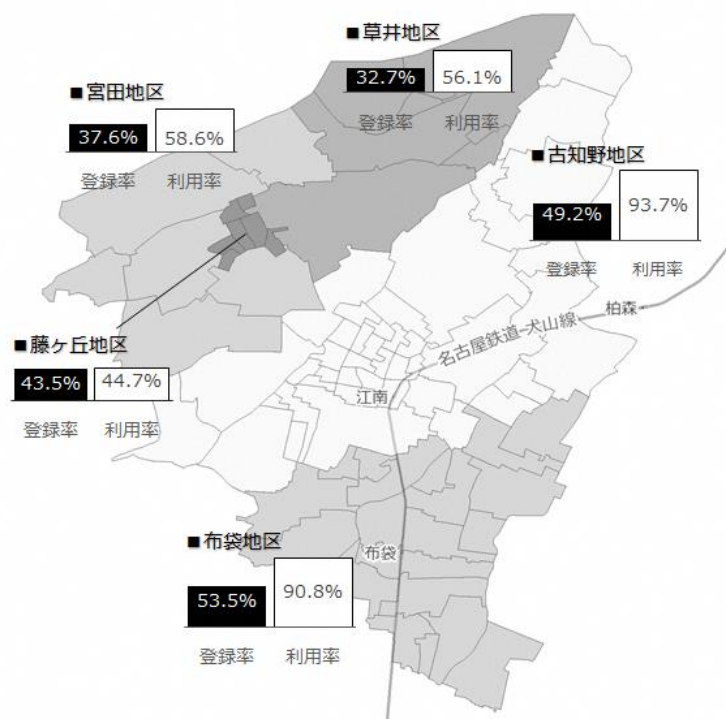


図 2-11 地区別登録率・利用率

(2) 貸出冊数

図 2-12 に示すとおり、貸出冊数も 5 年間ほぼ横ばいで推移しています。

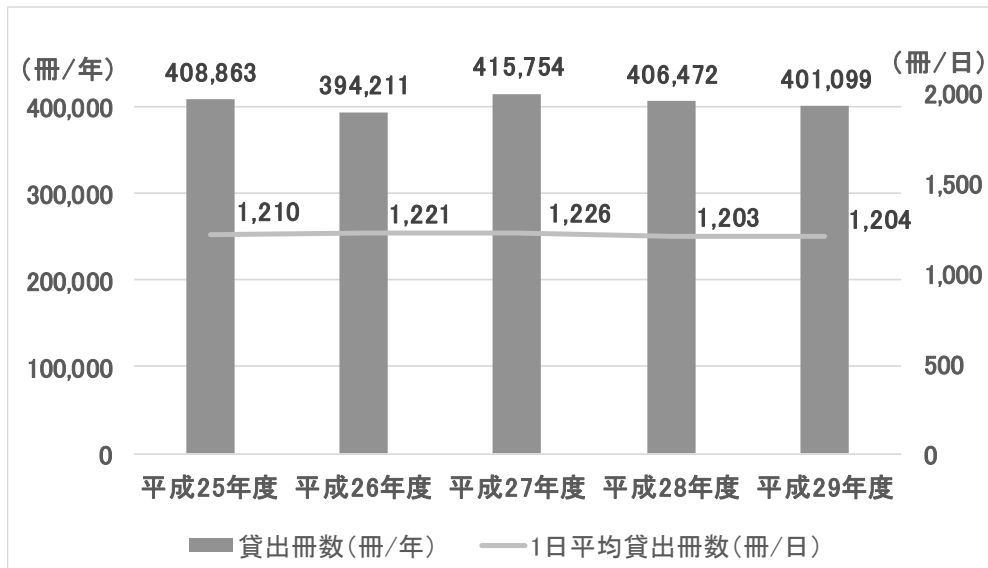


図 2-12 貸出冊数の推移

※「江南市立図書館の概要 2018 年」掲載のデータを基に作成

同じ 5 年間の資料区分別での 1 日平均貸出冊数をみると、一般書が減少し、児童書が増加傾向にあります（図 2-13 参照）。

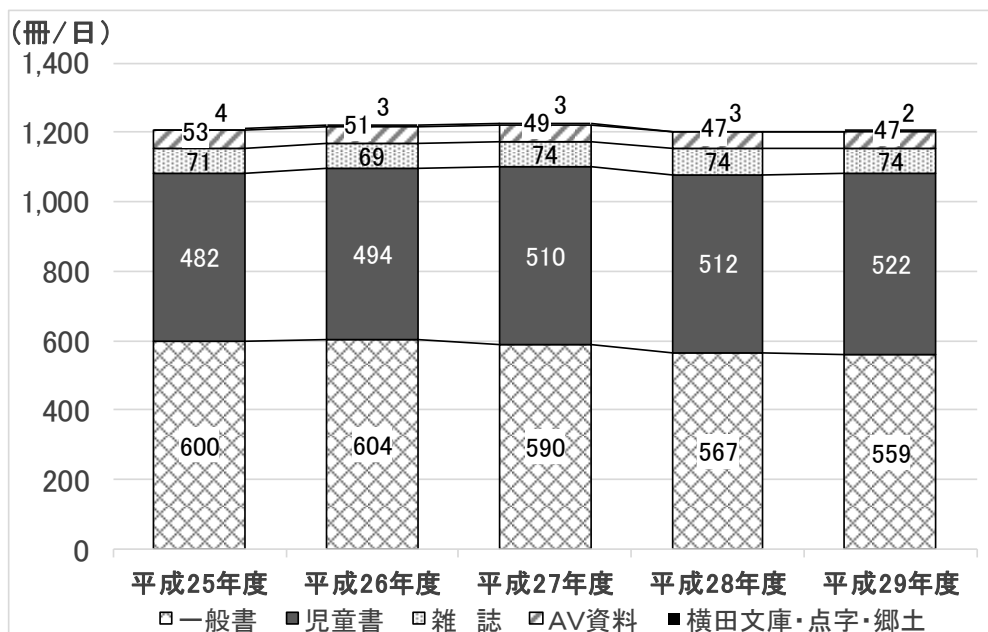


図 2-13 資料区分別での 1 日平均貸出冊数の推移

※「江南市立図書館の概要」2014～2018 年掲載のデータを基に作成

(3) 予約件数・レファレンス件数・相互貸借件数の推移

表 2-11 に示すとおり、予約件数は近年増加しています。レファレンス件数は、平成 27 年度から新たに資料の配架位置の案内をレファレンスとして扱うこととしたことにより大幅に増加しました。自治体間の相互貸借においては、県内の他図書館から借り受ける冊数が貸出冊数を上回っています。

表 2-11 予約件数・レファレンス件数・相互貸借件数

年度	予約件数 (件)	レファレンス件数 (件)	相互貸借		
			貸出冊数 (冊)	借受冊数 (冊)	貸出-借受 (冊)
平成24年度	24,836	63	335	902	-567
平成25年度	23,849	45	288	808	-520
平成26年度	23,392	26	263	686	-423
平成27年度	25,375	693	190	800	-610
平成28年度	27,104	702	277	797	-520

※「日本の図書館」2013～2017年掲載のデータを基に作成

(4) 配本サービスの利用状況

配本サービスの利用状況は表 2-12 のとおりで、貸出は市役所、布袋支所、宮田支所で多く、返却は布袋支所、宮田支所、江南駅で多くなっています。

全ての施設で貸出より返却の利用が多くなっています。

表 2-12 配本サービス施設別貸出・返却冊数

年度	貸出									返却									貸出合計 -返却合計	
	市役所	布袋支所	宮田支所	草井支所	老人福祉センター	北公民館	古知野西公民館	古知野学習等供用施設	布袋南部地区	貸出合計	市役所	布袋支所	宮田支所	草井支所	老人福祉センター	北公民館	古知野西公民館	古知野学習等供用施設		布袋南部地区
平成28年度	1,288	1,170	1,459	935	1,057	316	804	70	7,099	2,169	7,298	6,000	2,394	2,343	669	1,652	292	9,236	32,053	-24,954
平成29年度	1,131	1,229	1,817	931	994	233	827	87	7,249	2,018	8,094	6,587	2,605	2,270	797	1,502	217	9,406	33,496	-26,247

※平成 29、30 年度第 1 回江南市図書館運営委員会会議録 別紙-2 掲載のデータを基に作成

2.7. 他自治体図書館との整備水準の比較

(1) 県内図書館との比較

1) 中央図書館の比較

愛知県内の 37 自治体（町村を除く）の中央図書館の整備状況を比較した結果を表 2-13 に示します。現市立図書館では、開館日数以外の全ての項目が平均を下回る水準にあります。

表 2-13 県内自治体中央図書館の整備状況(1)

No.	館名	奉仕人口 (人)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	貸出数 (冊)	予約件数 (件)	資料費 (千円)	開館日数 (日)
1	江南市立図書館	101,053	962	121,745	399,171	27,104	12,070	338
2	豊田市中央図書館	422,571	12,567	1,762,706	3,310,795	224,755	109,750	305
3	一宮市立中央図書館	386,343	6,702	582,474	1,660,341	258,644	55,936	323
4	岡崎市立中央図書館	382,784	7,895	893,255	2,247,483	244,332	53,091	305
5	豊橋市中央図書館	378,485	5,655	674,947	932,586	54,827	62,209	290
6	春日井市図書館	311,327	4,983	784,900	1,320,118	156,038	40,000	307
7	安城市図書情報館	185,818	6,808	706,388	1,593,033	178,435	94,112	252
8	豊川市中央図書館	185,273	5,773	485,636	946,997	62,301	61,216	300
9	西尾市立図書館	170,734	2,722	722,724	1,006,801	76,869	49,445	298
10	小牧市立図書館	153,655	2,224	327,226	524,752	47,437	47,928	341
11	刈谷市中央図書館	149,262	5,509	735,760	839,347	10,801	45,521	288
12	稲沢市立中央図書館	138,089	4,968	625,393	1,490,040	176,909	37,388	282
13	瀬戸市立図書館	130,908	1,412	309,914	651,228	30,745	28,657	333
14	半田市立図書館	118,733	1,749	428,753	804,480	56,437	30,699	301
15	東海市立中央図書館	113,535	2,411	302,232	750,591	51,541	25,529	307
16	おおぶ文化交流の杜図書館	89,788	3,650	336,655	1,378,619	125,657	40,952	342
17	あま市美和図書館	88,527	754	118,084	220,894	13,493	7,252	299
18	日進市立図書館	88,024	6,102	363,427	1,114,716	38,616	27,045	291
19	知多市立中央図書館	86,084	3,229	327,602	538,188	27,696	19,450	294
20	北名古屋市東図書館	84,433	3,022	185,612	422,267	11,448	20,339	287
21	尾張旭市立図書館	82,605	1,393	205,654	618,558	33,851	19,247	304
22	蒲郡市立図書館	81,291	1,986	272,189	425,593	38,015	21,016	293
23	犬山市立図書館	74,790	4,962	238,165	430,836	9,967	14,793	295
24	碧南市民図書館	71,673	4,327	423,888	368,300	29,802	15,133	295
25	知立市図書館	71,010	2,477	226,321	413,458	13,779	18,511	293
26	豊明市立図書館	68,706	2,923	271,860	440,107	11,339	15,884	287
27	清須市立図書館	67,118	3,339	127,645	228,174	15,144	13,847	287
28	愛西市中央図書館	64,699	2,012	144,170	175,317	3,134	18,416	274
29	田原市中央図書館	64,078	3,972	451,379	765,448	74,863	39,507	290
30	津島市立図書館	64,074	5,900	292,404	406,229	13,867	12,288	334
31	みよし市立中央図書館	60,383	3,807	211,679	386,484	13,187	43,538	218
32	常滑市立図書館	58,240	1,447	203,524	320,538	14,807	10,000	288
33	長久手市中央図書館	55,555	4,201	223,951	476,140	15,317	22,018	285
34	新城図書館（ふるさと情報館）	48,553	2,021	162,130	158,166	887	9,805	326
35	岩倉市図書館	47,758	2,588	177,875	280,082	12,274	18,913	307
36	高浜市立図書館	46,756	1,105	204,901	182,614	12,901	15,592	300
37	弥富市立図書館	44,399	1,978	174,198	142,596	5,424	7,259	301
	平均	130,733	3,771	400,199	766,786	59,261	32,010	299
	平均との差	▲ 29,680	▲ 2,809	▲ 278,454	▲ 367,615	▲ 32,157	▲ 19,940	39

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成、表 2-24 まで同様
 おおぶ文化交流の杜図書館の延床面積は施設パンフレット掲載のデータより

貸出数を開館日1日あたりで、全ての指標を奉仕人口1人あたりで比較しても、現市立図書館では表 2-14 のとおり全ての値が平均を下回ります。

特に蔵書数は最下位の37位、延床面積・資料費も36位と低い水準にあり、中央図書館として相応しい蔵書の充実に向けて、収容スペース及び予算の確保が望まれる状況にあります。

表 2-14 県内自治体中央図書館の整備状況(2)

No.	館名	1日あたり		人口あたり									
		貸出数 (冊/日)	順位	延床面積 (㎡/人)	順位	蔵書冊数 (冊/人)	順位	貸出数 (冊/人)	順位	予約件数 (件/人)	順位	資料費 (千円/人)	順位
1	江南市立図書館	1,180.979	29	0.010	36	1.20	37	3.95	29	0.27	21	0.119	36
2	豊田市中央図書館	10,855.066	1	0.030	22	4.17	8	7.83	7	0.53	7	0.260	16
3	一宮市立中央図書館	5,140.375	5	0.017	28	1.51	35	4.30	27	0.67	5	0.145	33
4	岡崎市立中央図書館	7,368.797	2	0.021	27	2.33	29	5.87	16	0.64	6	0.139	34
5	豊橋市中央図書館	3,215.814	10	0.015	32	1.78	34	2.46	37	0.14	31	0.164	31
6	春日井市図書館	4,300.059	6	0.016	30	2.52	26	4.24	28	0.50	8	0.128	35
7	安城市図書館情報館	6,321.560	3	0.037	16	3.80	14	8.57	5	0.96	4	0.506	3
8	豊川市中央図書館	3,156.657	11	0.031	20	2.62	25	5.11	24	0.34	16	0.330	8
9	西尾市立図書館	3,378.527	9	0.016	31	4.23	7	5.90	15	0.45	12	0.290	12
10	小牧市立図書館	1,538.862	21	0.014	34	2.13	32	3.42	31	0.31	18	0.312	9
11	刈谷市中央図書館	2,914.399	12	0.037	15	4.93	3	5.62	20	0.07	35	0.305	11
12	稲沢市立中央図書館	5,283.830	4	0.036	17	4.53	5	10.79	4	1.28	2	0.271	14
13	瀬戸市立図書館	1,955.640	17	0.011	35	2.37	28	4.97	26	0.23	24	0.219	24
14	半田市立図書館	2,672.691	13	0.015	33	3.61	17	6.78	9	0.48	9	0.259	17
15	東海市立中央図書館	2,444.922	15	0.021	26	2.66	24	6.61	10	0.45	11	0.225	23
16	おおぶ文化交流の杜図書館	4,031.050	7	0.041	13	3.75	15	15.35	1	1.40	1	0.456	4
17	あま市美和図書館	738.776	33	0.009	37	1.33	36	2.50	36	0.15	30	0.082	37
18	日進市立図書館	3,830.639	8	0.069	3	4.13	9	12.66	2	0.44	13	0.307	10
19	知多市立中央図書館	1,830.571	18	0.038	14	3.81	13	6.25	14	0.32	17	0.226	22
20	北名古屋東図書館	1,471.314	23	0.036	18	2.20	31	5.00	25	0.14	32	0.241	19
21	尾張旭市立図書館	2,034.730	16	0.017	29	2.49	27	7.49	8	0.41	15	0.233	20
22	蒲郡市立図書館	1,452.536	25	0.024	24	3.35	20	5.24	22	0.47	10	0.259	18
23	犬山市立図書館	1,460.461	24	0.066	4	3.18	23	5.76	19	0.13	33	0.198	28
24	碧南市民図書館	1,248.475	27	0.060	7	5.91	2	5.14	23	0.42	14	0.211	25
25	知立市図書館	1,411.119	26	0.035	19	3.19	22	5.82	18	0.19	28	0.261	15
26	豊明市立図書館	1,533.474	22	0.043	11	3.96	11	6.41	11	0.17	29	0.231	21
27	清須市立図書館	795.031	32	0.050	9	1.90	33	3.40	32	0.23	25	0.206	26
28	愛西市中央図書館	639.843	34	0.031	21	2.23	30	2.71	35	0.05	36	0.285	13
29	田原市中央図書館	2,639.476	14	0.062	6	7.04	1	11.95	3	1.17	3	0.617	2
30	津島市立図書館	1,216.254	28	0.092	1	4.56	4	6.34	13	0.22	27	0.192	29
31	みよし市立中央図書館	1,772.862	19	0.063	5	3.51	18	6.40	12	0.22	26	0.721	1
32	常滑市立図書館	1,112.979	30	0.025	23	3.49	19	5.50	21	0.25	23	0.172	30
33	長久手市中央図書館	1,670.667	20	0.076	2	4.03	10	8.57	6	0.28	20	0.396	5
34	新城図書館(ふるさと情報館)	485.172	36	0.042	12	3.34	21	3.26	33	0.02	37	0.202	27
35	岩倉市図書館	912.319	31	0.054	8	3.72	16	5.86	17	0.26	22	0.396	6
36	高浜市立図書館	608.713	35	0.024	25	4.38	6	3.91	30	0.28	19	0.333	7
37	弥富市立図書館	473.741	37	0.045	10	3.92	12	3.21	34	0.12	34	0.163	32
	平均	2,570.226		0.036		3.35		6.09		0.40		0.272	
	平均との差	▲ 1,389		▲ 0.026		▲ 2.14		▲ 2.14		▲ 0.13		▲ 0.152	

2) 市全体の整備状況の比較

地区図書館・分館などを含めた自治体内全体での整備状況（表 2-15 参照）でも、本市は多くの項目が平均に達していません。

表 2-15 県内自治体の市内全体での図書館整備状況(1)

No.	自治体名	館数 (館)	H11以降 合併有無 (◎は2回)	奉仕人口 (人)	蔵書冊数 (冊)	貸出数 (冊)	予約件数 (件)	資料費 (千円)
1	江南市	1		101,053	121,745	399,171	27,104	12,070
2	豊田市	2	○	422,571	2,375,432	5,123,262	252,298	151,007
3	一宮市	7	○	386,343	1,062,905	3,031,821	290,049	102,493
4	岡崎市	3	○	382,784	1,059,182	2,820,585	369,977	62,565
5	豊橋市	4		378,485	1,003,918	1,791,728	172,231	62,209
6	春日井市	2		311,327	1,002,138	1,891,579	156,038	40,000
7	安城市	2		185,818	904,298	2,401,097	195,457	94,112
8	豊川市	6	◎	185,273	679,500	1,221,799	63,043	61,216
9	西尾市	5	○	170,734	750,071	1,051,733	79,144	49,445
10	小牧市	5		153,655	564,681	1,186,865	122,661	47,928
11	刈谷市	4		149,262	905,458	1,113,819	14,544	58,103
12	稲沢市	4	○	138,089	646,829	1,522,969	177,921	37,629
13	瀬戸市	3		130,908	309,914	767,517	30,745	32,925
14	半田市	3		118,733	503,321	1,070,584	64,536	31,515
15	東海市	1		113,535	302,232	750,591	51,541	25,529
16	大府市	2		89,788	380,683	1,425,241	126,377	43,655
17	あま市	1	○	88,527	118,084	220,894	13,493	7,252
18	日進市	1		88,024	363,427	1,114,716	38,616	27,045
19	知多市	2		86,084	357,740	575,446	29,346	19,450
20	北名古屋市	2	○	84,433	272,046	580,430	14,043	20,339
21	尾張旭市	1		82,605	205,654	618,558	33,851	19,247
22	蒲郡市	2		81,291	315,452	453,972	44,878	21,016
23	犬山市	2		74,790	259,208	440,431	10,347	15,092
24	碧南市	4		71,673	546,079	519,162	35,105	21,288
25	知立市	1		71,010	226,321	413,458	13,779	18,511
26	豊明市	2		68,706	298,162	490,815	14,020	17,120
27	清須市	2	◎	67,118	127,645	234,930	16,296	13,847
28	愛西市	3	○	64,699	207,972	245,711	5,869	18,416
29	田原市	5	◎	64,078	488,996	765,448	74,863	39,507
30	津島市	2		64,074	305,687	435,705	15,371	12,288
31	みよし市	2		60,383	211,679	386,484	16,080	45,100
32	常滑市	2		58,240	254,132	444,140	14,807	11,917
33	長久手市	1		55,555	223,951	476,140	15,317	22,018
34	新城市	1	○	48,553	162,130	158,166	887	9,805
35	岩倉市	1		47,758	177,875	280,082	12,274	18,913
36	高浜市	2		46,756	216,894	215,684	15,529	15,592
37	弥富市	1	○	44,399	174,198	142,596	5,424	7,259
	平均	3		130,733	488,801	994,144	71,185	35,498
	平均との差	▲ 2		▲ 29,680	▲ 367,056	▲ 594,973	▲ 44,081	▲ 23,428

本市の奉仕人口1人あたりの貸出数は、中央館のみの比較での29位から32位に低下します。現市立図書館での収容可能冊数が限られており、新しい資料の購入が抑制されていることが影響し、貸出数が低い水準に止まっていると考えられます(表 2-16 参照)。

表 2-16 県内自治体の市内全体での図書館整備状況(2)

No.	自治体名	人口あたり							
		蔵書冊数 (冊/人)	順位	貸出数 (冊/人)	順位	予約件数 (件/人)	順位	資料費 (千円/人)	順位
1	江南市	1.20	37	3.95	32	0.27	22	0.119	36
2	豊田市	5.62	4	12.12	4	0.60	8	0.357	8
3	一宮市	2.75	30	7.85	9	0.75	7	0.265	18
4	岡崎市	2.77	29	7.37	14	0.97	5	0.163	34
5	豊橋市	2.65	32	4.73	30	0.46	14	0.164	32
6	春日井市	3.22	26	6.08	24	0.50	11	0.128	35
7	安城市	4.87	5	12.92	2	1.05	4	0.506	3
8	豊川市	3.67	21	6.59	21	0.34	19	0.330	10
9	西尾市	4.39	9	6.16	23	0.46	13	0.290	14
10	小牧市	3.67	20	7.72	10	0.80	6	0.312	11
11	刈谷市	6.07	3	7.46	13	0.10	35	0.389	7
12	稲沢市	4.68	7	11.03	6	1.29	2	0.272	16
13	瀬戸市	2.37	34	5.86	27	0.23	28	0.252	21
14	半田市	4.24	13	9.02	7	0.54	10	0.265	17
15	東海市	2.66	31	6.61	20	0.45	15	0.225	26
16	大府市	4.24	12	15.87	1	1.41	1	0.486	4
17	あま市	1.33	36	2.50	37	0.15	32	0.082	37
18	日進市	4.13	15	12.66	3	0.44	16	0.307	12
19	知多市	4.16	14	6.68	19	0.34	18	0.226	25
20	北名古屋市	3.22	25	6.87	17	0.17	31	0.241	23
21	尾張旭市	2.49	33	7.49	12	0.41	17	0.233	24
22	蒲郡市	3.88	18	5.58	29	0.55	9	0.259	20
23	犬山市	3.47	23	5.89	25	0.14	33	0.202	30
24	碧南市	7.62	2	7.24	15	0.49	12	0.297	13
25	知立市	3.19	28	5.82	28	0.19	30	0.261	19
26	豊明市	4.34	11	7.14	16	0.20	29	0.249	22
27	清須市	1.90	35	3.50	34	0.24	26	0.206	27
28	愛西市	3.21	27	3.80	33	0.09	36	0.285	15
29	田原市	7.63	1	11.95	5	1.17	3	0.617	2
30	津島市	4.77	6	6.80	18	0.24	27	0.192	31
31	みよし市	3.51	22	6.40	22	0.27	23	0.747	1
32	常滑市	4.36	10	7.63	11	0.25	25	0.205	28
33	長久手市	4.03	16	8.57	8	0.28	21	0.396	5
34	新城市	3.34	24	3.26	35	0.02	37	0.202	29
35	岩倉市	3.72	19	5.86	26	0.26	24	0.396	6
36	高浜市	4.64	8	4.61	31	0.33	20	0.333	9
37	弥富市	3.92	17	3.21	36	0.12	34	0.163	33
	平均	3.84		7.16		0.45		0.287	
	平均との差	▲ 2.63		▲ 3.21		▲ 0.18		▲ 0.168	

(2) 全国の類似自治体との比較

1) 中央図書館の比較

総務省による人口と産業構造（産業別就業人口の構成比）に基づく市区町村の類型化で、本市と同類型（平成29年度：一般市のⅢ－2（人口10万人以上15万人未満、Ⅱ次Ⅲ次90%以上、Ⅲ次65%未満））に属する30自治体（本市を含む）の図書館の整備状況を比較した結果を表2-17に示します。

本市の奉仕人口は30自治体の中で29位で、開館日数は平均より40日多くなっていますが、その他の項目は平均を下回っています。

表 2-17 類似自治体の中央図書館の図書館整備状況(1)

No.	館名	奉仕人口 (人)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	貸出数 (冊)	予約件数 (件)	資料費 (千円)	開館日数 (日)
1	江南市立図書館	101,053	962	121,745	399,171	27,104	12,070	338
2	石巻市図書館	148,798	1,463	186,843	250,295	9,515	10,306	293
3	各務原市立中央図書館	148,409	4,015	550,311	957,230	76,104	26,722	281
4	周南市立中央図書館	147,482	3,681	338,069	385,235	81,549	34,425	274
5	藤枝市立駅南図書館	146,609	3,299	364,139	626,430	52,480	41,659	302
6	古河市古河図書館	144,715	604	127,968	122,968	5,512	3,878	332
7	桑名市立中央図書館	143,149	3,169	335,745	757,849	50,753		302
8	尾道市立中央図書館	142,462	3,376	539,921	711,855	18,204	26,494	301
9	焼津市立焼津図書館	142,016	1,422	202,897	538,625	55,842	18,268	288
10	稲沢市立中央図書館	138,089	4,968	625,393	1,490,040	176,909	37,388	282
11	富士宮市立中央図書館	134,526	3,802	422,310	738,504	48,360	46,920	276
12	瀬戸市立図書館	130,908	1,412	309,914	651,228	30,745	28,657	333
13	草津市立図書館	130,385	2,781	324,423	721,302	72,020	16,751	274
14	大東市立中央図書館	123,397	891	146,547	307,327	22,813	12,563	314
15	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	3,072	301,622	625,504	29,238	23,229	295
16	佐野市立図書館	121,183	3,042	268,114	357,746	9,368	15,057	314
17	長浜市立長浜図書館	120,995	1,749	269,262	304,722	107,004	33,362	296
18	半田市立図書館	118,733	1,749	428,753	804,480	56,437	30,699	301
19	防府市立防府図書館	117,713	3,527	455,645	574,497	26,480	28,171	298
20	掛川市立中央図書館	117,609	4,611	333,809	584,586	65,281	25,616	284
21	桐生市立図書館	116,934	2,369	302,538	266,721	9,989	24,515	287
22	東近江市立八日市図書館	115,304	2,289	299,508	320,220	56,045	15,616	285
23	加須市立加須図書館	114,289	2,480	248,477	236,341	56,510	36,665	289
24	丸亀市立中央図書館	113,587	3,405	342,759	312,242	12,411	32,213	299
25	東海市立中央図書館	113,535	2,411	302,232	750,591	51,541	25,529	307
26	白山市立松任図書館	112,829	4,337	337,841	507,742	13,259	26,876	297
27	彦根市立図書館	112,786	2,743	756,285	583,378	40,236	26,865	278
28	小松市立図書館	108,573	1,840	202,584	246,260	25,193	15,978	303
29	可児市立図書館	101,148	1,528	170,661	293,295	16,968	20,936	292
30	三条市立図書館	100,884	2,233	284,225	357,495	37,244	22,629	325
	平均	125,015	2,641	330,018	526,129	44,704	24,830	298
	平均との差	▲ 23,962	▲ 1,679	▲ 208,273	▲ 126,958	▲ 17,600	▲ 11,932	40

県内自治体での比較と同様に、奉仕人口1人あたりの値でも現市立図書館は蔵書数と資料費で特に低い水準にあります（表 2-18 参照）。貸出・予約の値は16位～18位で、平均に近い利用状況です。

表 2-18 類似自治体の中央図書館の図書館整備状況(2)

No.	館名	1日あたり				人口あたり							
		貸出数 (冊/日)	順位	延床面積 (㎡/人)	順位	蔵書冊数 (冊/人)	順位	貸出数 (冊/人)	順位	予約件数 (件/人)	順位	資料費 (千円/人)	順位
1	江南市立図書館	1,181	18	0.010	28	1.20	28	3.95	16	0.27	17	0.119	26
2	石巻市図書館	854	27	0.010	27	1.26	27	1.68	29	0.06	29	0.069	28
3	各務原市立中央図書館	3,407	2	0.027	7	3.71	5	6.45	4	0.51	6	0.180	20
4	周南市立中央図書館	1,406	17	0.025	10	2.29	20	2.61	23	0.55	4	0.233	11
5	藤枝市立駅南図書館	2,074	11	0.023	13	2.48	16	4.27	15	0.36	14	0.284	3
6	古河市古河図書館	370	30	0.004	30	0.88	30	0.85	30	0.04	30	0.027	29
7	桑名市立中央図書館	2,509	6	0.022	14	2.35	19	5.29	7	0.35	16	0.000	-
8	尾道市立中央図書館	2,365	8	0.024	12	3.79	4	5.00	10	0.13	24	0.186	19
9	焼津市立焼津図書館	1,870	15	0.010	26	1.43	26	3.79	17	0.39	11	0.129	23
10	稲沢市立中央図書館	5,284	1	0.036	3	4.53	2	10.79	1	1.28	1	0.271	6
11	富士宮市立中央図書館	2,676	3	0.028	6	3.14	7	5.49	6	0.36	13	0.349	1
12	瀬戸市立図書館	1,956	13	0.011	25	2.37	18	4.97	11	0.23	19	0.219	14
13	草津市立図書館	2,632	5	0.021	17	2.49	15	5.53	5	0.55	5	0.128	24
14	大東市立中央図書館	979	25	0.007	29	1.19	29	2.49	25	0.18	22	0.102	27
15	新居浜市立別子銅山記念図書館	2,120	9	0.025	8	2.47	17	5.11	9	0.24	18	0.190	18
16	佐野市立図書館	1,139	19	0.025	9	2.21	22	2.95	19	0.08	28	0.124	25
17	長浜市立長浜図書館	1,029	23	0.014	24	2.23	21	2.52	24	0.88	2	0.276	5
18	半田市立図書館	2,673	4	0.015	23	3.61	6	6.78	2	0.48	9	0.259	7
19	防府市立防府図書館	1,928	14	0.030	5	3.87	3	4.88	13	0.22	21	0.239	8
20	掛川市立中央図書館	2,058	12	0.039	1	2.84	10	4.97	12	0.56	3	0.218	15
21	桐生市立図書館	929	26	0.020	19	2.59	14	2.28	26	0.09	27	0.210	16
22	東近江市立八日市図書館	1,124	20	0.020	20	2.60	13	2.78	21	0.49	8	0.135	22
23	加須市立加須図書館	818	28	0.022	16	2.17	23	2.07	28	0.49	7	0.321	2
24	丸亀市立中央図書館	1,044	22	0.030	4	3.02	8	2.75	22	0.11	26	0.284	4
25	東海市立中央図書館	2,445	7	0.021	18	2.66	12	6.61	3	0.45	10	0.225	12
26	白山市立松任図書館	1,710	16	0.038	2	2.99	9	4.50	14	0.12	25	0.238	9
27	彦根市立図書館	2,098	10	0.024	11	6.71	1	5.17	8	0.36	15	0.238	10
28	小松市立図書館	813	29	0.017	21	1.87	24	2.27	27	0.23	20	0.147	21
29	可児市立図書館	1,004	24	0.015	22	1.69	25	2.90	20	0.17	23	0.207	17
30	三条市立図書館	1,100	21	0.022	15	2.82	11	3.54	18	0.37	12	0.224	13
	平均	1,787		0.021		2.65		4.18		0.35		0.201	
	平均との差	▲ 606		▲ 0.012		▲ 1.44		▲ 0.23		▲ 0.09		▲ 0.082	

2) 市全体の整備状況の比較

類似自治体の市全体の整備状況を比較しても、蔵書冊数など全ての項目が平均を下回っています（表 2-19 参照）。

表 2-19 類似自治体の市内全体での図書館整備状況（1）

No.	自治体名	館数 (館)	H11以降 合併有無 (◎は2回)	奉仕人口 (人)	延床 面積	蔵書冊数 (冊)	貸出数 (冊)	予約件数 (件)	資料費 (千円)
1	江南市	1		101,053	962	121,745	399,171	27,104	12,070
2	石巻市	9	○	148,798	2,672	256,848	288,942	10,798	10,306
3	各務原市	4	○	148,409	4,691	604,296	1,150,175	80,763	26,722
4	周南市	8	○	147,482	6,751	657,776	837,275	102,128	38,045
5	藤枝市	5	○	146,609	5,117	634,955	938,084	86,902	41,659
6	古河市	3	○	144,715	3,508	300,034	318,789	8,904	14,875
7	桑名市	3	○	143,149	6,695	544,624	1,209,514	73,045	9,311
8	尾道市	7	◎	142,462	7,076	599,613	715,397	37,947	26,494
9	焼津市	3	○	142,016	2,915	370,509	762,699	65,005	27,098
10	稲沢市	4	○	138,089	8,013	646,829	1,522,969	177,921	37,629
11	富士宮市	5	○	134,526	5,092	599,667	1,051,895	72,795	56,336
12	瀬戸市	3		130,908	1,419	309,914	767,517	30,745	32,925
13	草津市	3		130,385	3,742	489,578	1,159,496	129,586	30,262
14	大東市	4		123,397	3,683	460,178	806,392	47,360	35,165
15	新居浜市	3	○	122,347	3,235	342,174	729,168	31,735	25,081
16	佐野市	4	○	121,183	4,948	475,537	545,266	13,402	27,764
17	長浜市	7	◎	120,995	8,820	1,056,588	969,293	152,085	33,362
18	半田市	3		118,733	2,047	503,321	1,070,584	64,536	31,515
19	防府市	3		117,713	3,543	466,716	598,036	27,090	28,171
20	掛川市	6	○	117,609	9,386	663,903	862,874	74,997	25,616
21	桐生市	3	○	116,934	3,131	475,048	352,921	11,264	28,415
22	東近江市	9	◎	115,304	10,142	997,959	980,213	82,177	55,012
23	加須市	4	○	114,289	6,475	550,587	628,827	71,165	36,665
24	丸亀市	4	○	113,587	5,248	569,788	816,975	18,539	34,720
25	東海市	1		113,535	2,411	302,232	750,591	51,541	25,529
26	白山市	6	○	112,829	6,317	552,481	767,608	25,129	41,139
27	彦根市	2		112,786	2,744	780,545	606,722	42,437	29,854
28	小松市	4		108,573	3,384	275,322	412,609	29,956	23,702
29	可児市	4	○	101,148	2,115	287,253	521,559	38,284	20,936
30	三条市	5	○	100,884	2,658	371,795	487,649	41,639	24,342
	平均	4		125,015	4,631	508,927	767,640	57,566	29,691
	平均との差	▲ 3		▲ 23,962	▲ 3,669	▲ 387,182	▲ 368,469	▲ 30,462	▲ 17,621

奉仕人口1人あたりでは蔵書冊数が最下位、資料費は27位、貸出数も26位となり、県内自治体の比較と同様に類似自治体の中でも低い水準に止まっています（表 2-20 参照）。

表 2-20 類似自治体の市内全体での図書館整備状況（2）

No.	自治体名	人口あたり									
		延床面積	順位	蔵書冊数 (冊/人)	順位	貸出数 (冊/人)	順位	予約件数 (件/人)	順位	資料費 (千円/人)	順位
1	江南市	0.010	30	1.20	30	3.95	26	0.27	20	0.119	27
2	石巻市	0.018	27	1.73	29	1.94	30	0.07	29	0.069	29
3	各務原市	0.032	14	4.07	14	7.75	8	0.54	9	0.180	26
4	周南市	0.046	10	4.46	9	5.68	17	0.69	5	0.258	12
5	藤枝市	0.035	13	4.33	11	6.40	14	0.59	8	0.284	7
6	古河市	0.024	23	2.07	28	2.20	29	0.06	30	0.103	28
7	桑名市	0.047	8	3.80	18	8.45	5	0.51	12	0.065	30
8	尾道市	0.050	7	4.21	13	5.02	23	0.27	21	0.186	25
9	焼津市	0.021	26	2.61	25	5.37	20	0.46	13	0.191	24
10	稲沢市	0.058	4	4.68	8	11.03	1	1.29	1	0.272	9
11	富士宮市	0.038	12	4.46	10	7.82	7	0.54	11	0.419	2
12	瀬戸市	0.011	29	2.37	27	5.86	16	0.23	23	0.252	13
13	草津市	0.029	18	3.75	19	8.89	3	0.99	3	0.232	17
14	大東市	0.030	17	3.73	20	6.53	13	0.38	16	0.285	6
15	新居浜市	0.026	20	2.80	23	5.96	15	0.26	22	0.205	23
16	佐野市	0.041	11	3.92	17	4.50	25	0.11	27	0.229	18
17	長浜市	0.073	3	8.73	1	8.01	6	1.26	2	0.276	8
18	半田市	0.017	28	4.24	12	9.02	2	0.54	10	0.265	10
19	防府市	0.030	16	3.96	16	5.08	22	0.23	24	0.239	16
20	掛川市	0.080	2	5.65	4	7.34	9	0.64	6	0.218	21
21	桐生市	0.027	19	4.06	15	3.02	28	0.10	28	0.243	14
22	東近江市	0.088	1	8.66	2	8.50	4	0.71	4	0.477	1
23	加須市	0.057	5	4.82	7	5.50	18	0.62	7	0.321	4
24	丸亀市	0.046	9	5.02	5	7.19	10	0.16	26	0.306	5
25	東海市	0.021	24	2.66	24	6.61	12	0.45	14	0.225	19
26	白山市	0.056	6	4.90	6	6.80	11	0.22	25	0.365	3
27	彦根市	0.024	22	6.92	3	5.38	19	0.38	18	0.265	11
28	小松市	0.031	15	2.54	26	3.80	27	0.28	19	0.218	20
29	可児市	0.021	25	2.84	22	5.16	21	0.38	17	0.207	22
30	三条市	0.026	21	3.69	21	4.83	24	0.41	15	0.241	15
	平均	0.037		4.10		6.12		0.46		0.241	
	平均との差	▲ 0.028		▲ 2.89		▲ 2.17		▲ 0.19		▲ 0.121	

(3) 全国の人口規模 10 万人~15 万人の自治体との比較

1) 中央図書館の比較

現市立図書館の状況について、「日本の図書館 2017」掲載の奉仕人口が 10 万人以上 15 万人未満の自治体の中央図書館の平均値と比較します。現市立図書館では、開館日数以外の全ての項目で平均を下回っています（表 2-21 参照）。奉仕人口 1 人あたりの値では、貸出・予約が平均に近い順位にあるのに対して、延床面積が 98 位、蔵書冊数が 99 位と低水準にあります（表 2-22 参照）。

表 2-21 人口 10~15 万人自治体の中央図書館の平均との比較 (1)

	奉仕人口 (人)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	貸出数 (冊)	予約件数 (件)	資料費 (千円)	開館日数 (日)
江南市立図書館	101,053	962	121,745	399,171	27,104	12,070	338
104自治体の 中央図書館の平均	123,312	2,804	322,563	488,732	54,039	27,367	298
平均との差	▲ 22,259	▲ 1,842	▲ 200,818	▲ 89,561	▲ 26,935	▲ 15,297	40

表 2-22 人口 10~15 万人自治体の中央図書館の平均との比較 (2)

	1日あたり		人口あたり									
	貸出数 (冊/日)	順位	延床面積 (㎡/人)	順位	蔵書冊数 (冊/人)	順位	貸出数 (冊/日)	順位	予約件数 (件/日)	順位	資料費 (千円/日)	順位
江南市立図書館	1,180.979	68	0.010	98	1.20	99	3.95	47	0.27	63	0.119	82
104自治体の 中央図書館の平均	1,630.714	/	0.023	/	2.62	/	3.96	/	0.43	/	0.221	/
平均との差	▲ 450	/	▲ 0.013	/	▲ 1.42	/	▲ 0.01	/	▲ 0.17	/	▲ 0.102	/

2) 市全体の整備状況の比較

自治体内全体の状況を比較しても、本市の整備水準は平均に達せず、特に蔵書冊数の少なさが目立ちます（表 2-23 参照）。人口 1 人あたりの蔵書冊数は 103 位で、非常に低い水準となっています（表 2-24 参照）。

表 2-23 人口 10~15 万人自治体の平均との比較(1)

	館数 (館)	奉仕人口 (人)	蔵書冊数 (冊)	貸出数 (冊)	予約件数 (件)	資料費 (千円)
江南市	1	101,053	121,745	399,171	27,104	12,070
104自治体の平均	5	123,312	489,959	763,418	80,147	30,550
平均との差	▲ 4	▲ 22,259	▲ 368,214	▲ 364,247	▲ 53,043	▲ 18,480

表 2-24 人口 10~15 万人自治体の平均との比較(2)

	人口あたり							
	蔵書冊数 (冊/人)	順位	貸出数 (冊/人)	順位	予約件数 (件/人)	順位	資料費 (千円/人)	順位
江南市	1.20	103	3.95	81	0.27	71	0.119	89
104自治体の平均	3.98	/	6.16	/	0.64	/	0.247	/
平均との差	▲ 2.78	/	▲ 2.21	/	▲ 0.37	/	▲ 0.128	/

3. 江南市の概要・まちづくりの方向性と図書館の役割

3.1. 江南市の概要

(1) 江南市の歴史・変遷

濃尾平野北部、木曾川の南岸に位置する本市は肥沃な扇状地であり、温暖な気候に恵まれています。

江南の地には古くは先土器時代から人が住み、狩猟や採集で生活していました。市内では縄文時代の遺跡や土器の破片などが発見されています。その後、4世紀から6世紀の古墳時代には二子山古墳や富士塚古墳が築造されており、有力な豪族によって統治されていたことがうかがえます。



図 3-1 二子山古墳
出典) 江南市観光協会HP

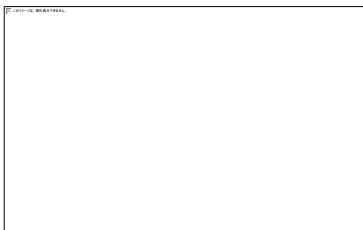


図 3-2 曼陀羅寺書院

関ヶ原の戦いの折、徳川方の武将、池田輝政らが戦会議を開いた所
出典) 江南市HP

応仁の乱後は豪商・生駒氏がこの地に移り住み、戦国時代になると生駒の方が織田信長の室として嫁いだことから一族の地位が確立しました。市内には生駒屋敷跡や富士塚の碑など、戦国武将にまつわる史跡が現在も多く残っています。また、後醍醐天皇が創建した古刹・曼陀羅寺には、織田・豊臣・徳川氏から下付された古文書が多く残されています。

17世紀頃築かれたお囲い堤により洪水の心配がなくなると、木曾川沖積層の砂質土壌を活かした茶・桑・大豆・大根などの畑作が盛んになり、柳街道が通っていることから物資の集積場として繁栄しました。

明治以降は養蚕による絹織物、その後は人絹（化学繊維）織物の室内装飾品を多く生産し、機械金属工業・食品加工業も伸展しました。

大正元年に現在の名鉄犬山線が開通すると、より交通の利便性が高まり、周辺都市との結び付きも強まりました。

昭和29年6月1日には丹羽郡古知野町・布袋町、葉栗郡宮田町・草井村の4か町村の合併により本市が発足しました。昭和30年代半ばから昭和50年頃にかけて、江南団地の誘致などにより大幅に人口が増加し、名古屋圏のベッドタウンとしての機能を強めながら発展し、現在に至っています。



図 3-3 市制祝賀式（昭和30年）
出典) 江南市歴史民俗資料館HP

(2) 人口

平成 30 年 4 月末現在の総人口は 100,754 人、世帯数は 40,840 世帯であり、市政施行の昭和 29 年から平成 29 年まで、図 3-4 のとおり推移しています。

現在も総人口の 9.8%が居住する江南団地（藤ヶ丘）やその他の宅地の整備が進んだ時期に急速に人口が増えましたが、平成 22 年で増加は止まり、平成 25 年の微増後は減少傾向が続いています。世帯数は増加していますが、一世帯あたりの平均人口は昭和 29 年の 5.3 人から平成 29 年の 2.5 人へと継続して減少しています。

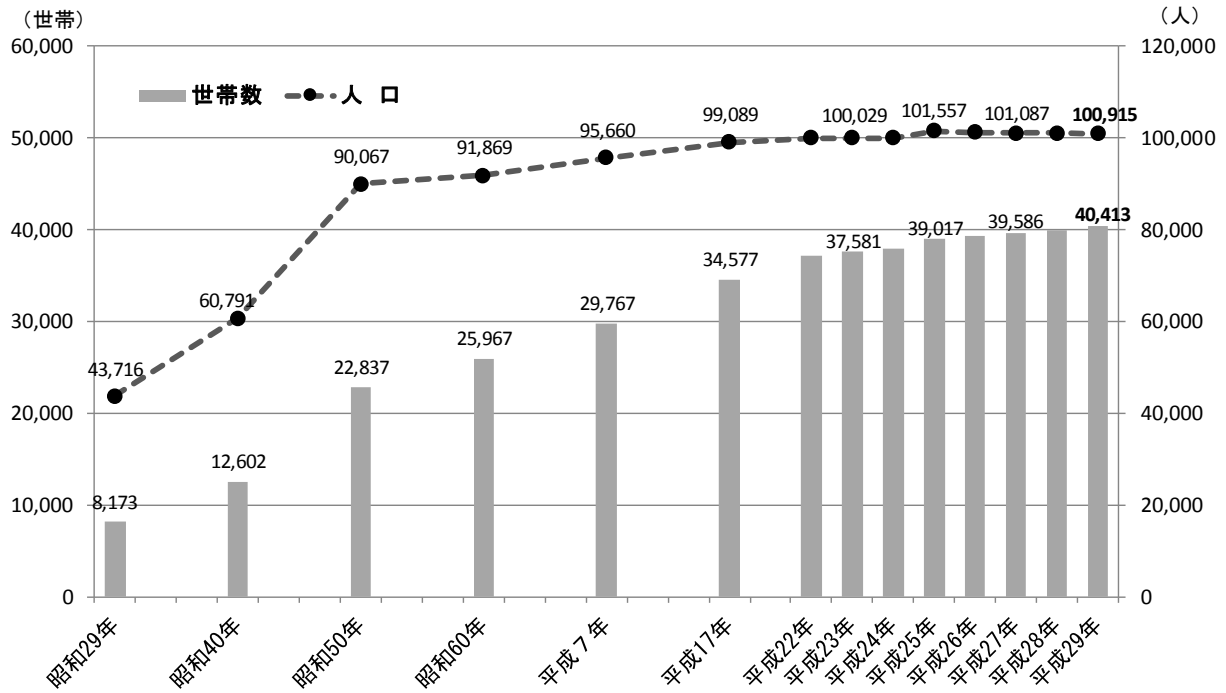


図 3-4 住民基本台帳人口と世帯数の推移

※各年 4 月 1 日、昭和 29 年のみ 6 月 1 日
江南市HP「こうなんの統計」掲載のデータを基に作成

年齢別の人口構造は図 3-5 のとおりで、平成 17 年から平成 27 年の 10 年間で年少人口と生産年齢人口が約 12%減少したのに対し、65 歳以上人口は 44.4%増加し、高齢化が進行しています。平成 27 年の高齢化率は 26.24%で、全国平均 26.64%より若干低く、愛知県平均 23.79%を上回っている状況です。

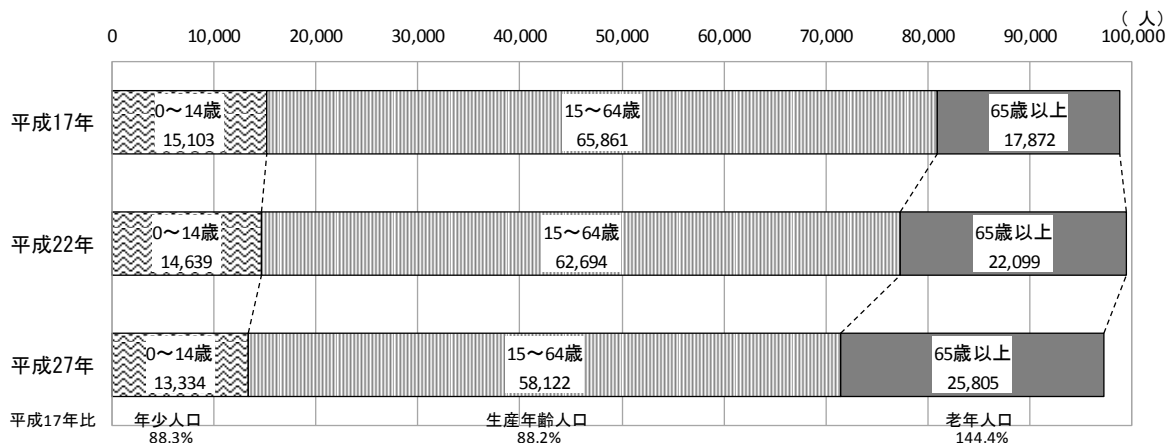


図 3-5 年齢別人口構成の推移

※国勢調査結果（総務省統計局）を基に作成

「江南市人口ビジョン」によれば、本市では人口の減少が続き、平成 72 年（2060 年）の人口は約 8 万人となる見込みです。65 歳以上の人口は平成 52 年を頂点に減少に転じると予想されますが、平成 47 年以降は高齢化率が継続して 30%以上で推移する見込みです（図 3-6 参照）。

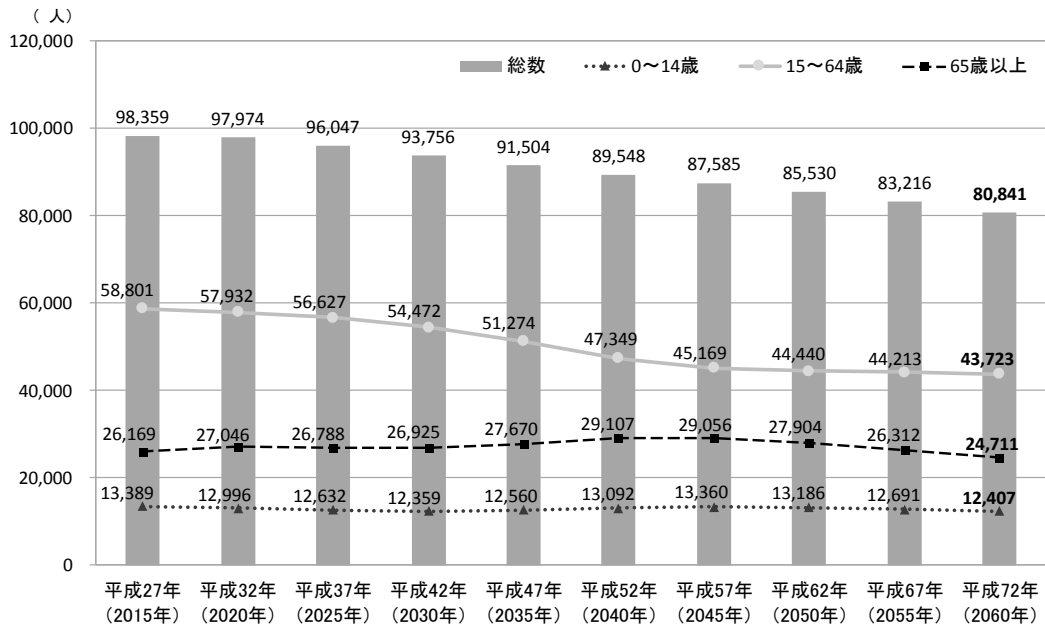


図 3-6 江南市の将来人口推計

※「江南市人口ビジョン」を基に作成（平成 27 年は国勢人口結果を使用）

(3) 通勤・通学動向

本市は夜間人口が昼間人口を上回り、宅地が多い住宅都市（ベッドタウン）です。夜間人口に対する昼間人口の割合は平成 27 年の国勢調査で 84.1%であり、これまでも大きな変化なく 80%台で推移してきました。

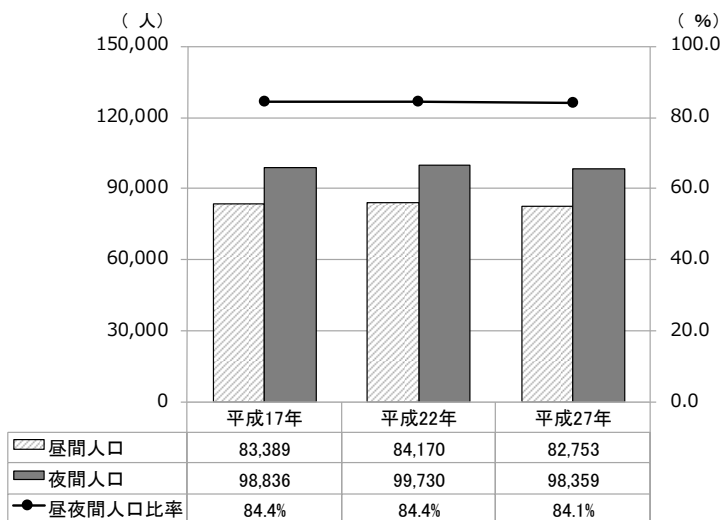


図 3-7 昼夜間人口の推移

※国勢調査結果（総務省統計局）を基に作成

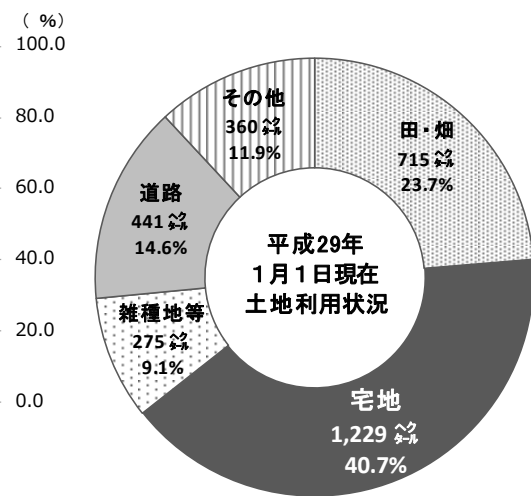


図 3-8 土地利用状況

※江南市HP「こうなんの統計」掲載のデータを基に作成

平成 27 年の国勢調査では昼間に市外へ流出する人口のうち就業者が約 90%を占め、通学者は約 10%です。

市外の通勤・通学地は名古屋市が約 27%と最も多く、市外から本市へ通勤・通学している人は、一宮市の常住者が最も多く約 29%を占め、岐阜県からの通勤・通学も約 17%を占めています。

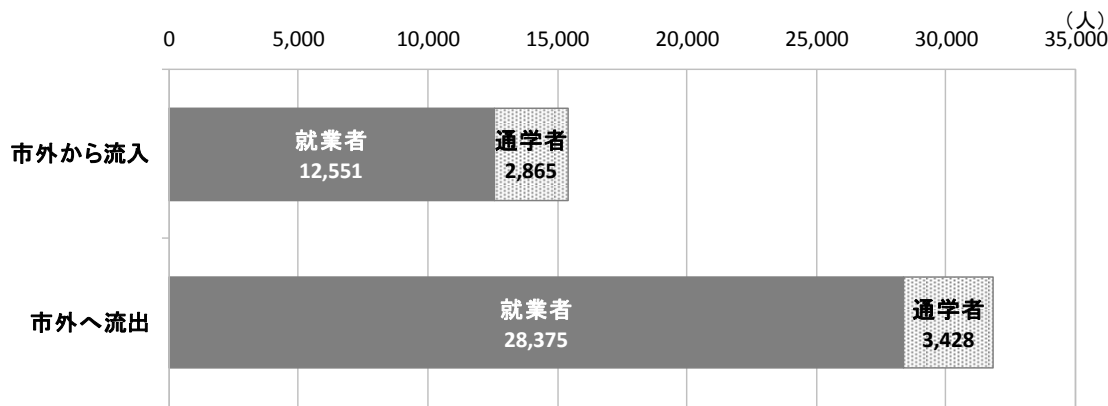


図 3-9 移動人口の通勤・通学割合

※国勢調査結果（総務省統計局）を基に作成、図 3-10, 11 も同様

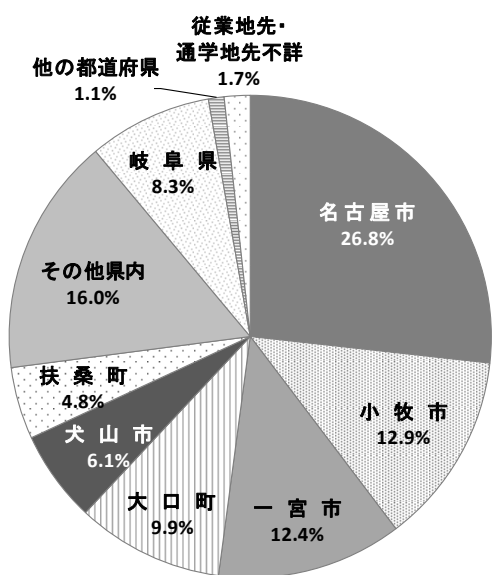


図 3-10 市外へ流出する人の通勤・通学先

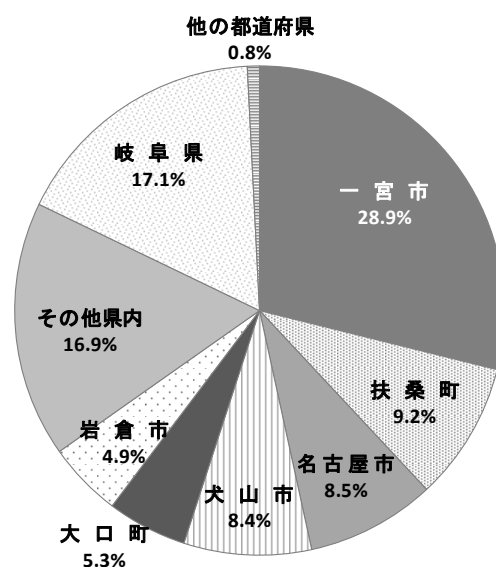


図 3-11 市内へ通勤・通学する人の常住地

(4) 産業・経済動向

1) 工業動向

平成 26 年度までの推移では、市内の事業所数・従業者数は微減傾向にあります。事業所の従業者規模は 4～9 人が半数以上で 500 人以上の事業所は無く、小規模の事業所が多くを占めています。

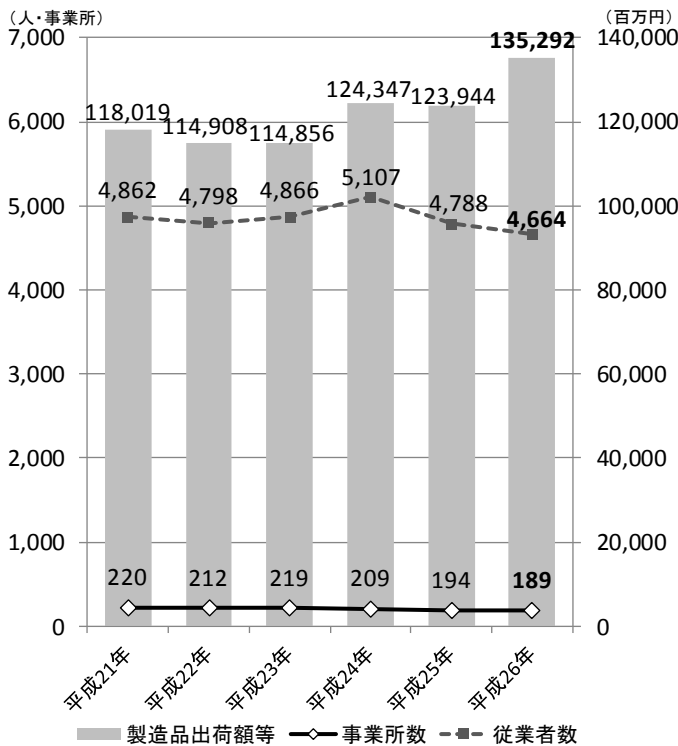


図 3-12 事業所、従業者数、製造品出荷額等の推移
(従業員4人以上の事業所)

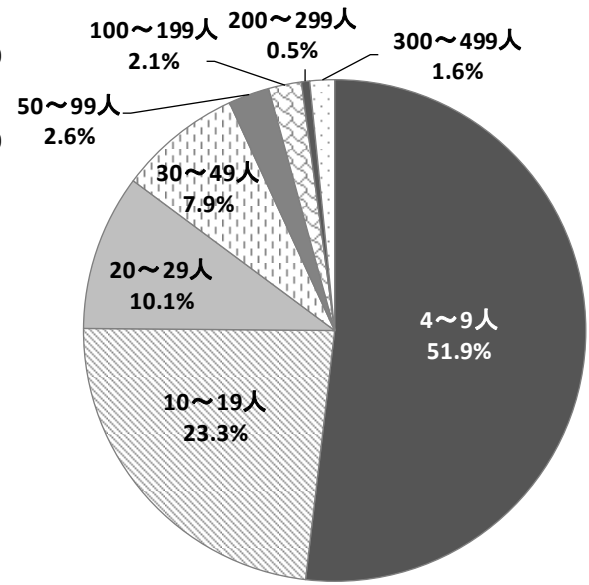


図 3-13 従業者規模別事業所数
(平成26年12月31日現在)

※工業統計調査結果(経済産業省)を基に作成、図3-13も同様

本市はインテリア織物の産地として発展し、中でもカーテン地は、デザイン・品質・量ともに全国から高い評価を得ています。市内には紡績工場のほかにも、乳製品や金属製品の工場があり、製造業が主要産業となっています。また、豊富で良質な地下水を利用した地酒やきしめんなどの麺類も生産され、土産物に創作和菓子も人気があります。

表 3-1 産業(中分類)別事業所数・従業者数及び製造品出荷額等
(平成26年12月31日現在:上位10業種)

★事業所数 上位10業種 (従業員4人以上の事業所)			★従業者数 上位10業種			★製造品出荷額等 上位10業種 (単位:万円)		
No.	業種 (産業中分類)	事業所数	No.	業種 (産業中分類)	従業者数	No.	業種 (産業中分類)	製造品 出荷額等
1	繊維	37	1	食料品	990	1	食料品	4,104,504
2	生産用機械	31	2	プラスチック	679	2	生産用機械	2,240,434
3	金属製品	30	3	生産用機械	611	3	プラスチック	1,201,433
4	プラスチック	14	4	繊維	552	4	繊維	1,008,657
5	食料品	12	5	金属製品	471	5	金属製品	991,791
6	はん用機械	10	6	輸送機械	228	6	輸送機械	427,033
7	輸送機械	10	7	その他	225	7	窯業・土石	417,695
8	家具・装備品	6	8	ゴム製品	193	8	印刷	277,246
9	印刷	6	9	窯業・土石	137	9	パルプ・紙	207,673
10	窯業・土石	6	10	パルプ・紙	119	10	はん用機械	169,764

※工業統計調査結果(経済産業省)を基に作成

2) 商業動向

飲食店を除いた年間商品販売額は平成9年まで増加を続けた後、大きな変化なく推移し、平成26年には大幅に減少しています。また、従業者数は平成14年を頂点に減少傾向にあり、商店数は昭和57年以降緩やかな減少を続けています。

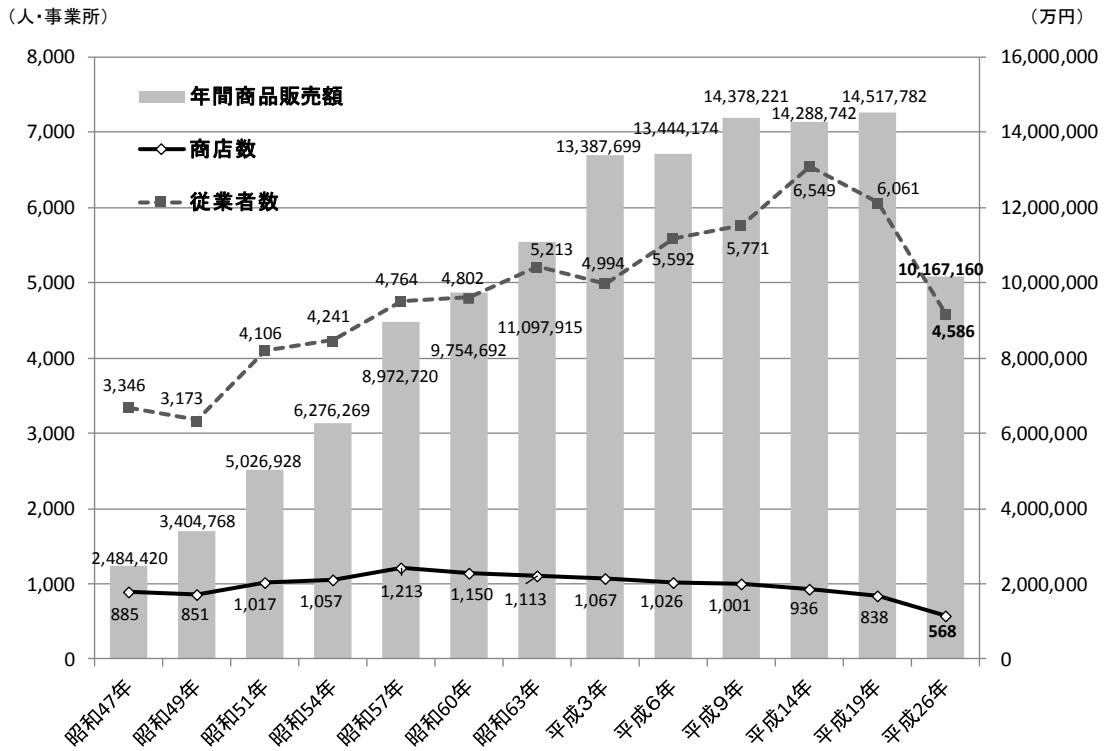


図 3-14 飲食店を除いた年間商品販売額・商店数・従業者数の推移

※商業統計調査結果（経済産業省）を基に作成

3) 農業動向

農家数、耕地とも減少傾向にあります。大根、ねぎ、白菜などの露地野菜を主体に生産しています。布袋地区では「越津ねぎ」が秋冬ねぎとして生産され「あいちの伝統野菜」に認定されているほか、宮田地区はなばなの産地で、「江南なばな」として出荷されています。

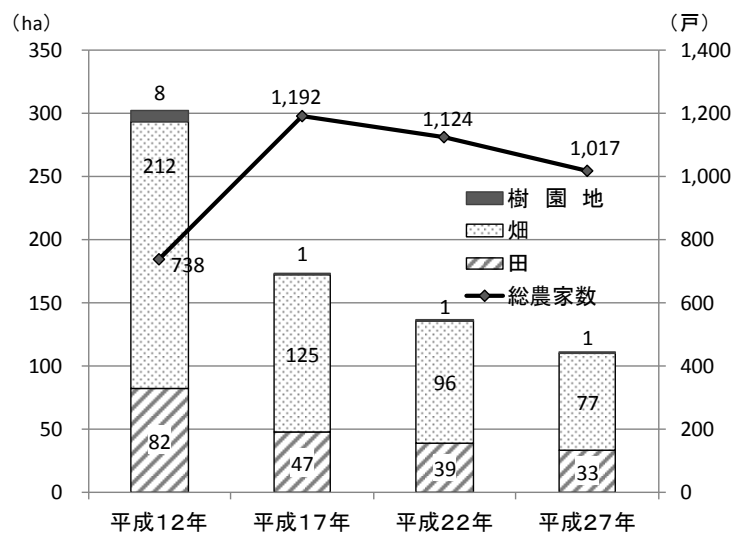


図 3-15 農家数、作付面積の推移

※農林業センサス結果（農林水産省）を基に作成

(5) 観光動向

戦国武将ゆかりの史跡をめぐる散策を楽しめるほか、曼陀羅寺公園の藤などの自然資源や特産品を活かしたイベントも年間を通じて開催され、魅力的な観光資源を有しています。特に「江南藤まつり」は多くの人を集め、来場者数は増加傾向にあります。

表 3-2 市内で実施される主なイベント

名称	開催時期	場所	概要
五条川桜まつり	4月上旬	五条川堤防	水面に映った桜が楽しめる
江南藤まつり	4月下旬～5月上旬	曼陀羅寺公園	広さ 4,700 m ² 、最長 75mの藤棚に藤が咲き誇る中、各種イベントが開催される
あじさい祭り	6月	音楽寺	33種約 1,200 株のあじさいなどが楽しめる
江南市民サマーフェスタ	8月	布袋駅周辺及び江南駅周辺	市内の商店街が中心となったお祭り。「阿波踊り大会」にはいろいろな団体が参加する
江南市民花火大会 江南市民まつり	10月	すいとびあ江南	「音楽花火」が名物 市内商工業者と市民が一体となって開催
農業まつり	4月	愛知北農業協同組合本店	農家のほか、市民から出品された農産物を一堂に展示した農業総合品評会や江南産野菜の即売、その他多くの催し物が行われる
	11月	すいとびあ江南	
北野天神社筆まつり	1月	北野天神社	長さ約 4m重さ 50kgほどの大筆が御所車に載せられる「大筆奉納行列」が行われる

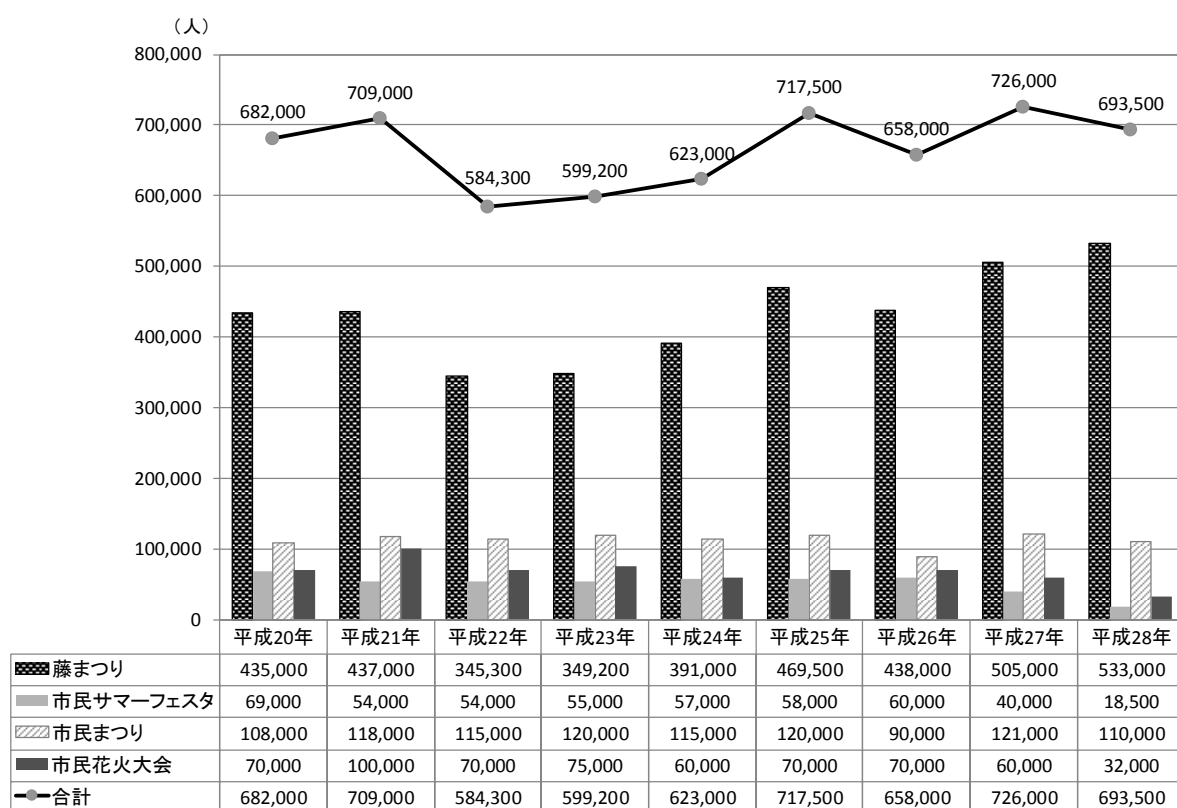


図 3-16 主なイベントの来場者数の推移

※江南市HP オープンデータカタログ観光・江南市催事・来場者一覧表（観光部門）掲載のデータを基に作成

(6) 運輸（公共交通の状況）

市内には名鉄犬山線の2カ所の駅があり、名鉄バスと大口町コミュニティバスも定期路線を有しています。

「江南市地域公共交通基礎調査」（平成28年度）では、駅から半径1km、バス停から半径500m圏域の人口カバー率は78.7%となっており、鉄道や路線バス、いこまいCAR（※）などにより、市内全域の移動サービスが確保されています。

（※）市民の市内移動の交通手段として、市が運行しているタクシーを利用した交通サービス

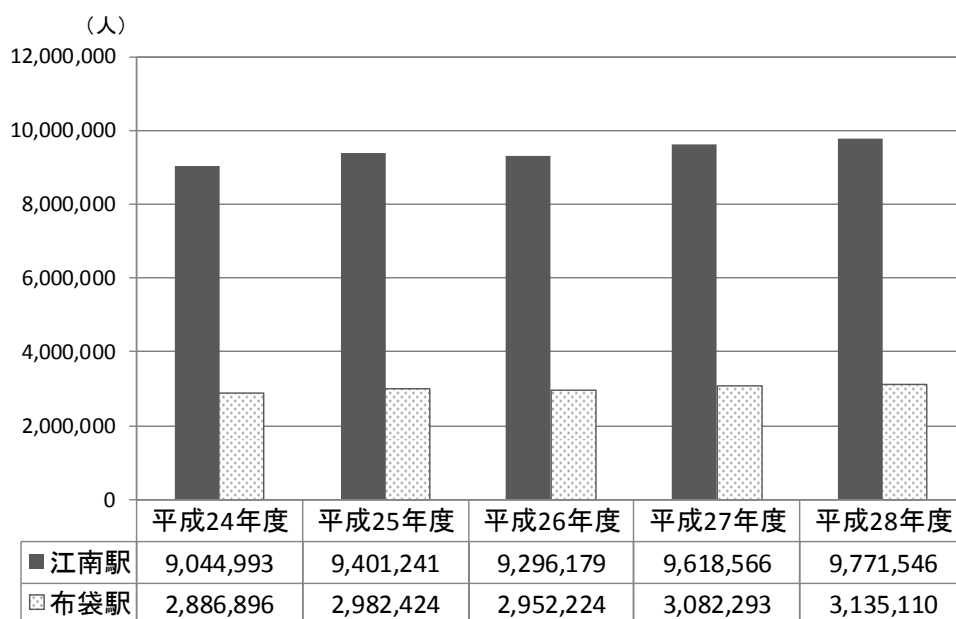


図 3-17 名鉄電車乗降客数（乗車人員・降車人員合計）の推移

※定期利用が多く定期外は江南駅約25%、布袋駅約30%
江南市HP「こうなんの統計」掲載のデータを基に作成

表 3-3 名鉄バス路線乗降客数（平成29年5月調べ）

路線	停留所数	乗降客数	路線	停留所数	乗降客数
江南駅～名鉄一宮駅	37(12)	3,600	江南駅～江南団地 (古知野高校経由)	11(11)	461
宮田本郷～名鉄一宮駅	24(3)	2,443	江南団地～名鉄一宮駅	26(7)	398
布袋駅～江南駅～江南厚 生病院～すいとぴあ江南	17(17)	756	江南駅～江南団地～ 川島(直通系統)	21(15)	89
江南駅～江南団地 (ヴィアモール経由)	11(11)	653	江南駅～江南団地～江 南厚生病院(直通系統)	17(17)	88

※停留所数のうち()は、市内にある停留所数

5月のうち1日間の統計をとったもの。市外の停留所での乗降客数を含む。
江南市HP「こうなんの統計」掲載のデータを基に作成

3.2. まちづくりの方向性

(1) 上位・関連計画の整理

本市では、市民と行政の“総合的かつ計画的なまちづくりの指針”となる総合計画を策定し、行政分野や施策ごとに個別の計画をたてて体系的にまちづくりを進めています。最上位計画に位置付けている「第6次江南市総合計画」のほか、各種計画で目指すまちづくりの方向性と図書館づくりで踏まえるべき事項は次のとおりです。

1) 最上位計画：第6次江南市総合計画「愛と知との江南市計画」

人口減少社会を前提とした人口減少抑制策の実施を基本に、平成30年度から39年度までの10年間で戦略的な施策の実施を通じて地域の魅力向上を図る計画です。

基本構想に位置づけた本市の将来像の実現を図るため、5つの基本目標に対応した5分野ごとに目指す成果を柱立てし、展望や目標、関連する取り組みを「分野別計画」として示しています。本市が持続的に発展していくための地域社会の実現を市民と行政が協働で目指すこと、市長が強く推進する政策を「市長の戦略政策」として示していることが計画の特徴です。図書館施策は「ひとづくり分野」「生涯学習」の政策で明記しています。

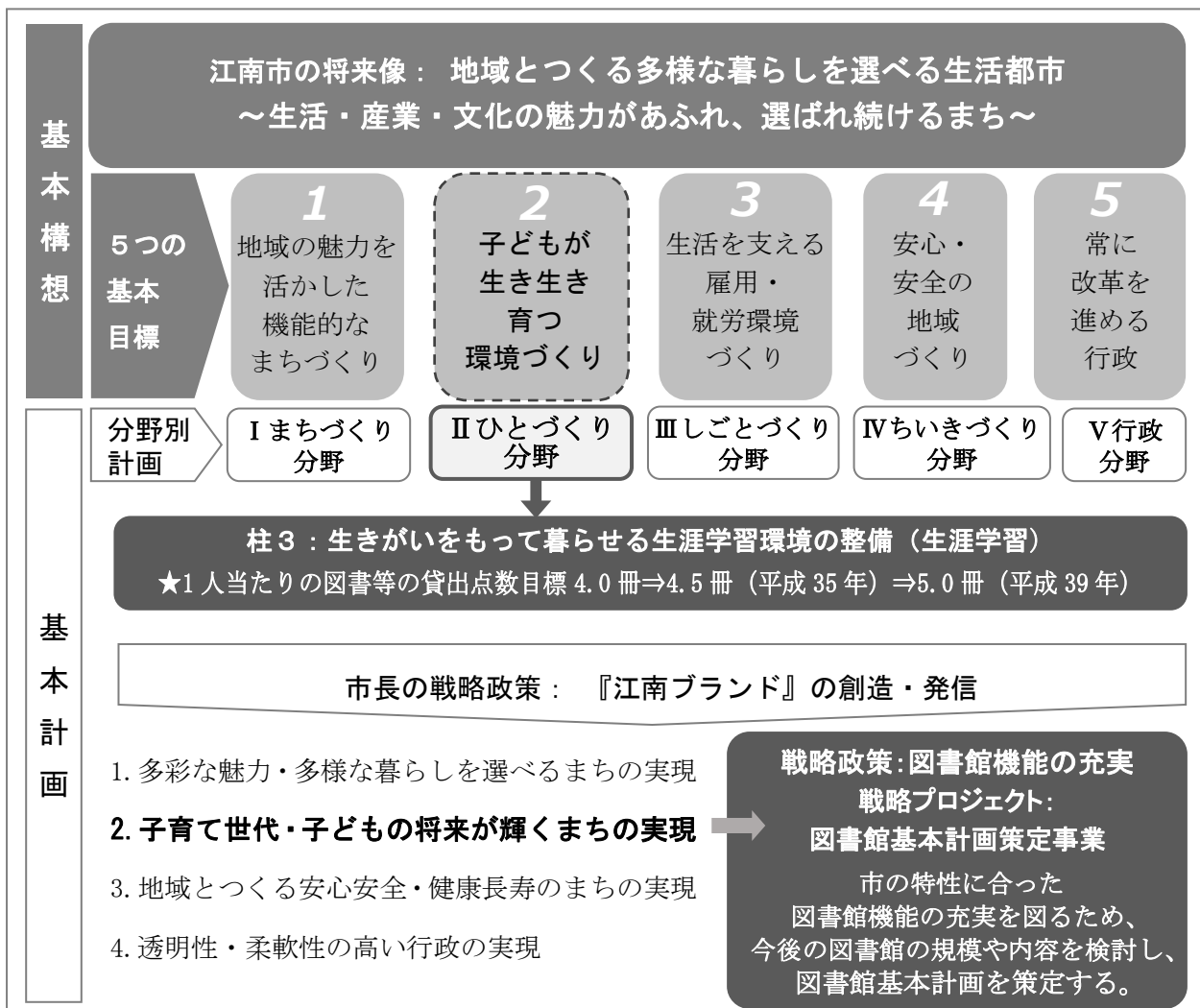


図 3-18 第6次江南市総合計画の概要

2) まちづくり分野の計画

総合計画に次ぐまちづくりの指針として「江南市都市計画マスタープラン」で土地利用や施設整備の方針などを示しています。また、「まち・ひと・しごと創生法」の制定に伴い策定した「江南市人口ビジョン」、「江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の方向性も踏まえる必要があります。

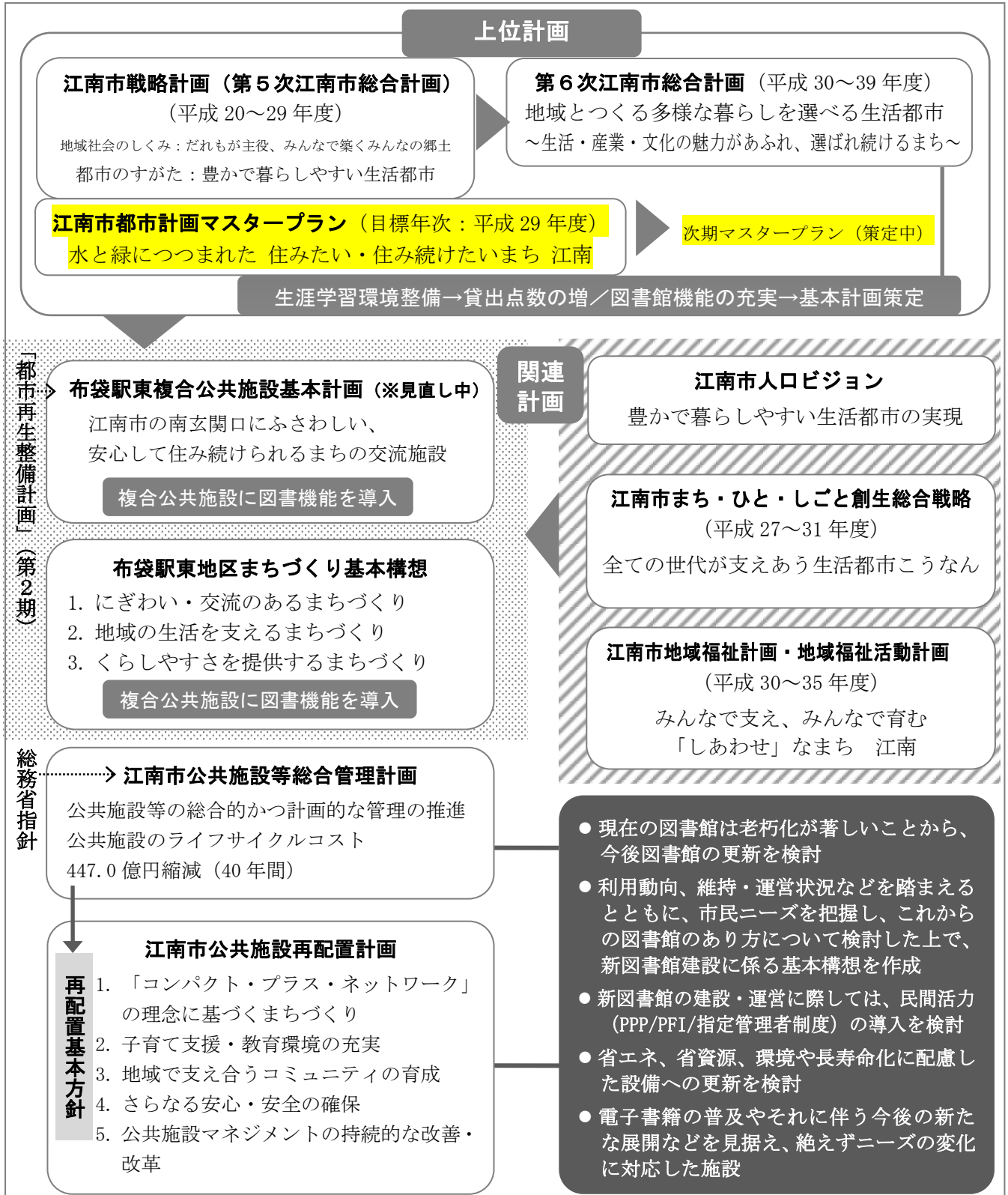


図 3-19 まちづくり分野の計画の体系

i. 江南市都市計画マスタープラン

平成 21 年 3 月策定→目標年次：平成 29 年度（平成 30 年度は次期計画策定中）

計画の位置付け・目的など

- ・ 都市計画法第 18 条の 2 に基づく「市の都市計画に関する基本的な方針」として総合計画などの上位計画及び関連計画を踏まえて定めるもので、目標年次に対応した「全体構想」と「地域別構想」から成ります。

図書館に関連する内容

- ・ 図書館施策について直接的な言及はありませんが、全体構想の「公共公益施設の方針」では、高齢化に対応したユニバーサルデザインやバリアフリー化などのハード面での整備と併せ、まちづくりへの市民の関心を高めるための「江南市まちづくり出前講座」の活用を挙げるなど、ソフト面での取組みの充実をめざしています。
- ・ 地域別構想において、現市立図書館の移転先となる布袋地区を含む南部地域は「地域の歴史性を活かした新しい拠点づくりと市の活力を牽引する産業基盤の強化」というまちづくりテーマを設定しています。

ii. 布袋駅東複合公共施設基本計画（※見直し中）

計画の位置付け・目的など

- ・ 布袋地区では、「都市再生整備計画」で「交通結節点の改善」「安心・安全な生活環境の確保」「住民協働による活気あるまちづくり」を目指すとしたことを受け、新たな賑わいの拠点を創出する公共施設整備に関する基本計画として策定しました。
- ・ 保健機能、子育て支援機能、交流機能、図書機能と民間施設とを導入し、賑わい・交流をもたらすことをめざしています。

図書館に関連する内容

※見直し中

iii. 布袋駅東地区まちづくり基本構想

平成 30 年 1 月策定、布袋駅東地区（約 42ha）を対象としたまちづくり構想

計画の位置付け・目的など

- ・ 「江南市戦略計画（第 5 次江南市総合計画）」や都市計画マスタープランなどに示す将来都市像の実現に向け、複合公共施設の整備を契機とした布袋駅東地区のあり方や土地利用・基盤整備などのまちづくりの方向性を示した構想です。
- ・ 布袋駅東地区が、駅を中心とした本市の南玄関にふさわしい魅力ある拠点となること、地域に暮らす住民の生活を支え、誰もが“暮らしやすさ”を実感できるまちとなることをめざしています。

図書館に関連する内容

- ・ 賑わいや交流を創出し、住民の生活を支える拠点施設として、布袋駅に隣接する区域に複合公共施設の整備を図り、その施設には保健・福祉機能や子育て支援機能、交流機能、図書機能などの導入を検討する、としています。

iv. 江南市公共施設等総合管理計画

平成 28 年 3 月策定、計画期間：平成 28 年度～平成 67 年度（40 年間）

計画の位置付け・目的など

- ・ 市が所有する公共施設のうち、築後 30 年以上経過したものが全体で 8 割近くを占めており、近い将来非常に多くの施設が一斉に改修・更新時期を迎え、多額の費用が必要になると見込まれています。
- ・ 今後の人口減少等に伴う公共施設の利用需要の変化を見据え、公共施設全体の状況を把握し、長期的な視点を持って更新・統廃合・長寿命化を計画的に実施するとともに、財政負担の軽減・平準化や行政サービスの維持・向上を図るための基本方針を定めるものです。

図書館に関連する内容

- ・ 図書館を生涯学習系施設に分類した上で、老朽化が著しいことから更新を検討するものとし、新図書館建設に係る基本構想を作成することとしています。

v. 江南市公共施設再配置計画

平成 30 年 3 月策定、計画期間：平成 30 年度～平成 67 年度（38 年間）

計画の位置付け・目的など

- ・ 「公共施設等総合管理計画」の基本方針を踏まえた上で、今後必要となる公共施設の更新・改修費用の不足額の解消に向け、公共施設の再配置の方針を定め、長寿命化や施設保有量の最適化を図り有効活用する公共施設マネジメントを推進するための指針となる計画です。

図書館に関連する内容

- ・ 図書館を「生涯学習の拠点となる施設」「文化の発信地として重要な施設」と評価し、短期的には図書館機能の充実を図り、長期的には電子書籍の普及などを見据えニーズの変化に対応した施設づくりを図るとしています。

vi. 江南市人口ビジョン

平成 28 年 3 月策定

計画の位置付け・目的など

- ・ 平成 26 年の「まち・ひと・しごと創生法」の制定、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の閣議決定に伴い、地方公共団体が策定に努めることとなった「地方人口ビジョン」として策定しました。
- ・ 平成 72 年における人口展望として、平成 27 年比で約 18,400 人（平成 27 年人口の約 18%）の人口減少を見込んでいます。
- ・ 人口減に伴う経済縮小の克服に向け、詳細な人口の現状分析や将来人口推計などを示した上で、今後の目指すべき将来の方向について、「江南市戦略計画（第 5 次江南市総合計画）」を踏まえた「豊かで暮らしやすい生活都市」の実現と設定しています。

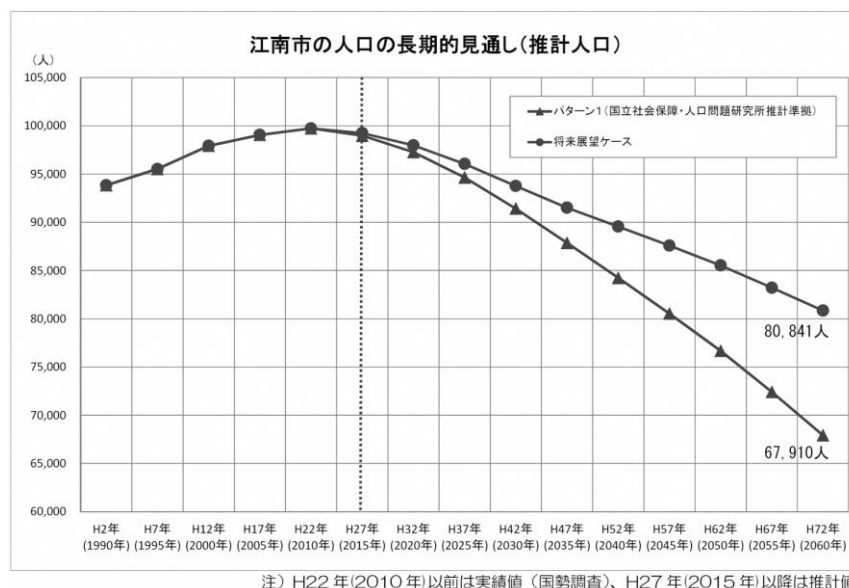


図 3-20 「江南市人口ビジョン」で示す将来展望人口

出典) 江南市人口ビジョン第 2 章 人口の将来展望 (3) 人口の将来展望

図書館に関連する内容

- ・ 図書館施策について直接的な言及はありませんが、公立図書館として市民に地域などの格差なく公平な図書館サービスを実施するためには、市内の人口分布、地域ごとの特性や課題、人口の変化が与える影響を踏まえる必要があると考えられます。

vii. 江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成 28 年 3 月策定、計画期間：平成 27 年度～平成 31 年度

計画の位置付け・目的など

- ・ 「江南市人口ビジョン」の将来展望の実現に向け、早期に効果を発現させるための具体的な施策を展開することを目的として策定しました。

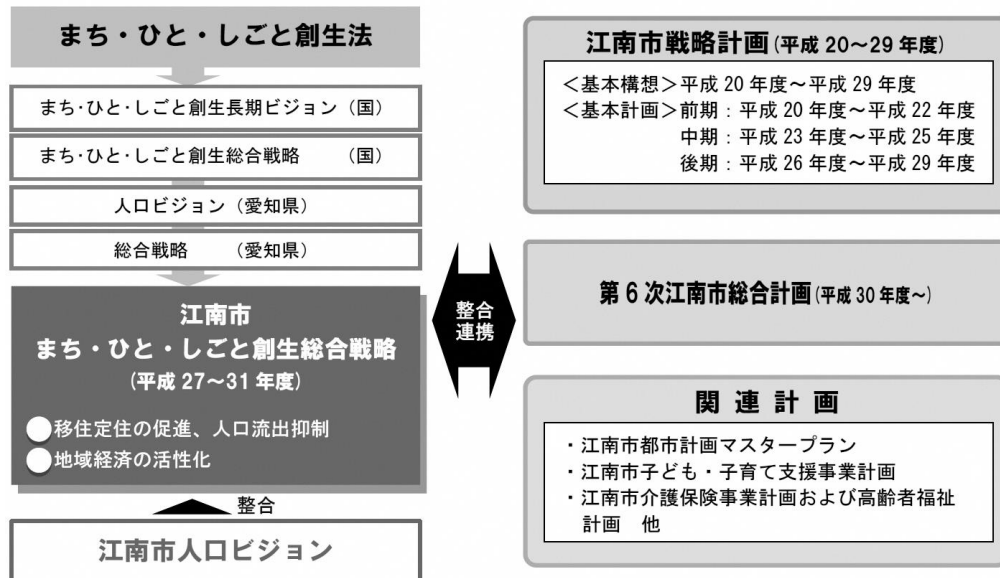


図 3-21 まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

出典) 江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略>総合戦略策定の概要

図書館に関連する内容

- ・ 図書館施策について直接的な言及はありませんが、関連する基本施策として、小学生以下の子どもを対象とした読書通帳の配布、歴史を活かしたまちづくりの推進、高齢者が活躍できる場づくりなどを挙げています。

viii. 江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画

平成 30 年 3 月策定、計画期間：平成 30 年度～平成 35 年度（6 年間）

計画の位置付け・目的など

- ・ 「第 6 次江南市総合計画」の方向性に基づき全市的な地域福祉を推進するため、本市の策定する「江南市地域福祉計画」と社会福祉協議会の策定する「地域福祉活動計画」とを一体的に策定しました。

図書館に関連する内容

- ・ 図書館施策について直接的な言及はありませんが、本市の取り組みとして、高齢者の居場所づくり、ボランティア情報の提供、公共施設のバリアフリー化の推進などを挙げています。

3) 生涯学習分野の関連計画

i. 第2次江南市生涯学習基本計画

平成24年3月策定、計画期間：平成24年度～平成33年度（10年間）

計画の位置付け・目的など

- ・ 生涯学習活動の有効かつ効果的な推進を図るためのガイドラインを示し、様々な分野にわたる事業を総合かつ体系的に捉えていくことを目的とする計画です。
- ・ 教育基本法の理念に基づき、「江南市戦略計画（第5次江南市総合計画）」を上位計画として策定しました。

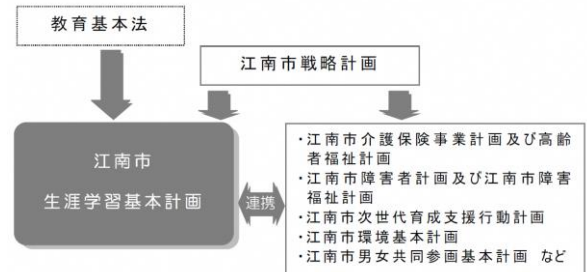


図 3-22 生涯学習基本計画の位置付け

出典) 第2次江南市生涯学習基本計画
>生涯学習基本計画策定にあたって

図書館に関連する内容

- ・ 生涯学習ニーズの高度化、多様化に対応するため、既存施設の有効活用と新たな学習拠点としての体育館や図書館の整備が必要としています。
- ・ 図書館は狭隘化が顕著であり、市民が安心して気軽に利用できる環境整備に努める必要があることから、今後の図書館の在り方を、引き続き様々な角度から調査研究することとしています。

ii. 第2次江南市子ども読書活動推進計画「こうなん“わくわく”読書プラン」

平成27年4月策定、計画期間：平成27年度～平成31年度（5年間）

計画の位置付け・目的など

- ・ 「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、地方公共団体の責務として策定に努めることが定められている計画です。
- ・ 家庭、地域、学校、その他関係機関が一体となり、子どもの充実した読書環境と読書機会を得ることを目的に、国及び愛知県の計画内容や平成22年4月策定の「江南市子ども読書活動推進計画」における成果と課題を把握し、これからの子ども読書活動の基本的な方向と、施策を推進するための指針として策定しました。

図書館に関連する内容

- ・ 5つの基本目標のひとつとして「市図書館における子どもの読書活動の推進」を掲げ、「蔵書の充実」「読書支援の充実」「行事の充実」「障害者を対象としたサービスの充実」「ボランティアとの連携」「保育園・児童館・小中学校との連携」のための施策を実施するほか、ブックスタート事業などで関連機関と連携して計画を推進することとしています。

(2) 布袋地区で進行中の事業にみるまちづくりの方向性

現市立図書館の移転先となる布袋地区は、平成 16 年度から都市再生整備計画事業によるまちづくりを進めています。周辺地域のまちづくりの経緯などを、以下に概観します。

1) 都市再生整備計画事業（布袋地区）

都市再生特別措置法に基づく制度を活用し、平成 16 年度から 5 年ごとに都市再生整備計画を策定して事業を進めています。前出の「布袋駅東複合公共施設基本計画」は都市再生整備計画を受けて策定したもので、現在は、第 3 期（平成 26 年度～30 年度）の計画に基づく事業を進めています。第 3 期では、「鉄道高架を中心とした安心・安全な暮らしやすいまちづくり」をテーマに、新たに「地域資源を生かしたまちづくり」を目標に加えています。

2) 名鉄犬山線布袋駅付近鉄道高架事業

市内を南北に縦断する鉄道による踏切渋滞・踏切事故などの問題の解消や交通利便性の向上を図るため事業に取り組み、平成 21 年度の仮線工事を皮切りに工事を進めています。

鉄道の高架化により地区の東西での往来が容易となるほか、土地区画整理事業や道路整備などの駅周辺の都市基盤整備との相乗効果により、魅力ある良好な市街地の形成が促進されます。

3) 住民協働によるまちづくり

前項の鉄道高架化は、国・県への要望活動を地元まちづくり団体（布袋地区鉄道高架・街づくり協議会）と本市とで継続的に行うことで、事業化につながりました。平成 14 年度に行政、有識者、地元住民とで策定した「中心市街地活性化基本計画」で、布袋駅西地区では、みんなで作るふれあい・活気あるまちづくりをめざしていることもあり、地元まちづくり団体による活動ニュースが継続的に発行されています。また、布袋の町並みを歩きながら楽しめる「まちあるきマップ」を活用した、「まちあるきイベント」の企画・運営も実施されています。

さらに、布袋駅西地区の歴史的資源を活かしたまちなみ形成に向け、道路や付帯施設などの公共空間のイメージ、また、住宅や店舗などの民有空間での修景の基本的な方針を示すことを目的とする「布袋駅西地区まちなみ整備計画」も策定され、地域住民のまちづくりに対する意識をさらに高める取り組みが行われています。

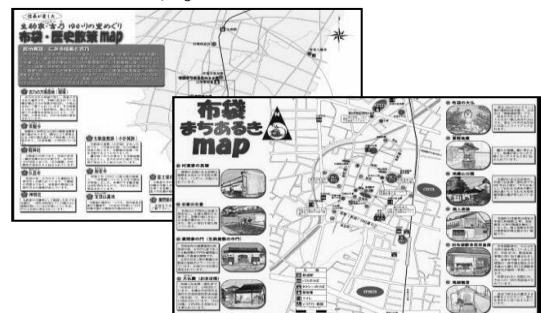


図 3-23 まちあるきマップ

※江南市HP掲載PDFファイルから画像を作成

(3) まちづくりの方向性のまとめ

本章で概観した各種計画・事業に見られるまちづくりの考え方の中で、図書館づくりにおいて深く関わる点を以下の3点に整理します。

市民の暮らしやすさ、「生活都市」の機能を重視

本市では、最上位計画である総合計画で継続して都市の将来像として「生活都市」を掲げており、表 3-4 のとおり他計画でも市民の暮らしを重視する理念や方針を掲げています。また、「暮らしが花ひらく生活都市。江南市」をテーマにシティプロモーションも展開しています。

今後の江南市図書館においても、市民の暮らしに役立ち、あらゆる世代の市民が充実した生活がおくれるように、サービス向上に取り組むことが求められます。

生活都市とは、住む、働く、学ぶ、楽しむなどの広い意味の生活機能を備えた都市のこと。「住宅都市」を核に、様々な生活機能が付加された「生活者」のための都市。

「生活者」自身も、環境や福祉などの地域社会の抱える課題の解決をめざして、自主的・自立的に行動することにより、「生活都市」が実現される。

出典)「第6次江南市総合計画」



表 3-4 主な計画の基本理念など

計画名	将来像、基本理念など
江南市戦略計画 (第5次江南市総合計画)	豊かで暮らしやすい生活都市 ～市民の生活が地域で支えられる「生活都市」～
第6次江南市総合計画	地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市 ～生活・産業・文化の魅力があふれ、選ばれ続けるまち～
江南市人口ビジョン	「豊かで暮らしやすい生活都市」の実現
江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略	全ての世代が互いに支え合う生活都市こうなん ～笑顔があふれ、健康で生きがいを持って暮らし続けられるまち～
江南市都市計画 マスタープラン	「水と緑に つつまれた 住みたい・住み続けたいまち 江南」 ～豊かで暮らしやすい生活都市を目指して～
布袋駅東複合公共施設 基本計画	江南市の南玄関口にふさわしい、安心して住み続けられるまちの交流施設
布袋駅東地区 まちづくり基本構想	地域に暮らす住民の生活を支え、誰もが“暮らしやすさ”を実感できるまち
江南市地域福祉計画・ 地域福祉活動計画	みんなで支え、みんなで育む「しあわせ」なまち 江南

子ども・子育て政策を重視

「江南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では「子育てしやすい環境づくり」を、「第6次江南市総合計画」では、「子どもが生き生き育つ環境づくり」を基本目標に掲げています。

その基本目標に向けて、より充実した子育て環境の推進を図るため、組織を再編して「こども未来部」を創設し、教育・保育や子育て支援の多様なニーズに対応するための取り組みを進めることで「子育て先進市」をめざしています。

また、複合公共施設についても保健機能・子育て支援機能を中心とした子育て世代のワンストップ拠点と位置づけ、交流スペースなどにおける多世代のふれあいや賑わいの創出を図るなど、子どもたちの成長や将来的な人口減少の抑制、まちの発展につながる政策を重視しています。

今後の江南市図書館でも児童サービス・子育て関連情報の提供を中心とした子育て支援の拡充が望まれます。

市民協働を重視

「江南市戦略計画（第5次江南市総合計画）」では、「市民と市役所が共につくり共有する計画」をめざし、基本構想の中では将来像として「都市のすがた」だけではなく、「地域社会のしくみ」として「だれもが主役、みんなで築く、みんなの郷土～地域の進むべき方向を「共に考え」地域づくりを「共に担う」～」を描きました。

「第6次江南市総合計画」でも「市民参加により策定される計画」、「市民と行政が協働して的確な施策実現を行う」、「市民協働型事業の明記などによる共有性を高めた計画」を示し、分野別計画でも随所に市民協働の推進を盛り込んでいます。

布袋地区で住民団体とともにまちづくりを進めてきた経過も踏まえ、今後の江南市図書館の運営においても市民の意見や提案を積極的に取り入れるとともに、市民協働を推進していくことが重要です。

4. 図書館を取り巻く動向

4.1. 先進的事例

江南市図書館の今後のあり方を検討する際に参考となると考えられる、他自治体の図書館の先進的事例について、ICT（情報通信技術）の活用、賑わい・交流の創出、子育て支援、機能間の連携、市民協働の促進の5点に着目して整理しました。

ICTの活用に積極的な安城市図書情報館では、最新技術を搭載した機器類を取り揃え、市民の文化活動やビジネス支援に役立てているほか、地域の企業との連携により次世代のICT学習機会を図っています。また、三田市立図書館では、コンテンツや機能の充実した電子図書館サービス、中高生の利用促進を図るためのブログ運営などに取り組んでいます。

賑わい・交流の創出を重視するひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスでは、図書館機能を中心に生涯学習・市民活動・青少年活動への支援機能を有機的に融合させることで様々な世代の利用や、建物全体での閲覧空間の創出を実現しています。大崎市図書館は利用者間でのコミュニケーションによる課題解決が可能なスペースを設けているほか、複合施設の各機能間での活動を相互に波及させるような取り組みも進めています。

TRC八千代中央図書館では、子育て支援サービスとして図書館利用者向け託児サービスや子育て世代同士が交流できる場を提供しており、子育て世代層の利用機会や学習機会の確保を支援しています。

複合施設の増加に伴い、機能間で連携したサービスを提供する図書館も増加しています。大和市立図書館では市の健康づくり推進課や併設のカフェなど、施設内外の様々な機能と連携して幅広いサービスを提供しています。また東根市図書館では、併設の美術館・市民活動支援センターとの一体的運営により、複合施設としての相乗効果の創出を図っており、おおぶ文化交流の杜図書館は複合施設内の静の役割を担い、ホールやギャラリーなどの各施設と連携することで様々なイベントを開催しています。その他にも、玉野市立図書館や徳島市立図書館は立地を活かした民間施設との連携により各施設間の相互利用を促進しています。

市民協働を重視している事例としては鯖江市図書館が挙げられ、市民ボランティアとともにライブラリーカフェを開催したり、市民のアイデアを基にした図書館アプリを開発したりしています。

表 4-1 ICTを積極的に活用している事例①

安城市図書情報館（安城市中心市街地拠点施設アンフォーレ内）			
1 所在地	愛知県安城市御幸本町 12-1	7 奉仕人口	185,818 人
2 開館年月	平成 29 年6月	8 貸出冊数	-
3 開館時間	9:00～20:00 (土曜日・日曜日・祝日 9:00～18:00)	9 来館者数	791,052 人 (平成 29 年10月～平成 30 年9月)
4 休館日	火曜日(祝日は開館)、 毎月第4金曜日(祝日の場合はその月の末日)、 年未年始	10 蔵書冊数	706,388 冊
5 延床面積	6,808 m ² (複合施設全体 12,234 m ²)	11 運営形態	直営
6 併設施設	多目的室、ホール、証明・旅券窓口センター、スーパーマーケット、カルチャースクール、カフェ	12 駐車場	273 台 (有料・共有)

特徴

● 子どもや親子が遊びの中でICTに触れる機会の提供

大型のディスプレイを設置し、子どもの動きに反応して画像を変化させることで、子どもが画面の中にいるような体験のできる環境を提供。体験を通じてICTに対する子どもの興味・関心を喚起。



● 協働での作業やグループ学習を効率化するための環境提供

データを共有してアイデアを練ることのできるディスカッションテーブルや電子黒板を備えるディスカッションルーム(有料)、3Dプリンターなどを備えた編集・録音スタジオ(有料)などを提供し、新たな文化・ビジネスの創造を支援。



写真出典) 安城市図書情報館HP

● 24 時間貸出を可能とする予約本受取機の設置

機械式の予約本受取機を館外に設置することで、開館日・時間以外でも自身による貸出処理による資料の受け取りを可能とし、利用者利便性の向上、新たな利用の促進に貢献。



写真出典) 安城市図書情報館HP

● 次世代育成を目的としたICT学習機会の提供

市内に工作機械メーカーや産業用ロボットメーカーが集積していることを活かし、企業との連携などを通じて小学3年生～6年生を対象としたプログラミング講座を開催。

講座回数	年間 24 回
開催曜日	日曜日・月曜日・水曜日・木曜日・土曜日(各日 2 回実施、10 コース)
開催時間	平日 1回目 16:00～17:30 2回目 18:00～19:30 土日祝日 1回目 14:00～15:30 2回目 16:00～17:30

出典)「日本の図書館 2017」、「平成 29 年度図書館概要」、安城市図書情報館HP、安城市図書情報館 Twitter、安城市HP

表 4-2 ICTを積極的に活用している事例②

三田市立図書館			
1 所在地	兵庫県三田市南が丘 2-11-57	7 奉仕人口	113,996 人
2 開館年月	平成 2 年 3 月	8 貸出冊数	571,270 冊
3 開館時間	9:00～20:00	9 来館者数	389,248 人
4 休館日	12 月 29 日～1 月 3 日、特別整理期間	10 蔵書冊数	310,302 冊
5 延床面積	2,676 m ²	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	—	12 駐車場	36 台（無料）

特徴

● 三田市電子図書館による全域サービスの実現

全国に先駆け、平成 26 年 8 月から電子図書館サービスを開始。平成 30 年 3 月 31 日時点で 4,952 タイトルが閲覧可能。市民がデジタル資料・電子書籍に触れる機会を提供するとともに、市内全域への図書館サービスを実現。

郷土資料や過去の郷土史講座のテキスト、三田市図書館を使った調べる学習コンクール入選作品などを全体に公開し、地域や市民・図書館活動の情報を広く発信するとともに、三田市独自の特長的な電子図書館を運営。

音声読み上げに適したテキスト版サイトの立ち上げにより、視覚障害のある市民などの利用にも配慮。



写真出典) 三田市立図書館HP

● YAコーナーブログ「ホンダラケ」の運営

インターネットに親しみのある 10 代に向け、YAコーナー担当職員がブログ「ホンダラケ」を運営。YAコーナーの展示や近隣学校図書室の展示への協力、館内で開催予定の行事などの紹介を通して図書館の活動をアピール。

館内にはYAコーナー専用のポストを設け、投稿されたコメントをラジオのようにブログ上で紹介、返信を付すなど、若年層とのコミュニケーションを図り、利用を促進。



写真出典) 三田市立図書館HP

出典) 「日本の図書館 2017」、「図書館年報平成 29 年度」、三田市立図書館HP

表 4-3 賑わい・交流創出を重視している事例①

ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス			
1 所在地	東京都武蔵野市境南町 2-3-18	7 奉仕人口	143,262 人
2 開館年月	平成 23 年7月	8 貸出冊数	1,156,168 冊
3 開館時間	9:30～22:00	9 来館者数	1,953,759 人
4 休館日	水曜日(祝日の場合は翌日)、 12月29日～1月4日、図書特別整理期間	10 蔵書冊数	183,539 冊
5 延床面積	-(複合施設全体 9,809 m ² 、地下駐車場含む)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能	12 駐車場	28 台 (有料・共有)

特徴

- **図書館機能と他の3機能の複合化による交流の場の提供**
 図書館機能を中心に、生涯学習、市民活動や青少年活動を支援する機能が有機的に交わることで様々な世代が来館し賑わいを創出。
 各フロアの機能と連携して蔵書が分散しており、カフェを含めて館内のどこでも閲覧が可能。



生涯学習支援機能	フォーラム、ワーキングデスク、スタディコーナー
市民活動支援機能	ワークラウンジ、メールボックス、ロッカー、プリント工房
青少年活動支援機能	スタジオラウンジ、クラフトスタジオ、サウンドスタジオ

- **青少年活動支援機能**
 若者の居場所として、地下2階に芸術に関する図書・青少年(満19歳以下)向けの図書・雑誌を集めたアート&ティーンズライブラリー及び、青少年のみ利用可能なスタジオやラウンジを設置し、様々な興味関心に応じた活動を支援。



- **1階中心部へのカフェ設置**
 ゆったりとコーヒーを飲みながらの雑誌閲覧、無線LANサービスの利用、利用者同士の談笑、学生の勉強など、利用者の多様な利用形態に対応し、交流の創出にも寄与。夕刻以降は、酒類(ビール、ワイン)・おつまみを提供。



出典)「日本の図書館 2017」、ひと・まち情報創造館武蔵野プレイスHP、武蔵野市HP

表 4-4 賑わい・交流創出を重視している事例②

大崎市図書館(来楽里ホール)			
1 所在地	宮城県大崎市古川駅前大通 4-2-1	7 奉仕人口	133,958 人
2 開館年月	平成 29 年7月	8 貸出冊数	—
3 開館時間	9:30～19:00 (土曜日・日曜日・祝日 9:30～17:00)	9 来館者数	—
4 休館日	月曜日、毎月第3木曜日(祝日の場合は次の平日)、 12月28日～1月4日、特別整理期間	10 蔵書冊数	—
5 延床面積	3,855 m ² (複合施設全体 6,335 m ²)	11 運営形態	直営
6 併設施設	多目的ホール、学習室、研修室	12 駐車場	102 台(無料)

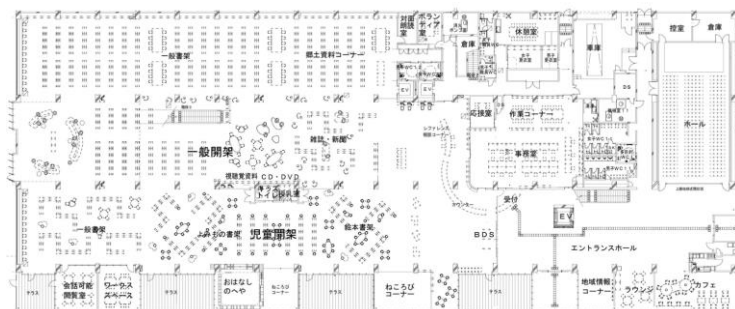
特徴

● 利用者の活発な交流・コミュニケーションの場の提供

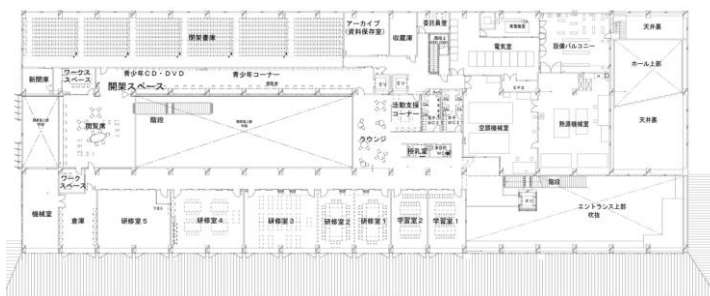
古川駅地区の中心で市役所とともにまちの回遊性を生み、市民活動を触発する施設として建設された複合施設内に立地。各所に地元産木材を使用することで、あたたかみや市民への親しみやすさを演出。図書館は複合施設の1階から2階の2層から成り、1階を中心に会話可能閲覧室やワークスペースなど、利用者間でのコミュニケーションを通じた課題解決を可能とするスペースを複数設置。その各スペースを通り庭に面して配置することで館内の活動を屋外へ発信。また、併設の多目的ホールで講演会や運動・音楽を伴うイベントなども開催し、相互利用を促進。

● 視覚的結びつきによる市民の活動意欲の刺激

複合施設2階部分には、図書館機能の他に学習室や会議・軽運動・創作活動に利用できる研修室などを配置、図書館と複合施設スペースとを回廊・吹抜けを通じて視覚的に結びつけることで、各施設の利用者の活動意欲を相互に刺激。創作活動用の研修室は毎週月曜日に無料で開放し、市民の創作活動の活性化に寄与するとともに、市民間の交流の機会を提供。エントランスにはカフェを設置し、飲食をしながら図書館資料の閲覧が可能な空間を提供。



1階平面図



2階平面図

画像出典)
大崎市HP

出典)「日本の図書館 2017」、「広報おおさき」平成 29 年 7 月号、大崎市HP

表 4-5 子育て支援サービスを展開している事例

TRC八千代中央図書館(TRC八千代中央図書館・オーエンス八千代市民ギャラリー内)			
1 所在地	千葉県八千代市村上 2510	7 奉仕人口	195, 173 人
2 開館年月	平成 27 年7月	8 貸出冊数	379, 179 冊
3 開館時間	10:00～19:00 (土曜日・日曜日・祝日 9:00～18:00)	9 来館者数	321, 516 人
4 休館日	月曜日(祝日の場合は翌日)、 館内整理日(月曜日を除く月の最終の平日)、 12月29日～1月4日	10 蔵書冊数	161, 198 冊
5 延床面積	4, 860 m ² (複合施設全体:6, 268 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	市民ギャラリー	12 駐車場	260 台 (有料・共有)

特徴

● 図書館利用者を対象とした託児サービスの実施

指定管理者による自主事業として、平成 27 年7月から図書館利用者向けに曜日や時間帯を限定した1時間の託児サービス(1日平均 15 名程度)を実施。子育て世代層の図書館利用や、仕事復帰に向けた勉強などの促進を図る。

曜日	毎週火・水・土	料金	無料
時間帯	10:00～13:30	利用対象	利用登録者
事前予約	不要	対象年齢	6か月～未就学児

● 子育て世帯の交流を目的とした子育て広場の開催

保育士による手作り遊具や手遊び・読み聞かせなどの提供を含めた、1ヶ月に1回1時間程度の地域の子育て世帯同士の交流の場を提供。



● 図書館でのイベント時の無料託児サービスの実施

図書館でのイベント時に託児を実施することで、これまでイベントに参加しにくかった子育て世代の市民の参加促進に寄与。



出典)「日本の図書館 2017」、「図書館年報平成 29 年度」、TRC 八千代市立中央図書館・オーエンス八千代市民ギャラリーHP、八千代市HP、運営受託者実績報告

表 4-6 他機能と連携して特長的サービスを展開している事例①

大和市立図書館（大和市文化創造拠点シリウス内）			
1 所在地	神奈川県大和市大和南 1-8-1	7 奉仕人口	234,627 人
2 開館年月	平成 28 年 11 月	8 貸出冊数	1,086,949 冊
3 開館時間	9:00～21:00(日曜日・祝日 9:00～20:00、 3階・こども図書館 9:00～19:00)	9 来館者数	-
4 休館日	12 月 31 日、1 月 1 日	10 蔵書冊数	513,190 冊
5 延床面積	6,560 m ² (複合施設全体:22,904 m ² 、地下駐車場含む)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	芸術文化ホール、生涯学習センター、 屋内こども広場	12 駐車場	58 台 (有料・共有)

特徴

● 「健康図書館」としての取り組み

「健康創造都市やまと」の実現に向け、市内関連部署などと連携し、「健康図書館」をコンセプトに様々な事業を展開するとともに、健康情報サービスを提供。健康関連の書籍1万冊と測定機器を備えた健康相談も可能なフロアを設置。

健康コーナー	医学書をはじめとする健康を多角的に捉えた資料の提供
健康度見える化コーナー	近隣7市町村との連携事業として、体組成計や血圧計などの設置 健康相談の受付、「健康度見える化手帳」の配布など
健康テラスイベント	健康に関する講座や地域交流の場として毎日開催 市の健康づくり推進課や、高齢者福祉課による健康講座も実施 市が実施する「ヤマトン健康ポイント」の対象講座あり
健康遊具	屋外の読書テラスに健康遊具を設置

● ワンフロアでの多様な子育て支援サービスの提供

3階に立地する「大和こどもの国」は乳幼児から児童向けの本を揃えた「こども図書館」、2歳までの幼児と保護者を対象とした「ちびっこ広場」、3歳から小学2年生までの児童とその保護者を対象とした「げんきっこ広場」、1歳から小学校就学前までの子どもを預かる「保育室」、子どもの育児や悩みを相談する「育児相談室」などから構成。本との出会いだけでなく、親子の交流の場や子ども同士、親同士の交流の場を提供。



● 施設内の機能間連携による賑わいの創出

複合施設全体を図書館ととらえ、図書館フロア以外にも図書を配置、複合施設内に併設のカフェなどでも貸出手続きせずに閲覧が可能。利用は中学・高校生に加え、夜間は社会人が目立ち、相鉄線や小田急沿線の市外在住者の利用も多い。複合施設として1日 8,000 人～1万人が訪れ、開館から1年で来館者数が累計 300 万人を超えた。



出典)「日本の図書館 2017」、大和市文化創造拠点シリウスHP、大和市HP、
文部科学省HP 社会教育施設の複合化・集約化に関する事例集

表 4-7 他機能と連携して特長的サービスを展開している事例②

東根市図書館（東根市公益文化施設まなびあテラス内）			
1 所在地	山形県東根市中央南 1-7-3	7 奉仕人口	47,841 人
2 開館年月	平成 28 年 11 月	8 貸出冊数	151,934 冊
3 開館時間	9:00～20:00(日曜日・祝日 9:00～19:00)	9 来館者数	147,937 人
4 休館日	毎月第2・第4月曜日(祝日の場合は次の平日)、 12月29日～1月3日、特別整理日	10 蔵書冊数	121,712 冊
5 延床面積	1,886 m ² (複合施設全体 4,401 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	美術館、市民活動支援センター、都市公園、 カフェ、ショップ	12 駐車場	約 150 台 (無料・専用)

特徴

● PFI手法による複合施設の一体的整備

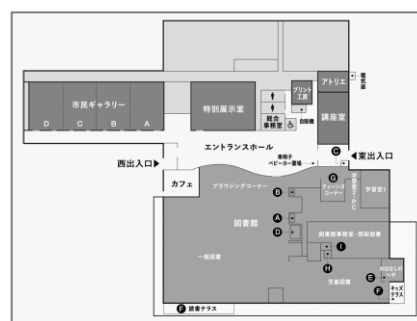
複合文化施設と都市公園を一体的にPFI方式で整備する「東根市公益文化施設整備等事業」より整備。維持管理運営期間は20年間。

市民や地域を支える情報拠点としての図書館、市民利用のギャラリーを基本とした芸術文化の活動拠点としての美術館(市民ギャラリー)、活力ある団体活動の情報拠点としての市民活動支援センターから構成。

『集い、学び、創造する 情報と芸術文化の交流拠点』を基本理念に、各機能が独立しながらもそれぞれが互いに連携し相乗効果を発揮する事で、市民が気軽に訪れ、楽しみながら知的好奇心が刺激される場を創出。

● 一体的運営による施設間連携の促進

図書館、美術館、市民活動支援センターを1社で一体的に運営することにより、指揮命令系統の一元化やスタッフの施設間の流動的な配置など、弾力的且つ効率的な運営を実現。美術館イベントに合わせた資料展示などの施設間事業連携を促進し、複合施設としての相乗効果を発揮。



画像出典) 東根市公益文化施設まなびあテラスHP



出典)「日本の図書館 2017」、東根市公益文化施設まなびあテラスHP

表 4-8 他機能と連携して特長的サービスを展開している事例③

おおぶ文化交流の杜図書館(おおぶ文化交流の杜 allobu 内)			
1 所在地	愛知県大府市柊山町 6-150-1	7 奉仕人口	89,788 人
2 開館年月	平成 27 年7月	8 貸出冊数	1,378,619 冊
3 開館時間	9:00～20:00	9 来館者数	509,477 人
4 休館日	毎月第3月曜日(祝日の場合は次の平日)、 年末年始、特別整理期間(6月第1月曜日～金曜日)	10 蔵書冊数	336,655 冊
5 延床面積	2,700 m ² (複合施設全体 4,220 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	ホール、スタジオ、ギャラリー、レストラン、 学習室、会議室	12 駐車場	203 台 (無料・共有)

特徴

● 複合施設全体で豊かな文化・芸術を享受・創造する場を創出

併設の文化・学習機能、市民交流機能と連携することで、市民が豊かな文化・芸術を享受・創造する場を創出。

図書館中央に複合施設内のメイン通路「ふれあいの路」と連続するライブラリーストリートを設けることで、施設としての一体感を演出。ガラス張りでのゾーニングや自動化書庫の導入などにより静かでゆったりとした読書環境を確保し、複合施設における静のゾーンとして機能。

また、ホールやギャラリー、会議室などを活用し、講座や市民文化交流イベント、上映会などを定期的に行なう。夏休みに開催される図書館子どもまつりでは、複合施設全体がイベントの場として機能し、2日間にわたり朗読、大道芸、ヒーローショーなど、多彩な行事を実施。

平成 28～平成 29 年度には人口6～10 万人規模の自治体における貸出冊数が2年連続で全国1位を記録。



● 複合施設全体での子育て世代層の利用支援

複合施設内の託児室でボランティア団体による図書館利用者向けの有料の託児サービスを展開するほか、エントランス付近のレストランはキッズスペースを設置し、図書館帰りに立ち寄る保護者がくつろいで読書できる場を提供。

出典)「日本の図書館 2017」、大府市HP、おおぶ文化交流の杜HP、allobu健康カフェHP

表 4-9 他機能と連携して特長的サービスを展開している事例④

玉野市立図書館（天満屋ハピータウン・メルカ内）			
1 所在地	岡山県玉野市宇野 1-38-1	7 奉仕人口	61,975 人
2 開館年月	平成 29 年 4 月	8 貸出冊数	190,576 冊
3 開館時間	9:00～21:00	9 来館者数	46,817 人
4 休館日	月曜日(祝日の場合は次の平日)、 12月29日～1月3日、 特別整理期間(3月13日～3月16日)	10 蔵書冊数	182,615 冊
5 延床面積	2,260 m ² (複合施設全体 29,585 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	公民館、ミュージアム、百貨店、専門店、 スポーツクラブ他	12 駐車場	400 台 (無料・共有)

特徴

● 公民館との融合による利用促進・相乗効果創出

中心市街地における市民サービスの向上と賑わいの創出を図るとともに、図書館と公民館との連携を核とした学びと課題解決活動による生涯学習社会の充実のため、図書館と中央公民館を中心市街地の既存商業施設(天満屋ハピータウン・メルカ)内に立地。

図書館の開架スペースに研修室などの公民館の諸室を点在させ、ガラス越しに互いの利用・活動状況が見える仕組みとすることで、複合施設としての一体感を創出し、双方の施設の利用を促進。

図書館、公民館、ミュージアム、ギャラリーを指定管理者1社が一体的に管理運営し、総合カウンターでの一括対応や各種連携事業の開催など、各機能を融合したサービスを展開することで、さらに利用者利便性を向上。

● 商業施設内での立地を活かした賑わいの創出

100円ショップや衣料品店などの立地する専門店と同一フロアに立地。商業施設のホームページでの図書館や公民館のイベント情報の発信、1階のイベントスペースを活用した事業の実施など、立地を活かした連携事業の展開により、双方の利用者層の拡大に貢献。商業施設内のテナントの営業時間(最大 22 時)などを考慮し、図書館・公民館ともに 21 時まで開館し、商業施設利用者の立ち寄り利用を促進。



画像出典) 玉野市HP



写真出典) 玉野市立図書館・中央公民館 Facebook

出典)「日本の図書館 2017」、玉野市立図書館・中央公民館HP、玉野市HP

表 4-10 他機能と連携して特長的サービスを展開している事例⑤

徳島市立図書館（アミコビル内）			
1 所在地	徳島県徳島市元町 1-24	7 奉仕人口	256,451 人
2 開館年月	平成 24 年 4 月	8 貸出冊数	1,056,240 冊
3 開館時間	9:00～21:00	9 来館者数	561,331 人
4 休館日	毎月第1火曜日、1月1日、 長期図書整理期間(年 10 日間以内)	10 蔵書冊数	479,692 冊
5 延床面積	3,440 m ² (複合施設全体 87,654 m ²)	11 運営形態	指定管理者
6 併設施設	シビックセンター、百貨店、専門店、ホテル、 オフィス	12 駐車場	-
特徴			
<ul style="list-style-type: none"> ● 民間施設と連携したサービス展開・相互利用促進 駅前の商業施設内に立地する利点を活かし、併設する百貨店やホテルと連携した事業を展開。図書館貸出カード保持者はレストランのランチバイキングの100円割引が受けられるほか、ホテル宿泊客は団体貸出による図書館資料の利用が可能。連携したサービス展開により、施設全体としてのサービスを向上するとともに各施設間の相互利用を促進。 		 <p>写真出典) 徳島市立図書館HP</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 地元サッカーチームとの連携 地域に根ざした主要団体としての地元 J リーグチームの徳島ヴォルティスと連携し、常設の特設コーナーの設置、選手によるおはなし会とサイン会の実施など、地域連携とともに子どもたちの成長支援への積極的な取り組みを実施。 		 <p>写真出典) 徳島市立図書館HP</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 徳島大学図書館との連携協力事業の実施 徳島大学附属図書館と徳島市立図書館が、図書館による地域貢献を果たすとともに、利用者の利便性や図書館サービスを向上させ、図書館の利用を促進し価値を高めることを目的として、それぞれの特性を活かした幅広い連携協力を推進。 連携協力の一環として、市立図書館職員と大学図書館職員との合同研修の実施、徳島市立図書館6階一般室にテーマに沿った企画展示などを実施する徳島大学コーナーの設置、大学の教授を招いた健康講座の実施などを通じてサービス向上に寄与。 		 <p>写真出典) 徳島市立図書館HP</p>	

出典)「日本の図書館 2017」、「徳島市立図書館概要平成 29 年度版」、徳島市立図書館HP

表 4-11 市民協働を重視している事例

鯖江市図書館（鯖江市文化の館内）			
1 所在地	福井県鯖江市水落町 2-25-28	7 奉仕人口	69, 104 人
2 開館年月	平成9年 12 月	8 貸出冊数	380, 208 冊
3 開館時間	10:00～18:00(金曜日 10:00～20:00、 金曜日が祝日の場合は 10:00～18:00)	9 来館者数	283, 431 人
4 休館日	毎月第4木曜日(祝日の場合は振替)、 12 月 29 日～1月3日、蔵書点検(通常年5日)	10 蔵書冊数	335, 603 冊
5 延床面積	5, 603 m ² (複合施設全体 6, 656 m ²)	11 運営形態	直営
6 併設施設	視聴覚ライブラリー、映像情報館	12 駐車場	約 200 台 (無料・共有)

特徴

● 様々な活動団体との協働企画実施

「さばえ図書館友の会」や「さばえっこ図書館ボランティアネットワーク」、「こどものつどい協力者グループ」など、市民ボランティア団体と協同して様々な事業を企画し実行。

市民と図書館をつなぐ架け橋になることを目的に掲げ、昭和63年4月に設立された「さばえ図書館友の会」では、運営費を年額1,500円の会費で賄いながら、毎月1回「友の会たより」を発行し、図書館での催し物などを案内するとともに、図書館と協同してライブラリーカフェやライブラリーカフェコンサートを企画。



写真出典) さばえ図書館友の会HP

● さばえライブラリーカフェの開催

図書館、さばえ図書館友の会、関連団体で平成17年度から計画・実施。「新書のような手軽さ」をモットーに、医学や経済、地場産業など多様なテーマを扱い、毎回50人ほどが参加。平成30年4月17日時点で通算156回実施。毎回の講演録と参加者の感想を友の会の会報などに掲載。



写真出典) 鯖江市文化の館 Facebook

● 女子高生のアイデアを基にした図書館アプリの開発

「鯖江市役所JK課」が女子高生のアイデアを取り入れ、鯖江市図書館の個人用機の空席状況の確認、本の検索、図書館の本の返却可能施設の地図上の表示といった機能を備える図書館アプリ「Sabota」を作成し公開。



写真出典) 鯖江市HP

出典) 「日本の図書館 2017」、「平成29年度鯖江市文化の館年報」、鯖江市図書館HP、鯖江市HP

4.2. 社会的動向

(1) 図書館を取り巻く社会的環境の変化

近年、少子高齢化、ICT化の進展、ライフスタイルの多様化、コミュニティの希薄化、東日本大震災に伴う社会のあり方の変化などに伴い、表 4-12 に示すように公共図書館に期待される役割が多様化しています。

表 4-12 社会的環境の変化と公共図書館に求められる役割

項目	内容
① 少子高齢化と人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ● 「超高齢社会」の到来に伴い、公共図書館でも高齢者のニーズへ対応することが求められており、公共図書館という居場所を活かした交流や生きがいづくりの支援が必要 ● 安心して子どもを産み育てられる環境へのニーズが高まる中で、公共図書館では親子連れが利用しやすい施設・設備・サービスなどの充実、子育てに関連する情報やサービスの提供、子育て世代の市民のつながりの創出に資する場の提供などが必要
② ICT化の進展	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT社会の進展に伴いインターネットやモバイル端末が普及する中で、公共図書館でもICTの導入が進む ● 平成22年は電子書籍元年といわれるなど、資料や情報のデジタル化は今後も進展していくものと考えられ、公共図書館でも紙とデジタル資料とを効率的に組み合わせ、利用者のニーズに応じた資料提供を行うことが必要
③ ライフスタイルや価値観の変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 時代の変化に伴い市民のライフスタイル、働き方、家族構成、価値観などが多様化する中で、生活の豊かさやゆとりなどへの要求が高まり、資料を借りたり情報を調べたりするほか、日常の課題について相談したり、くつろぎの時間を過ごしたり、文化活動を楽しんだりする場としての機能が求められており、市民一人ひとりの多様なニーズに対応していくことが必要
④ 地域コミュニティの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少、核家族化を背景に地域コミュニティや人と人とのつながりが希薄化している中で、公共図書館はその集客性を活かして市民を惹きつけ、出会いの場、交流の場、賑わいの場として機能することが必要 ● 大規模災害などをきっかけに絆づくりの重要性も再認識されており、公共図書館の所蔵する資料や情報を活用し、同じ分野に興味・関心を持つ市民と市民とを結び付け、新たな知のネットワークの創出を期待
⑤ 地域の記憶の必要性の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災などの大規模災害の経験から、被災の記憶やそこから得た教訓を未来へとつなごうという機運が高まっており、市民が自らの住む地域について知り、学び、考え、愛着を育むという流れの中でも地域独自の資料や情報は大きな役割を果たしていることから、それぞれの地域の過去から現在までの記録と資料を網羅的に収集、保存し、未来へとつなげていく公共図書館の重要性が増大

項目	内容
⑥ 経済や文化のグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会のグローバル化に伴い国境を越えた人の移動が日常化する中で、世界の中での日本を理解することの重要性が高まっているほか、東京オリンピック・パラリンピックの開催などを機に訪日外国人数もさらに増加することが想定されるため、公共図書館でも多文化共生に関する学習機会の提供が求められるほか、外国人の日本語や日本社会に対する理解を支援したり、多文化交流機会を提供したりすることなども必要
⑦ 貧困と格差の出現	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期の経済不振や非正規雇用の拡大などに伴い、一億総中流社会から貧困と格差が問題となる社会への変容が見られる中で、貧困の連鎖や格差の固定化を防ぐという観点から公共図書館の重要性が増しており、家庭環境などにより市民の学習環境の格差が拡大することのないよう、困難を抱えた市民へ資料・情報利用機会を確保することなどが必要
⑧ 学校図書館との連携要請の強まり	<ul style="list-style-type: none"> ● 高度情報化社会の進展に伴う意思決定の複雑化を背景に子どもの「生きる力」の育成が必要とされており、学校図書館もその重要性を増しているため、公共図書館と学校図書館とはそれぞれ独自のサービスを展開するのではなく、連携を密にしていくことで子どもの読書環境の充実を図っていくことが必要

(2) 国の図書館関連行政の動向

公共図書館がそれぞれの特性を活かしつつ、「(1)図書館を取り巻く社会的環境の変化」に示す事項などへ対応していくことを支援するための図書館関係法の改正、事例提供や調査研究、政策提言などが行われています。現代的・社会的な課題に対応した学習などの推進、学びの場を核とした地域コミュニティの形成をめざした取り組み、学習や社会生活に困難を有する者への学習機会の提供などが重視されているほか、学校、家庭、地域との連携の基に地域の教育力を高めるための取り組みなどが進められています（表 4-13 参照）。

表 4-13 国の図書館関連施策の動向

年	月	内 容
平成 24 年	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省告示第 172 号) <ul style="list-style-type: none"> - 公立図書館だけでなく私立図書館を含む内容へ改正 - 図書館法改正を踏まえ、図書館における評価やその結果の住民への情報提供、家庭教育の向上に資することや学習成果を活用して行う活動の機会の提供などを盛り込み - 図書館に関するニーズ等を踏まえ、レファレンスサービスの充実、課題解決支援、ハイブリッド図書館、多様な資料の提供、児童・青少年サービスの充実、関係機関との連携・協力や図書館経営に必要な視点を盛り込み
平成 25 年	5 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」 閣議決定 <ul style="list-style-type: none"> - 子どもの読書活動の推進に係る施策の基本方針と具体的な方策をまとめた5ヶ年計画 - 基本の方針として、国及び地方公共団体は、1. 家庭,地域,学校を通じた社会全体における取り組み、2. 子どもの読書活動を支える環境の整備、3. 子どもの読書活動に関する意義の普及等を通じて、子どもの自主的な読書活動の重要性を踏まえて、推進を図ることを掲げる
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第二期教育振興基本計画」 閣議決定 <ul style="list-style-type: none"> - 教育基本法改正を踏まえ教育再生を実現するため、生涯の各段階を貫く方向性や具体的な方策等を掲げる - 4つの基本的方向性の下に、8つの成果目標と30の基本施策を掲げる - 図書館関連施策としては、基本施策11: 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進、基本施策18: 学習や社会生活に困難を有する機会の提供、基本施策20: 活力あるコミュニティ形成に向けた学習環境・協働体制整備等
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」 公布 <ul style="list-style-type: none"> - 障害を理由に差別的取扱いや権利侵害をしてはいけないこと、社会的障壁を取り除くための合理的な配慮をすること、国は差別や権利侵害を防止するための啓発や知識を広げるための取り組みを行わなければならないことなどを規定 - 図書館における合理的配慮の例としては、手話や点字などで意思疎通をしやすくすること、大活字本や音声図書、電子書籍の提供等があり、国の行政機関・地方公共団体には法的義務、民間事業者には努力義務が課せられる
平成 26 年	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学校図書館法の一部を改正する法律(改正法)」 公布 <ul style="list-style-type: none"> - 専ら学校図書館の職務に従事する職員を学校司書として位置付け、これを学校に置くよう努めることなどを規定 - 学校には司書教諭のほか、学校司書を置くよう努めること、学校司書の資質向上を図るため、研修その他の必要な措置を講ずることなどを規定
平成 30 年	4 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」 閣議決定 <ul style="list-style-type: none"> - 2018~2022 年度にわたる子供の読書活動推進に関する基本方針と具体的な方策を明らかにした - ①読書週間の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取り組みの推進②友人同士で本を勧め合うなど、読書への関心を高める取組みの充実③情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第3期教育振興基本計画」 閣議決定 <ul style="list-style-type: none"> - 2030年以降の社会の変化を見据えた教育政策の在り方を示す - 今後の教育政策に関する基本的な方針として①夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する ②社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する③生涯学び、活躍できる環境を整える④誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する⑤教育政策推進のための基盤を整備する

5. 市民ニーズ

5.1. 図書館ボランティアヒアリング調査

図書館ボランティアの現在の活動状況や今後の江南市図書館に求める機能などについて把握するため、ヒアリング調査を実施しました。調査は平成30年7月18日(水)午後2時から午後5時まで、7団体12名を2グループに分けて行いました。

調査に参加した団体は表5-1のとおりで、おはなし会、ブックトーク、点訳・音訳資料の作成、蔵書の修理や配架などを行っており、多くの活動は会議室で行われています。しかし、作業スペース、勉強会や打合せのためのスペース、備品の保管スペースなどが不足しており、ボランティア室のほか、おはなしの部屋、会議室、録音室、講演会が開催できる多目的ホールなどの諸室の充実が必要とされています(表5-2参照)。

また、ボランティア活動を継続していく上での課題として、新規会員の獲得や活動の認知度の向上なども挙げられ、養成講座の開催、点訳本などの紹介、館外での活動や広報活動への協力といった活動支援を求める意見も多く見られました。また、複数の団体が一体となって図書館を支える仕組みの構築の必要性が挙げられ、ボランティア団体間の連携のための機会や場が求められています。

その他、自動車を利用しない会員や行事の参加者の来館を容易にするための公共交通の整備や、活動時に使用可能な駐車場・駐輪場の確保を求める意見も見られました。

表 5-1 図書館ボランティアヒアリング結果（1）現在の活動状況と問題点

	活動内容	活動概要	現在の問題点など
1	おはなし会 (ストーリー テリング)	[規模] 13名 [活動頻度] おはなし会：月1回 勉強会：月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館では勉強会の実施が困難になった ・会員を増やすために養成講座の開催が必要
2	おはなし会 (歌など含む)	[規模] 4名 [活動頻度] おはなし会：年4回	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声が漏れて苦情に繋がる心配があり、図書館で練習が行えない ・備品の保管場所がなく、小さなものは会員の自宅に、大きなものは図書館の空調管理室に保管している
3	おはなし会 (読み聞かせ)	[規模] 10名 [活動頻度] おはなし会：年4回 勉強会：月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・備品の保管場所がない ・会議室は学習スペースとしても使用しているため、勉強会は利用者の少ない日時に行っている ・車を利用しない会員もいるため遠距離の移動が困難
4	音訳テープ 作成、 おはなし会 (読み聞かせ)	[規模] 19名	<ul style="list-style-type: none"> ・録音・編集する設備や勉強会・講座を開催できる部屋が図書館にない ・音訳養成講座の参加者が少ない ・活動資金が足りない
5	点訳図書作成	[規模] 8名程度 [活動頻度] 例会：月2回	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳資料の利用者が少ない ・年代によって点字の認識率が低い ・図書館との接点が少ない（例会は設備の整った社会福祉協議会で、点訳作業は自宅で行っている）
6	ブックトーク、 蔵書修理	[活動頻度] ブックトーク：年4回 蔵書修理：月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・会員を増やす努力が必要である
7	配架、 蔵書修理、 講演会など	[規模] 160名程度 [活動単位] 配架：3名 蔵書修理：3～4名 [活動頻度] 配架：月2回、土日 蔵書修理：月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会を行う場所が図書館にない ・館外の活動の宣伝に図書館から協力が得られない ・ボランティア同士の活動や様子を知る機会がない

表 5-2 図書館ボランティアヒアリング結果（2）図書館に求める機能

	分類	ヒアリング内容
必要諸室	おはなしの部屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20～30 人規模の独立した部屋 ・ ボランティア団体のおはなし会や練習が優先だが、空いている時間は利用者が親子で使用できるようにするとよい ・ 階段状・すり鉢状で多目的に使える形状 ・ 光や音を遮断できる仕組 ・ 窓などは不要 ・ 足音が響かず、座り心地のよい床
	ボランティア活動の紹介スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点字を身近に感じてもらうための点訳本スペース ・ おはなしの部屋の入り口や傍に活動紹介スペースがあると良い（おはなし会） ・ 地域で活動する団体を広く紹介する展示スペースや掲示板
	録音室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声の編集もできる録音室 ・ 音訳資料の整理や復旧作業のできる部屋
	会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大・小で2つ欲しい（ブックトーク） ・ 勉強会ができる 10～20 人規模の部屋（おはなし会） ・ 講師を呼んで講習会が行える部屋（音訳、おはなし会） ・ 職員と共用でもよい
	ボランティア室	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア室内に備品置き場があるとよい ・ 印刷機や資料を置く棚などの用意（配架・蔵書修理） ・ 他のボランティア団体とは共用でよい
	備品置き場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大小の備品を保管したり作成したりできる倉庫 ・ 備品倉庫（ブックトーク）
	その他の施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100 人規模の多目的ホール（講演会） ・ 多目的に使用できる 50 人規模のミニシアター ・ エレベーター、多機能トイレなどバリアフリーへの配慮
必要な支援	活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館外での活動の宣伝や広報活動への協力（講演会） ・ ボランティア団体同士が協力して図書館を支えるために話し合える機会・場
	会員獲得支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館でのストーリーテリング養成講座の開催
その他	今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館新規利用者獲得のための企画にボランティアとして関わりたい ・ 現在は図書館との接点が少ないため、今後接点を増やしたい
	交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車を利用しない会員のためにコミュニティバスが欲しい ・ ボランティアやおはなし会の参加者が無料で使える駐車・駐輪スペースの確保を望む

5.2. 図書館職員ヒアリング調査

現市立図書館の現状や課題と、今後の江南市図書館に求める機能や規模などについて把握するため、現場に勤務している図書館職員 16 名を対象としたヒアリング調査を行いました。調査は平成 30 年 6 月 28 日（木）午後 2 時から午後 4 時 30 分まで、職員 15 名を 3 グループに分けて実施し、残りの 1 名からは文書で回答を得ました。

調査の結果、施設の狭隘化に伴う各種スペースの不足を指摘する意見が多く見られました（表 5-3 参照）。現在は、会議室をおはなし会や打合せなどの多様な目的で使用しているため、部屋から漏れた声が他の利用者からのクレームに繋がっている状況も見られます。そのため、一般・児童それぞれでの十分な開架スペースの確保のほか、各種目的に応じて利用可能な諸室や業務に集中できる作業スペースの設置などを求める意見が見られました。

現在は、保育園帰りの親子の利用が多いことなどを踏まえ、絵本・育児書や子ども用の机・椅子の充実など、子育て世代が快適に利用できる環境を求める意見も多くなっています。さらに、ブックスタート事業を協働で展開する保健センターとの併設となることから、さらなる連携の強化を通じたサービスの充実や、子育て世代間の交流の支援などを期待する意見も見られました。

その他には、若い世代向けのイベントの開催や図書館未利用者層へアピールするための目新しい機器類の導入、視聴覚資料・郷土資料の利用の促進、作業時間の確保が可能な開館日・時間の設定などの必要性も挙げられました。

表 5-3 図書館職員ヒアリング調査結果

	大分類	小分類	ヒアリング内容
1 現状や課題について	サービス	イベント・行事	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館らしい行事・特集ができるよう工夫が必要 ・休館日が少なく、読み聞かせなどの準備に時間が取れない
		館外でのサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・現行のサービスはいずれも好評 ・人員が増えなければ充実は難しい
	施設	各種スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・書架スペースが狭い ・閉架書庫に余裕がなく、図書館に置けない資料は藤里小学校に置かれている ・DVD視聴席の配置や環境が良くない、複数人で視聴できない ・学習スペースが不足 ・おはなし会のスペースがなく、声が漏れてクレームに繋がることがある
		動線	<ul style="list-style-type: none"> ・職員用の休憩室へ行くには弁当を持ってロビーを通り抜けなければならない、動線に配慮が必要
		バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・階段が多く、高齢者や足が不自由な人にとって不便 ・昇降機では中2階や3階まで行けない ・ベビーカーや杖を使っている利用者は昇降機の利用を避けることも多い
		駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・広さは足りている ・図書館まで遠く、雨が降ったときに不便 ・水はけが悪く、雨が降ると水溜りができる
		立地・交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回バスがない ・図書館が現在の場所にあるからこそ来館する利用者もいる
	管理運営	休館日	<ul style="list-style-type: none"> ・休館日や館内整理日が少なく、業務の負担が大きい
		資料管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ICを導入していないがあったほうがよい ・配置の関係上目の届きにくい雑誌コーナー・閉架書庫をフォローするためにもICは必要 ・本の盗難が多い ・防犯カメラは抑止力として働いている
		職員数	<ul style="list-style-type: none"> ・人数がギリギリ ・土日にイベントがあると人数が不足する
	利用状況	時間帯	<ul style="list-style-type: none"> ・閉館時間間際には利用者が数人しかいない ・試験期間中の学生向けに遅くまで開館してほしいという要望もある
		平日	<ul style="list-style-type: none"> ・午前は年配の男性が多い ・14時以降は若い利用者が増える ・夕方頃から保育園帰りの親子が多くなる
		土曜・日曜・休日	<ul style="list-style-type: none"> ・家族連れも多い ・学生が学習目的で来館する
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生は自習に来るのみ、貸出フロアには来ない

	大分類	小分類	ヒアリング内容
2 今後の江南市図書館に求める機能・規模について	必要な機能	サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊本の充実 ・ビジネス書、洋書、育児書、絵本・児童書の充実 ・郷土資料の開架への設置、利用の促進 ・視聴覚資料の貸出の促進 ・若い世代や高齢者向けのイベントの提供 ・調べ物をする利用者のサポート ・サービスの数ではなく質の向上
		施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・館内でくつろいで過ごせる配慮 ・エレベーターまたはエスカレーター ・授乳室/男性も利用できるおむつ交換スペース/トイレ内の児童用手洗い場/おはなしスペース/会議室/学習室/本の修理スペース/職員・ボランティア専用スペース ・児童用と一般用で分かれた開架スペース ・児童用と一般用それぞれのテーブルや椅子 ・書類記入のための記載台 ・虫の侵入を防ぐ網戸 ・自動返却機があるとよい ・目新しいアピールポイント（書籍消毒機や読書通帳、自習室予約システム、新聞拡大システムなど）
		管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・遅くまで開館すると会社帰りの人にはメリットになる ・時期に合わせて開館時間を変えてもよい ・あまり遅くまで開館しすぎるのも防犯上よくない ・閉館時間が遅くなりすぎると、勤務が厳しくなる可能性がある ・休館日が週に1日あれば、作業や事務を計画的に行える
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの整備 ・職員が車で通勤できる環境（駐車場など）
	他施設との連携による相乗効果が期待できる機能	保健センター	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターのPR（現在図書館で健康に関連する特集コーナーとチラシを設置して行っている） ・ブックスタートがやりやすくなる ・保健センターを訪れる子育て世代層の交流の支援 ・医者へのニーズにも応えられるような連携
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史民俗資料館と図書館の郷土資料を連携させたい ・図書館と学校のシステムの統一 ・ロビーコンサートなど文化的な催し ・スーパーでも20～21時は利用者がほとんどおらず、複合化して遅くまで開館したとしても相乗効果が見込めるか疑問

5.3. 市民アンケート調査

(1) 調査概要

市民の現市立図書館の利用状況や今後のあり方に対する意向を把握するため、表 5-4 に示す市民アンケート調査を実施しました。調査は平成 30 年 6 月に実施し、955 票の回答が得られました。

表 5-4 市民アンケート調査概要

項目	内容
1. 調査名	江南市立図書館に関する市民アンケート調査
2. 調査対象	13 歳以上の市民 2,000 名
3. 調査方法	郵送配布・郵送回収
4. 調査内容	①現市立図書館の利用状況 ②今後の市立図書館に望むこと ③属性
5. 調査期間	平成 30 年 6 月 15 日（金）～29 日（金）
6. 回収数	955 票（回収率 47.8%）

(2) 調査結果

1) 回答者属性

回答者の年齢層は図 5-1 のとおりです。「60 歳代」(20.1%) がもっとも多く、「40 歳代」(18.0%)、「50 歳代」(17.5%) がその後に続いており、中高年齢層の占める割合が高くなっています。

居住区別では、「古知野南小学校区」(16.4%) と「布袋小学校区」(16.3%) がほぼ同値でもっとも多く、その次に「古知野東小学校区」(11.9%)、「古知野北小学校区」(9.2%) が多くなっています。

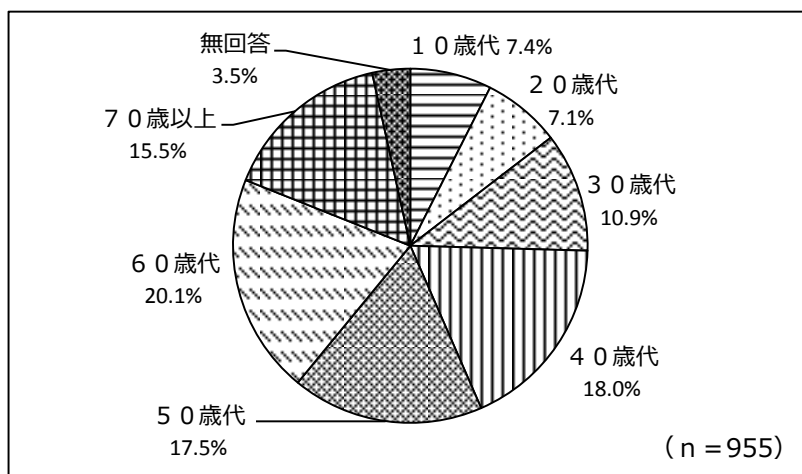


図 5-1 回答者の年齢

2) 現市立図書館の利用状況

過去1年以内の利用は、「利用したことがある」は40%弱にとどまり、「利用したことがない」が60%を超える結果となりました。さらに、「利用したことがある」回答者の利用頻度は「年数回程度」が半数を超えており、活発に利用されているとはいえない状況です。

年代別では、「利用したことがある」回答者は30～40歳代で45%以上と比較的多く、50～60代では30%前後と少なくなっています。

図書館の利用目的は「本・雑誌・CD等を借りたり返したりするため」(74.1%)が非常に多く、また滞在時間は1時間程度までが80%近くを占めていることから、資料の貸出・返却目的の利用が多く、短時間利用に繋がっていると考えられます。

図書館を利用しない理由は図 5-2 のとおりで、「図書館が遠い、交通のアクセスが不便」(20.5%)がもっとも多く、次いで「本や雑誌は自分で買う」(18.8%)、「時間がない、開館時間中に行くことができない」(10.3%)となっています。また、蔵書冊数が不十分である、施設の雰囲気が暗い、距離が遠いなどの理由から「市外の図書館を利用する」(8.1%)という回答も見られるほか、育児中のため利用できない、図書館の場所を知らない、図書館へ行くきっかけがないという回答も寄せられました。

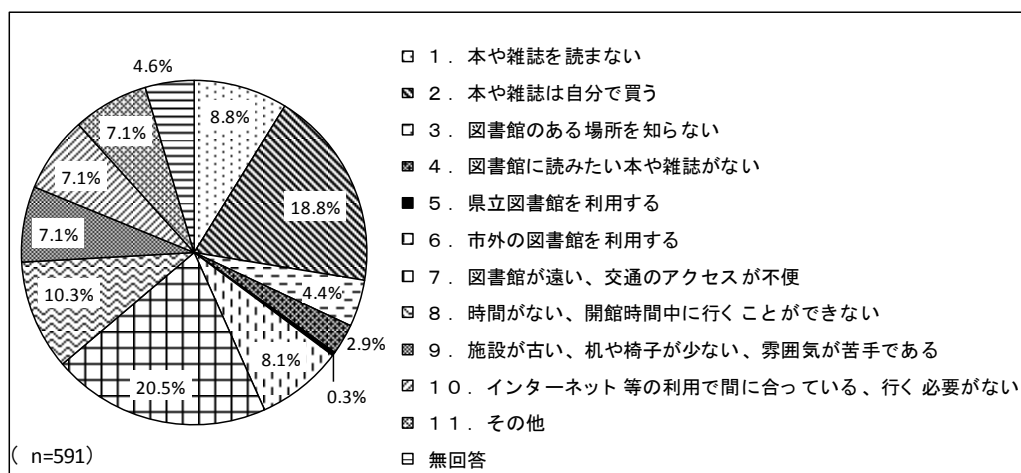


図 5-2 市立図書館を利用しない理由

3) 今後の市立図書館に望むこと

今後の図書館に望むことについては、「ゆったりとくつろいで本や雑誌を読むことができる」(55.4%)という回答がもっとも多く、次いで「目的がなくても気軽に立ち寄ることができる」(32.9%)、「静かな空間で落ち着いて学習ができる」(25.8%)となっています(図 5-3 参照)。また、過去1年以内に利用のなかった回答者においては、「目的がなくても気軽に立ち寄れる」、「本を読みながら飲食ができる」がより多くなっており、気軽な利用へのニーズが高くなっています。

年代別では、10～20代の若い世代で電子端末を通じた図書館利用、自由な飲食へのニーズが高くなっており、10代では個人やグループで利用できる学習環境も求めら

られています。また 20～30 代では子育てに図書館を活用することに関心が高く、70 歳以上は医療や健康についての情報収集へのニーズが高くなっています。

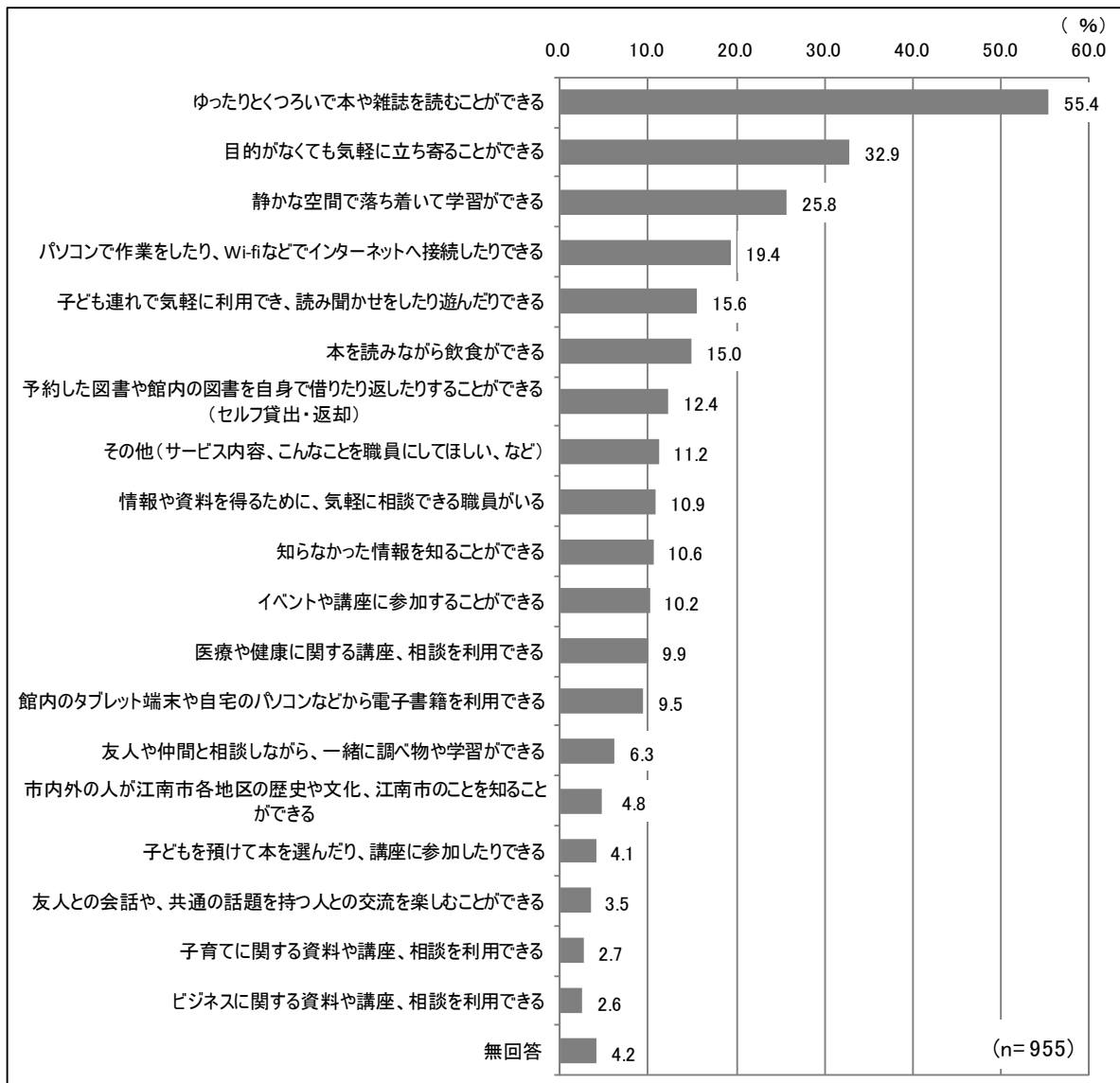


図 5-3 今後の市立図書館に望むこと

今後拡充していくべき資料については、「趣味・実用書」(31.8%)、「小説」(31.3%)、「児童書・絵本」(31.7%)がほぼ同値でもっとも多くなっています。年代別では、10～20代で「小説」が、30～40代で「児童書・絵本」が、50代で「CD・映像資料」が、60歳以上で「趣味・実用書」及び「医療に関する図書」が特に多くなっています。

閉館時間については、「20時」(31.4%)とする回答がもっとも多く、次いで「19時」(28.2%)となっています。年齢別で見ると、若い世代ほど遅くまでの開館を希望する傾向が見られ、10～20代では「21時」が25%を超えています。

また自由意見では、明るく訪れやすい雰囲気などを求める意見が多く見られたほか、「インターネットで検索して予約できると良い」など、インターネット上での蔵書検索機能や予約機能を求める声が複数寄せられており、図書館のホームページ上で行われている既存サービスが十分に周知されていない様子が見られます。

5.4. 利用者アンケート調査

(1) 調査概要

現市立図書館の利用状況や今後のあり方に対する図書館利用者の意向を把握するため、表 5-5 に示す利用者アンケート調査を実施しました。調査は平成 30 年 6 月に実施し、438 票の回答が得られました。

表 5-5 利用者アンケート調査概要

項目	内容
1. 調査名	江南市立図書館に関する利用者アンケート調査
2. 調査対象	13 歳以上の現市立図書館利用者
3. 調査方法	直接配布・直接回収
4. 調査内容	①現市立図書館の利用状況 ②今後の市立図書館に望むこと ③属性
5. 調査期間	平成 30 年 6 月 8 日（金）～17 日（日）
6. 回収数	438 票

(2) 調査結果

1) 回答者属性

回答者の年齢構成は図 5-4 のとおりです。「40 歳代」(22.1%) がもっとも多く、「70 歳代」(19.9%)、「60 歳代」(18.3%) がその後に続いています。一方、「10 歳代」(3.0%)、「20 歳代」(3.0%) といった若年層は少なくなっています。

居住区別では、「古知野南小学校区」(20.5%) がもっとも多く、続いて「古知野東小学校区」(13.7%)、「布袋小学校区」(13.2%) が多く、市民アンケート結果と比較すると布袋小学校区がやや少なくなっています。

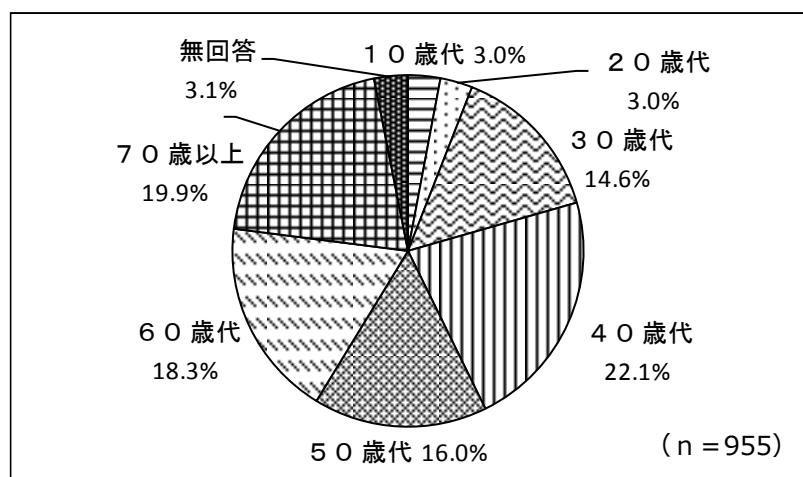


図 5-4 回答者の年齢

2) 現市立図書館の利用状況

図書館の利用目的・滞在時間は、市民アンケートで見られた傾向がより強く現れており、利用目的を「本・雑誌・CD等を借りたり返したりするため」とする回答者や、滞在時間を1時間程度までとする回答者が約90%を占めています。また利用頻度も「月に1～2回程度」(65.8%)、「週に1～2回程度」(23.7%)が多いことから、資料の貸出・返却目的での定期的な利用が多いと考えられます。

図書館までの交通手段では「自家用車」が70%以上を占めています。居住区別では、現市立図書館に近い古知野東小学校区、布袋北小学校区で自家用車の利用割合がやや下がり、25%以上の自転車の利用が見られます。

図書館の満足度に対する回答は図 5-5 のとおりです。「開館時間」、「職員の対応」に対して「満足」または「やや満足」と回答した人がいずれも80%を超えています。一方、「規模」「施設の充実度」に「不満」または「やや不満」であるという回答はどちらも60%前後であり、改善が必要と考えられます。

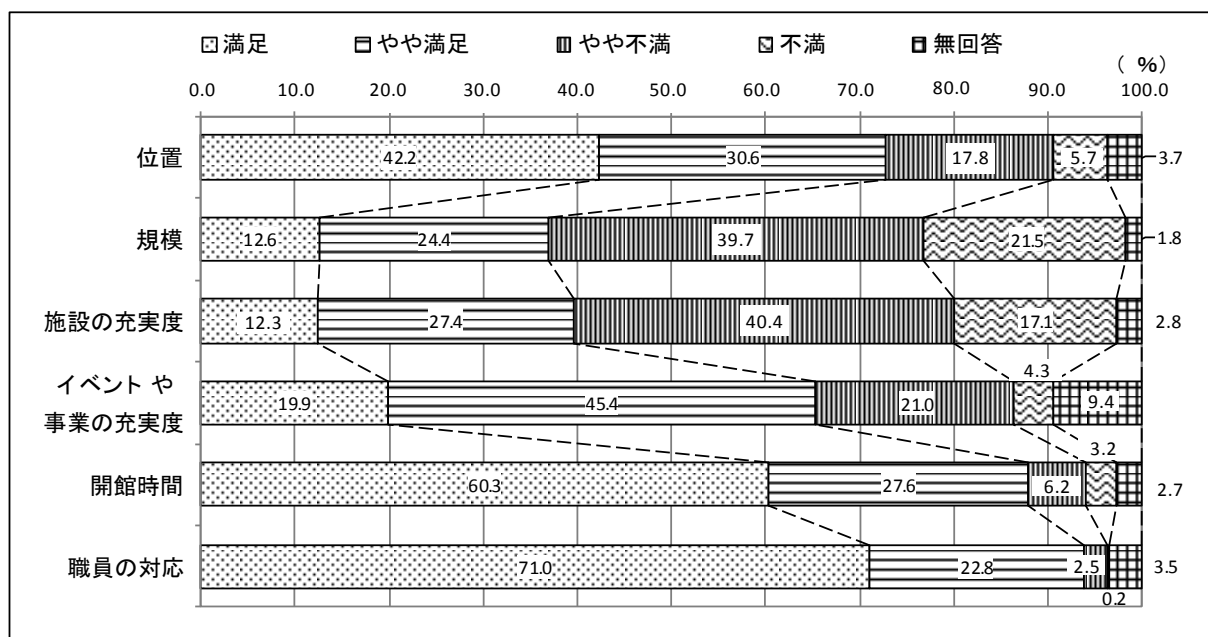


図 5-5 現市立図書館の項目別満足度

3) 今後の市立図書館に望むこと

今後の市立図書館に望む機能については、「ゆったりとくつろいで本や雑誌を読むことができる」(66.4%)という回答がもっとも多いほか、「静かな空間で落ち着いて学習ができる」(22.1%)など、快適に読書や学習ができる空間へのニーズが高くなっています(図 5-6 参照)。また、「予約した図書や館内の図書を自身で借りたり返したりすることができる(セルフ貸出・返却)」(20.5%)ことへの関心も高くなっている一方、「目的がなくても気軽に立ち寄ることができる」(19.4%)は市民アンケートと比べてやや少ない結果となりました。

年齢別では、市民アンケートと同様に 10 代では電子端末を通じた図書館利用へのニーズが高く、20～40 代では子育てに図書館を活用することに関心が高くなっています。60 歳以上では「情報や資料を得るために、気軽に相談できる職員がいる」など、情報拠点としての機能が期待されています。

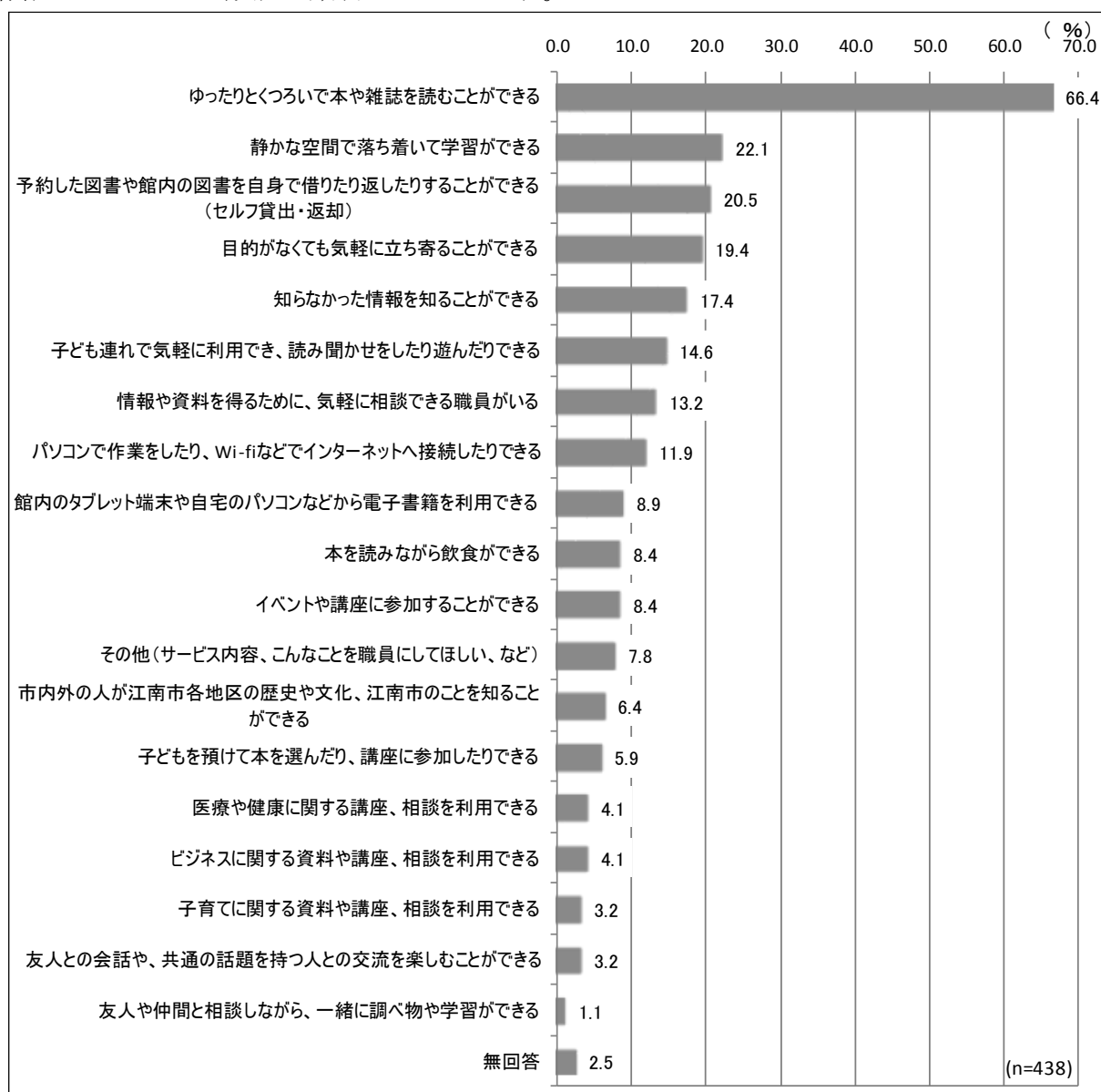


図 5-6 今後の市立図書館に望むこと

今後拡充していくべき資料については、「趣味・実用書」(39.3%)、「小説」(38.4%)が並んで多く、その後に「児童書・絵本」(26.7%)、「CD・映像資料」(24.9%)と続いています。また自由意見としても、「蔵書が古くて少ない」といった、新刊書や蔵書全体の拡充を求める意見が多くなっています。

閉館時間については、20 時、21 時といった遅い時間が多かった市民アンケートとは対照的に、「19 時」(40.6%)がもっとも多く、「18 時」(26.9%)、「20 時」(22.4%)と続き、比較的早い時間が多くなっています。

5.5. 平成 28 年度生涯学習講演会「まちの未来につながる図書館」アンケート

市民とともに図書館のあり方を考えるきっかけ作りを目的に「まちの未来につながる図書館」と題した講演会を開催し、参加者 270 人を対象にアンケートを実施しました。アンケートの概要は次のとおりです。

- 実施日：平成 29 年 2 月 18 日
- 回収数：158（回収率 58.5%）
- 調査項目：図書館には何が重要か、普段から江南市立図書館や他自治体の図書館を利用するのか、図書館はどんなときにするのか、江南市立図書館の良い点、よくない点、今後の江南市の図書館の形態について（以上 6 項目回答選択式）、自由意見（記述式）

図 5-7 は「図書館には何が重要と思われますか」（複数回答可）という設問に対する回答結果です。「交通アクセス」、「蔵書」が過半数を超えているほか、「読書スペース」（41.8%）、「学習スペース」（33.5%）、「高齢者や障害者にやさしい」（31.6%）も多くなっており、誰にとっても利用しやすいことや、蔵書・各スペースの充実などが望まれています。

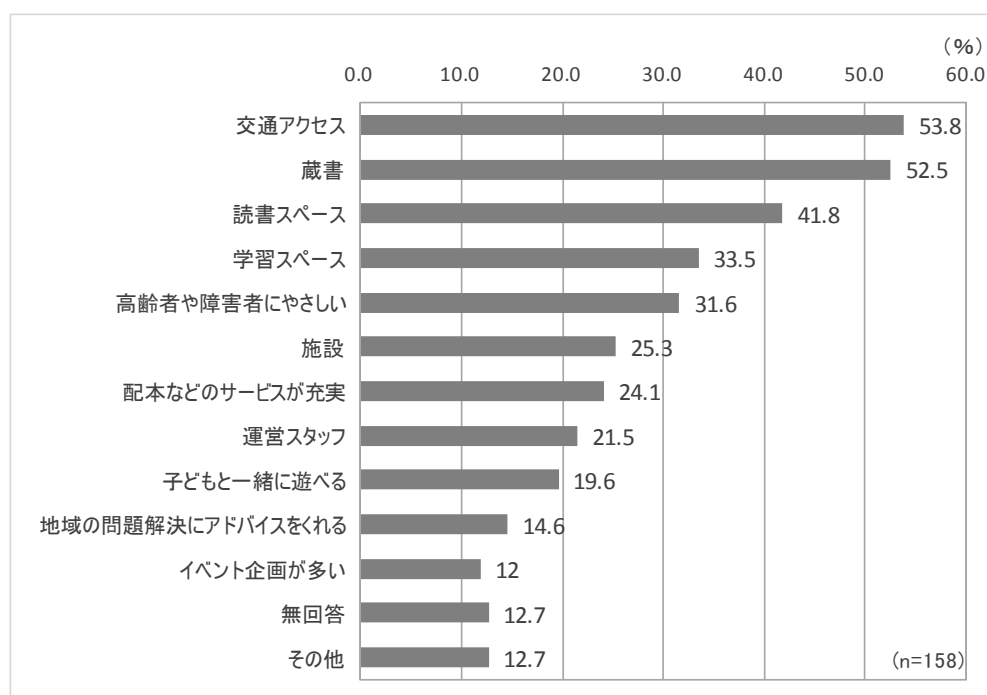


図 5-7 「まちの未来につながる図書館」アンケート回答結果

5.6. 市民ワークショップ

(1) ワークショップ概要

新市立図書館に望む機能についての市民意向を把握するため、表 5-6 のとおり市民ワークショップを開催しました。ワークショップは平成 30 年 7 月 22 日(日)に行い、公募により申込のあった市民 23 名が参加しました。

表 5-6 市民ワークショップ概要

項目	内容
1. 名称	これからの江南市立図書館のあり方について考えよう
2. 参加者	市民 23 名
3. 内容	・新市立図書館建設に関する経緯と現市立図書館概要説明 ・事例紹介 ・3 グループに分かれてのグループワーク ① 現市立図書館の良いところ・改善が必要なところ ② 私たちが行きたくなる新市立図書館
4. 開催日時	平成 30 年 7 月 22 日(日) 13:30~15:30
5. 開催場所	江南市中央コミュニティ・センター(老人福祉センター)

(2) ワークショップ結果

ワークショップを通じて挙げられた意見は表 5-7、表 5-8 のとおりです。現市立図書館では行事・展示や開館日数、職員の対応などのサービスに一定の評価が得られており、今後のさらなる充実が期待されています。一方、蔵書の冊数や構成、施設規模、諸室の配置などの改善を必要とする意見が複数寄せられ、新刊書や児童書といった各種資料の充実、ゆとりある空間や多様な利用目的・形態に対応したスペースの確保などが求められています。

また、気軽に来館できる工夫を求める意見や、本市のビジョンや特産品を打ち出すなど、本市の特長を活かしたテーマ性のある図書館を望む意見も見られることから、従来図書館には親しんでこなかった市民を含む幅広い市民に対する居場所の提供や、より積極的な情報発信も必要と考えます。

その他、資料のデジタル化や電子書籍の導入などの ICT の活用や、サービスポイントの充実へのニーズも見られます。

表 5-7 市民ワークショップ意見（1）：現市立図書館の良いところ・改善が必要なところ

分類	内容
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○他館にはない資料も所蔵している ●古い本が多く、新刊書が少ない ●専門書、大活字本、郷土資料などが充実していない ●蔵書が全体的に少ない
閲覧・貸出・返却	<ul style="list-style-type: none"> ●資料の並べ方がわかりにくい ●児童書と一般書が混在している ●横田文庫の貸出サービスがない ●紙芝居など、返却ボックスを利用できない資料がある
行事・展示	<ul style="list-style-type: none"> ○最近は行事が増えている ○時季や時事に対応した展示をしている ○図書館まつりでの展示が魅力的である ●大人向けの行事が少ない ●休日に開催される行事が少ない
アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> ○宅配サービス、返却ポストなど遠隔地でも利用できる工夫がある ●配本サービスを受けられる曜日が限定されている
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ○静かな環境である ○トイレがきれいになった ●雰囲気が暗い ●照明が暗く、窓が少ない ●閲覧席、雑誌・新聞コーナー、学習スペース、多目的スペース、通路など全体的に狭い ●話し合いができるスペース、読み聞かせのできるスペース、中高生の居場所、子ども用トイレがない ●郷土資料のある場所が目につきにくい ●雑誌の到着とバックナンバーのある場所が離れている ●児童コーナーとおはなし会をする部屋が離れている ●書庫や児童書コーナーが2階にあって不便
駐車場・屋外空間	<ul style="list-style-type: none"> ○花壇がある ○駐車場が広い
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ●段差が多い ●エレベーターがない
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ○休館日が少ない ○職員の対応が丁寧で優しい ●閉館時間が早い ●職員の数が少ない
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ○家から近い ●交通の便が悪く、来館できない人もいる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●検索端末による書架の案内がわかりにくい ●ホームページが古い

○良いところ ●改善が必要なところ

表 5-8 市民ワークショップ意見（2）：私たちが行きたくなる新市立図書館

分類	内容
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の充実（新刊本/児童書/ライトノベル/雑誌/外国語資料/大活字本/郷土資料）や複本の購入 ・インターネットによる検索機能の充実 ・市民からの寄贈を活用した蔵書構成
閲覧・貸出・返却	<ul style="list-style-type: none"> ・行政資料、電子書籍などをインターネットで閲覧できるサービス ・リクエストサービスの拡充 ・ブックポストの増設 ・自動貸出機・返却機の設置
行事・展示・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・利き酒、時事テーマ関連など大人向け行事の開催 ・講演会・原画展、繊維関連のワークショップなどの開催 ・図書館やスタッフの推薦書の紹介、展示 ・書店のように書籍を紹介するポップなどがあるとよい ・インスタグラム、ツイッターなどを活用した外部へのアピール
レファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス機能の充実 ・ICTの活用方法が教えてもらえるとよい
アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・分館、移動図書館、既存の公共施設への分室の設置、学校図書室の充実などによる遠隔地へのサービス
新規利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・託児サービスの実施 ・オリジナルスタンプ、ポイント制度など来館したくなる工夫 ・本を読まない人でも気軽に立ち寄れ、楽しめる工夫
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせスペース/一般開架スペースと分かれた児童スペース/学習室/会議室/パソコンスペース/調理室/スタジオ/カフェ・レストラン（飲酒も可）/地域資料コーナー/ボランティア団体や地域情報の紹介コーナー/プライバシーに配慮した視聴覚室/大人でも靴を脱いでくつろげるスペース/授乳室/ボランティアルーム/対面音読室 ・スペースにゆとりがあり、BGMが流れるくつろげる空間 ・セキュリティに配慮したWi-fiの整備 ・くつろげる椅子/児童書コーナー用のブックカート/遊び心ある小物・置物/低い書架/足音の響かない床 ・バリアフリーへの配慮
駐車場・屋外空間	<ul style="list-style-type: none"> ・立体駐車場などによる駐車スペースの確保 ・駐車場は無料で利用できるとよい ・施設内外に緑が多いとよい ・ベンチなどがあり、図書館の資料を持ち出して読める公園
他施設との連携など	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設も含めて1日中遊び、学べる空間 ・歴史民俗資料館との一元化、男女共同参画センター、女性しごと支援施設、市民活動センターなどとの連携 ・市役所の出張所やコンビニの併設 ・複合施設でない方がよい
特徴的な図書館づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市のビジョンに合わせた江南市らしい図書館づくり ・テーマ性があるとよい ・おりものの町として繊維産業をアピールする工夫 ・コミュニティ広場として利用できるとよい
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・職員（特に司書）の増員、待遇の改善 ・開館時間の延長
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスなど公共交通の整備

6. 江南市図書館の課題と今後のサービスのあり方

6.1. 江南市図書館の課題

(1) 資料面での課題

1) 十分な質・量の資料の確保

現市立図書館は築後 40 年以上が経過し、蔵書冊数（約 12 万 2 千冊）が収容能力（約 6 万冊）を大きく上回るなど、資料の計画的な収集・保存が難しい状況です。また、市内に 3 箇所ある公民館図書室でも蔵書の古さや少なさが目立ちます。本市の人口 1 人あたり蔵書冊数の水準は他自治体と比較して極めて低く、人口 1 人あたり資料費もほぼ同様の傾向が見られます。アンケート調査では、回答者の 60%以上が現市立図書館の規模を不満（「やや不満」含む）としており、市民ワークショップや職員ヒアリングでも蔵書の古さや資料の少なさを指摘する意見が見られました。今後は、質・量の両面から資料の充実や新陳代謝を図っていくことが必要です。

2) 市民ニーズや社会情勢の変化への対応

現市立図書館では児童書の利用が増加傾向にあり、アンケート調査でも約 30%の回答者がその充実を望んでいます。医療関連資料や視聴覚資料に対するニーズも存在するほか、各公民館図書室の蔵書は利用が少ないなど、現在の蔵書構成・資料構成と市民ニーズとの間にはギャップが見られます。新市立図書館では他施設との複合化に伴う利用者層の変化も想定されることから、今後は、より多様化する市民ニーズに適切かつ柔軟に対応した資料を収集・提供していくことが必要です。また、情報社会の進展に伴い公共図書館でも I C T の導入が進んでいることを踏まえ、青空文庫以外の電子書籍を導入するなど、紙とデジタル資料とを効率的に組み合わせた資料提供も必要となります。

(2) サービス面での課題

1) 利用の促進・拡大に資するサービスの展開

現市立図書館の貸出冊数や貸出者数は近年ほぼ横ばいで推移していますが、人口 1 人あたり貸出冊数及び人口 1 人あたり予約件数の水準は他自治体と比較して高くはなく、アンケート調査での図書館利用率も約 37%と高くありません。さらに、現市立図書館では若年層の利用率が低いほか、市北西部に位置する宮田地区、草井地区、藤ヶ丘地区住民の利用率も低くなっています。今後は、さらなる利用の促進及び新たな利用者層の創出に資するサービスを展開していくことが必要です。

2) 市民の抱える課題の解決に資するサービスの充実

現市立図書館では、主に資料の貸出や閲覧、児童対象の行事を中心にサービスを展開してきたため、利用目的も資料の貸出・返却が大部分を占めています。近年では、社会環境の大きな変化に伴い市民や地域の抱える課題が多様化しているため、現市立図書館でもビジネス支援サービスなどを開始していますが、その内容は十分とは言い難く、調べ物や職員への相談を目的とする来館は多くはありません。今後は、市民の自主的な学びや日常生活で抱える課題の解決に資するサービスについて、さらなる充実や周知を図っていくことが必要です。

3) 子育て環境の向上に資するサービスの強化

本市では、近年「子育て先進市」の実現をめざして関連施策の充実に取り組んでいます。また、新市立図書館は、複合公共施設内で「子育て世代のワンストップ拠点」機能である保健センター、子育て支援センターなどと一体的に整備する予定です。事業予定地周辺では、宅地開発に伴う子育て層の流入も見られることから、新市立図書館では他機能と連携して子育て層を対象としたより効果的なサービスを展開することにより、今後も市民が住み続けたいと思えるような子育て先進市の実現に貢献していくことが必要です。

4) 賑わい・交流創出に資するサービスの推進

複合公共施設は、「江南市の南玄関口にふさわしい、安心して住み続けられるまちの交流施設」をコンセプトとし、効率的・効果的なサービス提供や導入機能間での相乗効果の創出、民間施設との併設による賑わい・交流の創出などをめざして整備を進めています。そのため、同施設内に整備予定の新市立図書館では、施設全体としての一体的なサービス展開や市民の継続的利用を促すための取り組みに貢献することが必要となります。また、閉館時間を現市立図書館の18時30分までとすると、駅前に立地する公共図書館としては比較的早いことなどから、今後適切な開館時間帯・開館日数の検討も必要です。

(3) 施設面での課題

1) 快適な読書・学習環境の確保

現市立図書館では施設の老朽化が進んでおり、空調機器の故障などの施設・設備の不具合が生じています。また、他自治体の中央館と比較して規模が小さいことや貸出・返却を中心とした施設であることなどから、閲覧席や図書収容能力が不足しているほか、カウンターでの待ち時間も長く、音に関する問題も生じています。平成27年度以降は、公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備や芝生広場へのベンチの設置、児童コーナーのリニューアルなどに取り組み、今年度はタブレット端末の導入や休憩コーナー

の設置を予定するなど、読書・学習環境改善に向けた取り組みを進めています。しかし、アンケート調査では回答者の約60%が施設の充実度について不満（やや不満との回答含む）としており、市民ワークショップでも施設・設備の改善を望む意見が多く見られました。今後は、多様な市民一人ひとりの読書・学習形態に対応した快適な環境づくりが必要です。

2) 利用のしやすさや親しみやすさへの配慮

現市立図書館は、平成26年度のバリアフリー改修により昇降機を設置したものの中2階や3階への移動手段は階段のみであり、書架間隔も狭く、完全バリアフリーには至っていません。また、授乳室やおはなしの部屋なども未設置です。新市立図書館整備にあたっては、高齢の方や障害のある方、乳幼児連れの方などを含む全ての市民が安心して利用できるような施設・設備の充実を図っていくことが必要です。また、アンケート調査では、今後の市立図書館には「目的がなくても気軽に立ち寄ることができる」ことを望むとの回答も多いことから、新市立図書館では、市民が個々の時間を自由に楽しんだり、利用者同士で交流したりすることを可能とする空間の確保や、初めて来館する市民にとっての利用のしやすさへの配慮などを通じて、市民にとってより身近な施設の実現を図ることも必要となります。

6.2. 今後の江南市図書館のあり方

(1) 江南市図書館の基本理念

これまでの江南市図書館は、昭和 51 年に開館した現市立図書館を中心に 40 年間以上にわたり市民の読書・学習活動を支援するためのサービスを提供してきましたが、近年では現市立図書館の狭隘化・老朽化が著しいほか、社会情勢や市民ニーズの変化を踏まえたサービスのさらなる充実が必要となっています。

また、本市では、独自の歴史的資源や豊かな自然資源、名古屋市との近接性などの地域の個性を活かした「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市」の実現をめざした取り組みや、「子育て先進市」の実現をめざした取り組みを進めていることから、今後の江南市図書館では、市民の生活の質の向上に貢献するとともに、安心して子育てをすることのできる環境や子どもたちの健やかな成長を可能とする環境の創出に資することが求められます。さらに、今後の高齢化率の上昇や高齢単身世帯の増加などを見据え、高齢者が元気で楽しく暮らすことのできる環境の創出を図ることも必要です。

その他、布袋駅東複合公共施設整備事業で保健センターや子育て支援センター、民間施設などと一体的に新市立図書館を整備する予定であることから、他施設との連携などを通じて事業コンセプトの「江南市の南玄関口にふさわしい、安心して住み続けられるまちの交流施設」の実現に寄与することも期待されます。

そこで、今後の江南市図書館では、市民の生涯にわたる読書・学習活動を支援するだけでなく、市民生活そのものを支援し、本市全体での住みやすさや利便性、子育て環境の向上などへと貢献することをめざし、『市民一人ひとりの暮らしに寄り添い、幸せをかたちにする図書館』を基本理念とします。

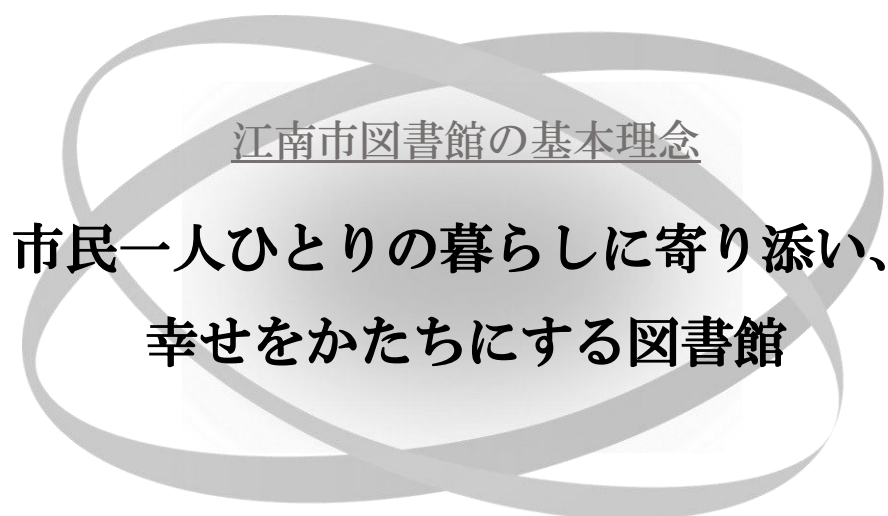


図 6-1 江南市図書館の基本理念

(2) サービス網の考え方

「2 現市立図書館の現状と特性」で示したとおり、市内の図書館は現市立図書館 1 館のみで、その他には古知野東公民館・古知野西公民館・古知野北公民館に図書室を設置しています。また、古知野西公民館・古知野北公民館を含む 8 施設でも予約資料の受取が可能で、同施設及び江南駅のブックポストで返却が可能となっています。

現在の本市の図書館整備水準は他自治体と比較して高くはなく、現市立図書館へのアクセスを不便と感じている市民も少なくありません。さらに、現在利用率の低い市北西部では、複合公共施設内での新市立図書館の整備に伴い図書館からの距離がさらに離れることとなることから、アンケート調査では図書館移転に伴う分室の設置や資料受取・返却サービスポイントの増設に対するニーズも見られました。しかし、その一方で、本市は今後の人口動態や財政収支の見通しを踏まえた公共建築物の施設総量の縮減が必須な状況にあります。

そこで、新市立図書館整備後は、現在のサービス提供体制を基本としながら、新市立図書館や公民館図書室の蔵書及びサービスの充実、既存公共施設を活用した新たな分室の設置、電子図書館サービスの導入などを通じて市内全域での図書館サービス網を充実し、図書館サービスの利便性の向上を図ることとします。

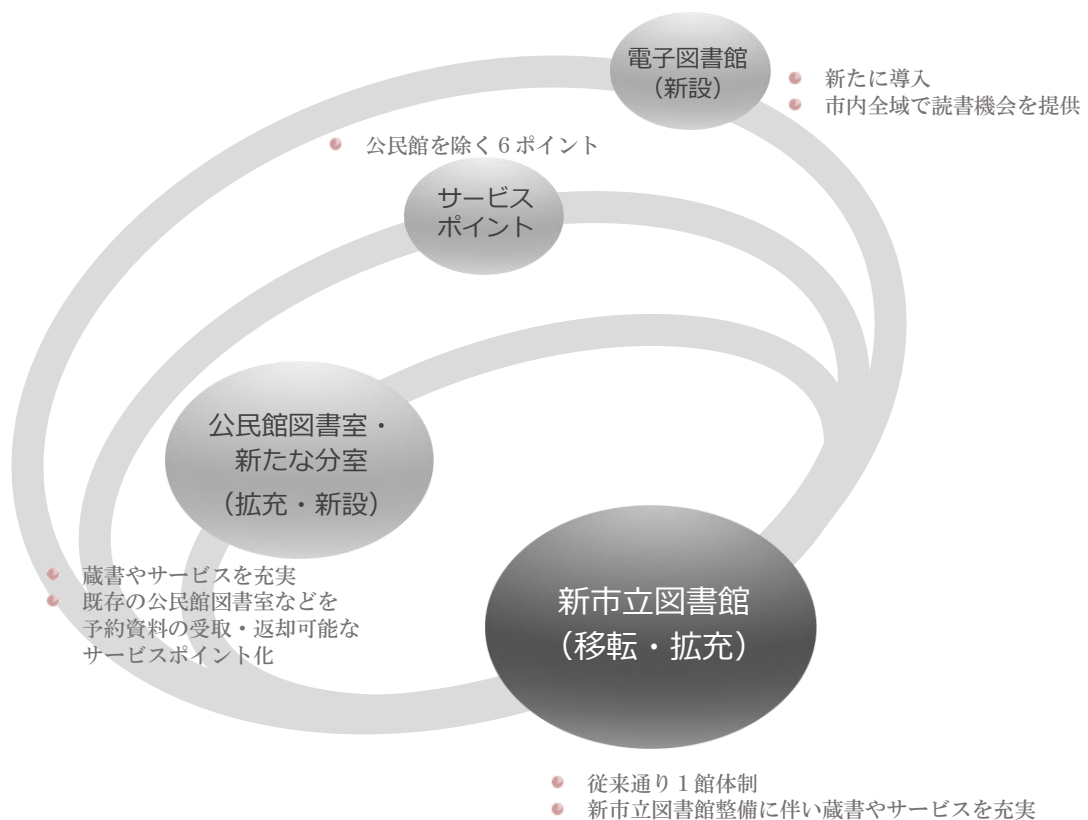


図 6-2 今後のサービス網のイメージ

(3) 各館の今後の方針

1) 新市立図書館

－役割

- 公民館図書室や新たな分室などとの連携を通じて、今後も江南市図書館サービスの中核を担うものとします。
- 公民館図書室や新たな分室の蔵書を含む本市全体の蔵書の管理と保存、図書館サービスの立案、図書館システムの運用などを行います。

－サービス対象

- 本市の図書館サービスの拠点として、全ての市民を対象にサービスを展開します。
- 現市立図書館と同様、愛知県内在住・在学・在勤の利用者にもサービスを提供します。

－サービス方針

- 高度かつ専門的な図書館サービスを展開することで、市民一人ひとりの生涯にわたる読書・学習活動を支援するほか、公民館図書室や学校図書館などへの支援、市外の公共図書館との相互協力などを行います。
- 「第6次江南市総合計画」で将来像に掲げる「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市」の図書館、「子育て先進市」の図書館、複合公共施設内の図書館として、市民の日常生活における課題の解決、子育て環境の向上、賑わい・交流創出に資すること重視したサービスを展開します。

2) 既存公共施設を活用した新たな分室

－役割

- 公民館図書室に図書館分室としての機能を付加するなど、市内の既存公共施設の一部に新たな分室を設置し、周辺住民にとって身近で気軽に利用することができる、新市立図書館の機能を補完するための施設として位置付けます。

－サービス対象

- 地域密着型のサービスポイントとして、各室周辺の住民を主な対象としてサービスを展開します。特に、主な交通手段が徒歩や自転車であり、新市立図書館への来館が難しい高齢者や子育て層、小学校低学年児などを重視します。

－サービス方針

- 児童書のほか、子育て関連資料や健康関連資料といった地域住民の生活や課題解決に役立つ資料や自由時間の充実に資する資料などを充実・更新するとともに、直接的な貸出・予約サービスを展開します。
- ICTを活用して利用者自身による貸出・返却サービスを提供するほか、新市立図書館及び分室とのオンライン・ネットワーク化による蔵書検索や予約を可能とすることで、従来よりも利便性の高いサービスを提供します。

3) サービスポイント

ー役割

- 新市立図書館や新たな分室よりもさらに身近で便利なサービスポイントとして位置付け、配本所としての機能を継続します。

ーサービス対象

- 新たな分室と同様、周辺に居住する住民を主な対象としてサービスを展開します。

ーサービス方針

- インターネットなどで予約された資料の受け取りや返却といったサービスを引き続き提供していきます。

4) 電子図書館

ー役割

- いつでもどこでも誰でも読書を楽しむことのできるインターネットを活用した図書館サービスとして、新たに導入を検討します。
- 新市立図書館などに来館せずに読書を楽しむことができることから、市域全域で平等に読書に親しむ機会を確保するためのサービスとして位置付けます。

ーサービス対象

- 本市に在住・在勤・在学する利用者を対象にサービスを展開します。
- 特に、新市立図書館や新たな分室などへの来館が困難な市民や開館時間中の利用が困難な市民、視覚障害のある市民、スマートフォンやタブレット端末での読書に慣れた世代、小中学生などを重点的な利用対象とします。

ーサービス方針

- スマートフォンやPCを通じて紙の本と同じように検索や閲覧、貸出・返却のできる電子書籍を提供します。
- 市民が新市立図書館や新たな分室などに来館しなくても読書需要を満たすことのできるような十分なタイトル数の電子書籍を提供するほか、読み上げ機能付きの絵本や書き込み式のテキスト、3Dで閲覧可能な百科事典、郷土資料など、電子書籍の特色を活かして読書・学習意欲の喚起やその効率・効果の向上に資する資料も積極的に提供します。
- 新市立図書館内のPCやタブレット端末からの利用も可能とし、利用者のICTリテラシーの向上に資する取組みにも活用します。

＜参考＞電子図書館サービス

● サービス概要

- デジタルデータで作成された出版物(電子書籍)をインターネット経由で検索・貸出・返却・閲覧できるサービスを指します。
- 図書館の発行するIDやパスワードを用いて専用ページにログインして利用します。
- 時間帯や場所に関わらず利用が可能なほか、音声読み上げ機能や文字サイズ拡大機能等により、高齢の方や読書の困難な方の読書が容易になるという特徴があります。



● 導入事例や活用状況

- 高度情報化社会の進展や電子書籍市場の拡大などに伴い全国の自治体で導入が検討されており、現在約 80 自治体で導入されています。
- 問題集・資格本など、書き込み等の懸念から従来は収集の難しかった資料の提供事例や、古文書などの貴重資料や自治体広報紙などの独自資料の提供事例も見られます。
- 導入事例では、電子図書館サービス利用者に占める 30 歳代～50 歳代の働き盛り世代の割合が高い傾向が見られます。
- 愛知県内では下表の事例が見られます。

表 6-1 県内での電子図書館サービス導入事例

番号	図書館名 (導入時期)	概要
1	おおぶ文化交流の杜 図書館 (平成 26 年7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・対 象:市内在住者 ・提供数:約 1,000 タイトル(約 1,300 ライセンス) ・その他:利用は5点 15 日間まで/iPad館内貸出あり
2	豊川市立図書館 (平成 28 年2月)	<ul style="list-style-type: none"> ・対 象:市内在住・在勤者 ・提供数:8,316 タイトル ※平成 30 年 10 月 2 日時点 ・その他:利用は5点2週間まで/市内に立地する私立高校の生徒にID配布
3	安城市図書情報館 (平成 29 年6月)	<ul style="list-style-type: none"> ・対 象:市内在住者 ・提供数:848 タイトル※平成 30 年8月8日時点 (うち 419 タイトルが音声読み上げ対応) ・その他:利用は3点2週間まで/「四季の本」「映画化作品」「新見南吉」特集など提供/タブレット端末館内貸出あり
4	一宮市立図書館 (平成 29 年 11 月)	<ul style="list-style-type: none"> ・対 象:市内在住者 ・提供数:1,964 タイトル ※平成 30 年9月6日時点 ・その他:利用は5点2週間まで/タブレット端末館内貸出あり

7. 新市立図書館の基本方針・サービス計画と資料収集計画

7.1. 新市立図書館の基本方針

「6.2(1)江南市図書館の基本理念」で掲げた内容を実現するため、新市立図書館では、以下の5つの基本方針に基づき図書館サービスを展開するものとします。

知

方針1：知の拠点となる図書館

育

方針2：未来を育てる図書館

彩

方針3：生活を彩る図書館

優

方針4：優しさに手が届く図書館

結

方針5：人と人をつなぐ図書館

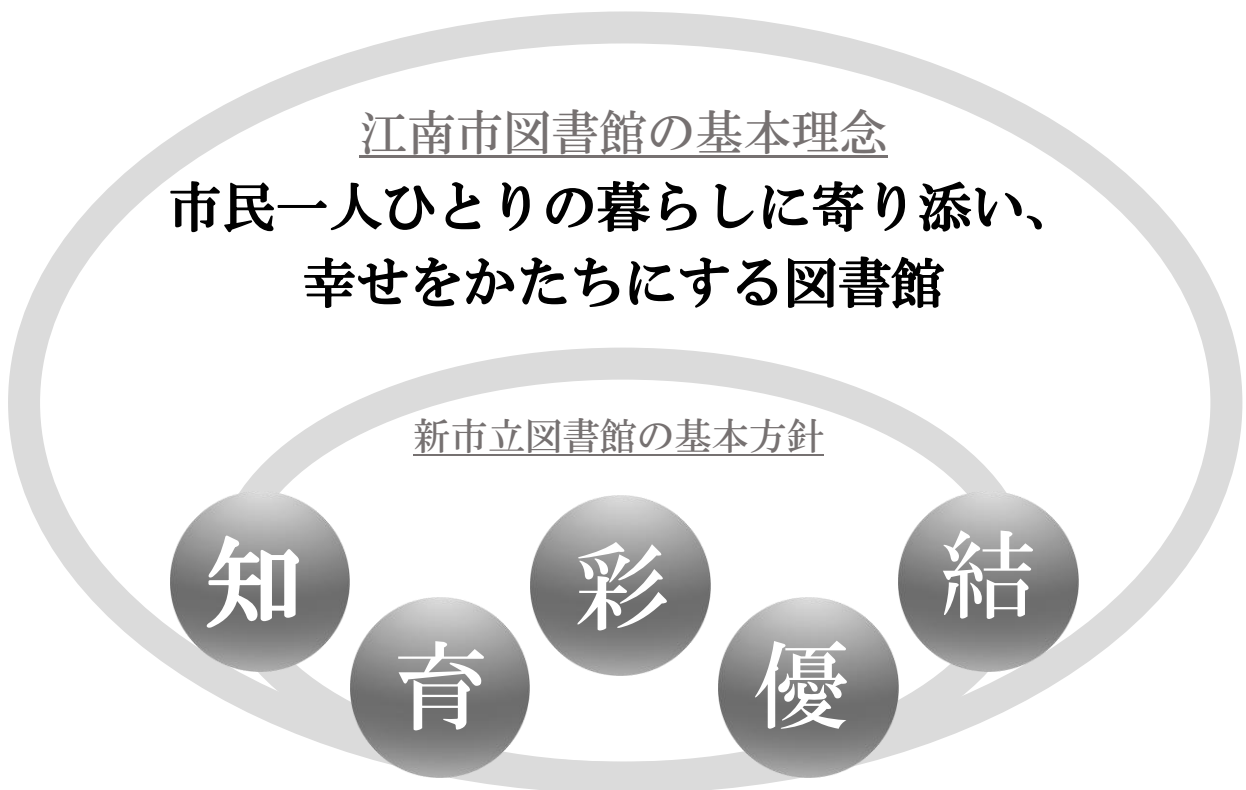


図 7-1 江南市図書館の基本理念と新市立図書館の基本方針

知

基本方針1：知の拠点となる図書館

- 人口約10万人の自治体の公共図書館として相応しい量の蔵書を収集・提供します。さらに、社会情勢や市民ニーズの変化などを踏まえた新鮮でバランスの取れた資料や市域全域での読書機会を確保するための電子書籍を提供するほか、多様な媒体の資料の充実を図ります。
- 江南市らしさを感じることや、本市をより深く知ることが可能な資料や情報を関連機関と連携して積極的に発信することで、市民が自らの暮らすまちに対する誇りや愛着を再認識する場や機会を提供します。
- 多様な市民の知的好奇心を刺激し、さらなる読書・学習意欲を喚起するような読んでみたいと思える本との出会い、自ら手にすることのないような意外な本や資料との出会いなどを演出します。



育

基本方針2：未来を育てる図書館

- 本市の次世代を担う子どもたちが、本や読書を通じて感じ、考え、表現する力を伸ばすことを可能とする成長に応じた本との触れ合いの場や機会を提供します。また、学校図書館などとの連携・協力体制を強化し、子どもの読書活動の推進に協働で取り組みます。
- 読書離れや図書館離れが進みがちで自主活動の機会も少なくなりがちな中高生に対し、放課後や休日の日常的な居場所や自由な居場所としての機能の充実を図ることで、読書や社会参画のきっかけを提供します。
- 「子育て先進市」を目指す本市の図書館として、親子や子育て世代同士が本を通じてコミュニケーションを深めることのできる場や機会を提供するほか、併設する機能と連携し、子どもの発育や仕事との両立といった悩みや不安の解消に資する資料・情報を提供します。



彩

基本方針3：生活を彩る図書館

- 仕事や法律、健康など、市民が日常生活の中で抱える疑問や悩みを解決し、より快適な毎日を送ることに役立つような資料や情報を紹介するとともに、利用者自身で必要な資料や情報にたどり着くことを支援します。
- 市民が気軽に立ち寄って自由時間を楽しんだり、憩いの時間を過ごしたりすることのできる図書館として、居心地の良さや快適性に配慮した空間を提供します。



優

基本方針4：優しさに手が届く図書館

- 「地域とつくる多様な暮らしを選べる生活都市」の図書館として、市民の生涯にわたる生きがいのある日々の実現に資するため、ライフステージの各段階に対応した多様な読書や学びの場と機会を提供します。また、高齢の方や障害を持つ方の日常的な図書館利用を促進するためのサービスの充実を図ります。

結

基本方針5：人と人とを結ぶ図書館

- 「江南市の南玄関口にふさわしい、安心して住み続けられるまちの交流施設」をコンセプトとする複合公共施設に立地する図書館として、所蔵する資料や情報を通じた市民同士の新たな出会いや交流の創出、文化活動の活発化に資する場や機会を提供します。
- 複合公共施設内の保健センターや子育て支援センター、民間施設をはじめ、市内に立地する関連機関や商店街、市民活動団体などとの連携を通じて、図書館利用の魅力や利便性を高める機能の充実を図ります。
- 現市立図書館で図書館ボランティアによる活動が展開されていることを活かし、より多くの場面で施設の運営に市民自らが継続的に参画する機会を確保し、市民と協働で魅力ある施設運営に取り組みます。特に、今後の本市を担うことになる若い世代や、活動意欲の高いサードエイジの市民の積極的な参画を図ります。



7.2. サービス計画

※ 以下に示すサービス計画では、新市立図書館開館当初から提供するサービスだけでなく、中長期的に提供を想定するサービスを含みます。また、サービス例につきましては、今後想定されるサービスの一例として記載をしています。

(1) 知の拠点となる図書館

知一1：資料・情報との接点を拡大

1) 日常的に利用可能な豊富かつ多様な資料を提供

新市立図書館は、市内で唯一の図書館かつ市民にとってより身近で役立つ図書館として、一般書から専門書まで豊富でバランスの取れた資料を収集するほか、高度情報化社会の進展に対応した資料を収集することなどにより、市民一人ひとりの読書や学習、課題解決に必要とされる資料を的確に提供します。



サービス例

- 本市の人口規模に相応しい量の蔵書の提供
- 利用者自身が自由に手に取り、選ぶことのできる十分な量の開架資料の提供
- 電子書籍、各種データベース、視聴覚資料の積極的な提供
- 他公共図書館などとのネットワークを通じたより広範な資料の提供

2) 江南市らしさの詰まった資料・情報を提供

豊かな歴史や文化、自然といった本市の魅力や個性を広く市民及び後世へと伝え、発展させていくための資料や情報について、歴史民俗資料館などとの連携を通じて積極的に発信します。特に、利用者の利便性の向上、利用者層の拡大に資するような地域情報を重点的に発信します。



サービス例

- 専用のスペースを通じた資料・情報提供
- 戦国武将に関する資料や、本市出身の人物（スポーツ選手など）に関する資料、江南藤まつりなど本市や尾張地方のイベントや観光情報、行政情報などの提供
- 現市立図書館や歴史民俗資料館で所蔵する希少価値の高い資料の公開

3) 本市及び計画地に相応しい資料・情報を提供

市内で今後も増加が見込まれる高齢者や、複合公共施設計画地周辺で増加が見込まれる児童及び新たな住民、布袋駅を利用する通勤・通学者層、併設の保健センターや子育て支援センターを利用する子育て層などの関心やニーズが高いと考えられる資料や情報を重点的に収集・提供します。



サービス例

- 個々の状況に応じて利用可能な資料（大活字資料、録音図書、ユニバーサルデザイン絵本など）や機器（拡大読書機など）の提供
- 充実した児童書やマンガ、文庫や問題集などの提供
- 健康、スポーツ、子育て、ワークライフバランス、食、スイーツ、インテリアなどの分野の充実した資料提供

知-2：多様な読書・学習機会を創出

1) 読書や本との新たな出会いを演出

市民の日常に変化や刺激を生むような本と出会ったり、読書を始めたりするきっかけとなるような本の紹介を行うほか、見やすく魅力ある書架の整備を進めます。併せて、各種広報媒体の活用などを通じて、日常的に読書をしない市民や図書館を利用しない市民の読書意欲の喚起に努めます。



サービス例

- 季節や時事、行事などに合わせた資料の特集展示
- 本の内容や紹介文を書いたポップの掲示
- 本の表紙を見せた配架
- 職員や様々な分野の専門家によるお勧め資料の案内（ブックリストの提供）
- 図書館だより・ホームページやSNSなどを活用した足を運ぶきっかけづくり

2) 自主的・自発的な読書・学習を支援

ICTの活用や案内の充実などを通じて、利用者自身が容易に資料を探し出すことのできる環境や、気軽に資料や情報を利用することのできる環境などを形成し、市民の生涯にわたる自主的・自発的な読書・学習活動の一層の推進を図ります。



サービス例

- デジタルサイネージ（ディスプレイなどで情報を表示する装置）などによる館内案内、行事関連情報などの発信
- 自動貸出・返却機、予約棚などを活用したセルフ貸出・返却
- スマートフォンなどから自身で予約可能な学習席の提供
- フロアへの職員の配置

(2) 未来を育てる図書館

育一1：子どもの成長に応じた読書・学習機会を拡充

1) 乳幼児・児童の読書意欲や知的好奇心を喚起

児童書へのニーズが高まりつつあることや、親子連れの利用に増加が見込まれることなどを踏まえ、乳幼児期からの継続した本との触れ合いや、「読む力」や「考える力」の習得、読書習慣の形成に資するような読書・学習機会の充実を図るほか、安全にかつ安心して気兼ねなく利用できる環境を整備します。



サービス例

- 保健センターと連携し、4ヶ月児健診時のブックスタートの実施
- 小学生への利用カード・読書通帳の発行
- 読み聞かせ・ブックトーク・ICT教育などの行事の開催
- おすすめ本の案内や年齢別でのおすすめ本の案内
- 親子で会話や読み聞かせをしながら過ごすことのできる児童コーナーの提供
- 調べものにも対応可能な充実した児童書や子ども用パスファインダー（あるテーマについて調べる際に役立つ資料や情報の探し方）の提供
- 衛生面での心配に応えるためのフロアごとのセルフ運用による書籍消毒機の導入

2) ティーンズ世代が読書・活動を楽しむ環境を充実

市内にティーンズ世代を主な利用対象とする公共施設がないことも踏まえ、勉強や部活動などを理由に図書館から遠ざかりがちな世代でも利用したくなるような環境を提供します。友人同士で利用可能な空間や関心の高いと考えられる資料の提供などにより自主的・自発的な活動を支援します。



サービス例

- ティーンズ世代を主な利用対象とするティーンズコーナーを通じたサービスの提供
- グループや友人同士での学習に利用可能なグループ学習室の提供
- 映画・音楽・アニメ・ファッション・メイク・進路関連資料の提供
- 映画鑑賞会などの関心が高いと考えられる行事の開催

育一2：子育て世代の不安を解消

「子育て先進市」を目指す本市の図書館として、併設の保健センターや子育て支援センターなどと連携し、子育て相談に繋げることで、子育て中の保護者の不安や悩みを解消します。また、仕事復帰や社会参画に向けた能力の向上を図ったり、仲間同士での交流や活動を楽しんだりするための場や機会を提供します。



サービス例

- 授乳室やベビーベッドなどを備えた、乳幼児連れの市民でも利用しやすい環境の提供
- 本を探したり行事に参加したりする際に利用可能な託児サービスの提供
- 保健センターや子育て支援センターで実施する各種相談・講座の紹介
- 保健センターや子育て支援センター内への子育て支援に関する本や資料の紹介

育-3：小中学校・幼稚園・保育所などとの連携を推進

市内の小中学校からのニーズに応じた積極的な支援を行い、学校内での本を活用した学習を支援します。幼稚園や保育所などとも連携して子どもの読書習慣確立に向けた働きかけを行うほか、図書館をより身近に感じてもらうための取り組みを進めます。



サービス例

- 小中学校・幼稚園・保育所などへの団体貸出
- 調べ学習の支援、学校図書館運営に関する相談受付
- 小中学校図書館を経由した新江南市立図書館資料の提供（配本サービス）
- 子ども司書1日体験講座の開催、インターンシップや施設見学の受入
- 小中学校・幼稚園・保育所などでの話し会やブックトークの実施

(3) 生活を彩る図書館

彩-1：より豊かでより快適な暮らしの実現

1) 調査・相談対応（レファレンスサービス）を拡大

現市立図書館では利用の少ないレファレンスサービスの周知を図り、初めてサービスを利用する市民でも気軽に利用できるよう環境を整えます。高度情報化社会の進展を踏まえ、対話を通じたより有益な情報の提供や、利用者自身が資料や情報にたどり着くためのツールの充実を重視します。



サービス例

- 資料や情報の入手方法を学ぶことのできるレファレンス体験会や図書館ツアーの開催
- 専用カウンターでのレファレンス
- パスファインダーの提供
- レファレンスデータベースの公表
- 電話やメールによるレファレンス受付
- 専門知識を有する機関などへの紹介

2) 日常に役立つ多彩な資料・情報を発信

現市立図書館でもビジネス支援サービスを展開していることを踏まえ、専門知識を有する機関などとの連携のもと、生活上の課題の解決につながる資料や情報を積極的に発信します。必要な資料や情報を適切に選択するためのICT利活用環境を整備し、利用格差の解消に配慮した取り組みを推進します。



サービス例

- 就職、健康、相続などの生活上の課題をテーマとした講座や相談会、読書会
- 地場産業であるインテリア繊維産業に関する資料のホームページでの公開
- 無線LAN・インターネット利用端末の提供
- ICTリテラシー講座の開催
- タブレット端末の館内貸出
- ICTコンシェルジュの配置

彩-2：手軽で気軽な癒しやくつろぎを創出

1) 多様な利用者に応じた居場所を確保

本を借りるだけでなく、学習したり自由時間を過ごしたり、会話を楽しんだりと多様な目的で来館する利用者が、それぞれ快適に過ごすことのできる居場所を提供します。現在は少ない滞在型の利用にも対応するため、館内での飲食や、CDやDVDの視聴などにも対応可能な環境を設けます。



サービス例

- キャレル席（個人用閲覧席）やソファ、書架際の座席など様々な形態の閲覧席の提供
- 適度な賑わいのある空間、静寂な空間、グループでの会話が可能な空間などの提供
- 館内におけるCDやDVDの視聴環境の提供
- 飲食可能な空間やブラウジングコーナーの提供

2) 利便性の高い適切な開館日・時間を設定

複合公共施設への移転に伴い現行の開館日・開館時間を見直し、複合公共施設内の民間施設利用者や駅利用者にとっても利用しやすく、新たな利用の促進にもつながり、かつサービスを適切に提供可能な開館日・開館時間帯を検討します。



サービス例

- 開館時間の延長

(4) 優しさに手が届く図書館

優-1：すべての市民が等しく利用できるサービスの提供

1) 働き盛り世代の仕事と生活を応援

現市立図書館で比較的利用の少ない働き盛り世代にとっても頼りになる図書館として、ビジネス支援サービスとして仕事やスキルアップに役立つような資料や機器の利用機会を提供するほか、ワークライフバランスの調和につながるような場や機会を提供します。



サービス例

- 個人学習席の提供
- ソフトを利用可能なPC端末などの提供
- 資格試験参考書などの電子書籍や、館内の特定のエリアで閲覧可能な新刊書の提供
- 夜間時間帯の大人向けイベントの開催
- クラシックやジャズ、レゲエなどの音楽の視聴環境の提供

2) 生きがいある豊かな高齢期の実現に貢献

平成 47 年以降継続的に市内人口の 30%以上を占めると予測される高齢者に対し、日々の生活に生きがいを見出したり、心身ともに自立した生活を継続するための知識を得たり、地域の担い手として活躍したり、他世代との交流を通じて知識や経験を伝承したりするための場や機会を提供します。



サービス例

- 旅行・スポーツなどの趣味、健康、再就職や学び直しなどに関する資料・情報の提供
- 健康や歴史などに関するイベントや地域デビュー講座の開催
- 専用のコーナーでの健康関連機器や資料の提供
- シニアサポーター（※後述）が企画したイベントや講座の開催

3) 来館・利用が困難な市民を手助け

障害を抱える市民や、市内に多く居住するフィリピンやブラジル、中国といった外国籍の市民などを含む図書館への来館や館内での資料の利用が困難な市民が、それぞれのニーズに応じた方法で資料を利用したり学習したりすることを支援します。



サービス例

- 郵送サービスや対面朗読の実施
- 音訳資料や点字資料、読書を補助する機器類の提供
- 音声読み上げ機能を有する電子図書館サービスの提供
- 外国語の図書、雑誌などの提供
- 多言語対応の利用案内の提供
- 視覚的に楽しむことのできる写真集、図鑑などの提供
- ユニバーサルデザインの考え方に基づく空間の提供

(5) 人と人をつなぐ図書館

結-1: 「場」としての賑わいや交流を創出

1) 利用者同士の新たな結びつきを構築

複合公共施設内に位置し、布袋駅にも近接するという特色を活かし、図書館を利用したことのない市民や1人で来館する市民を含む多様な利用者が、本や資料を介して世代や分野を越えた新たな出会いや交流を楽しむことのできる場や機会を提供します。



サービス例

- ビブリオバトル（知的書評合戦）、おすすめ本の紹介会、ヒューマンライブラリー（様々な背景を持つ人が本となり体験を語ったり対話をしたりする取組み）などのイベントの開催
- 演奏会、映画会などの幅広いジャンルの行事の開催

2) 市民活動や成果発表の場を形成

複合公共施設内に交流スペースを整備予定であることなどを踏まえ、市民活動の展開や継続に必要な資料や情報及び環境を提供するほか、日頃の学習活動や活動成果の発表の場を提供します。



サービス例

- 市民活動、まちづくり、国際交流など各種活動に役立つと考えられる資料の提供
- PC端末の提供やPC活用講座（名簿や宛名ラベルの作成方法など）の開催
- 新市立図書館や交流スペースで活動する団体の活動発表会の開催、活動成果の展示

結-2：他機関と連携して賑わいや交流を創出

1) 複合公共施設内の各施設と協働

新たな賑わいの拠点の創出を目指す複合公共施設の核となる施設として、併設の保健センターや子育て支援センターなどと連携し、複合公共施設全体で市民の新たな集いの場を形成するほか、併設する民間施設とも双方への利用者の流れを生み出すような取り組みを行います。



サービス例

- 複合公共施設全体での行事の開催や情報の発信

2) 地域の多様な主体との連携を強化

複合公共施設内の施設だけでなく、歴史民俗資料館や市民文化会館、江南市観光協会、江南商工会議所や商店街、愛知江南短期大学といった市内の多様な主体と連携し、本市及び布袋地区の活性化や賑わいの創出に資する事業を展開します。



画像出典) 江南市民文化会館HP

サービス例

- 市民文化会館などと連携した行事の開催
- 商店街と連携した行事の開催、店舗への団体貸出
- 愛知江南短期大学図書館との連携
- 地元の人材を講師とした講座の開催

結-3：市民との図書館づくりを継続

現市立図書館でもボランティアの協力の基にサービスを展開していることを踏まえ、より多くの場面で市民との協働を進めるためのサポーター制度を創設します。幅広い層の市民の参加や活動の発展、参加者間での交流などに資する取組みを充実するとともに、日常的に利用可能な活動拠点を整備します。



サービス例

- 読み聞かせ、対面朗読、展示の設営、行事の企画など広範な活動での参画機会の提供
- サポーター登録会、養成講座（入門講座）やスキルアップ講座、交流会などの開催
- ヤングサポーター・シニアサポーター制度の導入
- サポーター室の設置による常時利用可能な活動場所の提供

7.3. 資料収集計画

(1) 収集の基本方針

新市立図書館では、下記1)～6)に示す方針に則って資料を収集するものとします。1)～4)は「江南市立図書館図書収集要領」(以下、「収集要領」とします。)に挙げる「収集の基準」から準用し、5)及び6)は目指す図書館像やサービスの実現に向けた蔵書の構築に必要な事項として新たに規定しました。基本方針を踏まえた資料種別での具体的な収集対象などは、収集要領の「収集選択上の留意点」も踏まえつつ「(2)資料種別収集計画」に定めます。

- 1) 全ての資料は、公平に、自由に、偏見なく収集する。
- 2) 市民の要望や利用状況を把握して収集に反映させる。
- 3) 地域文化に密着した特色ある資料の収集に努める。
- 4) 主として情報の提供、教養の向上、調査研究等の機能を果たすことができる、永続的な価値を有する資料を収集する。
- 5) 社会的な動向及び時代の変化等に充分配慮し、常に最新の情報が提供できるように収集する。
- 6) 情報資源の多様化やデジタル化技術の進展に合わせ、適切な資料を検討し、収集する。

(2) 資料種別収集計画

1) 一般書

各分野の入門書から専門書まで、あらゆる市民の知的要求に応えるための資料を網羅的かつ体系的に収集します。また、利用者ニーズが高く出版点数も多い分野の図書や、今後増加を見込む利用者層に対応した分野の図書の充実を図るものとし、各国・各時代の小説や、健康・介護予防・食事などの面から包括的に最新の医療情報が得られる図書、ビジネス・スポーツ・旅行関連図書などを積極的に収集します。併せて、通勤・通学時に利用しやすい文庫本や新書などを含む多様な形態の資料を収集します。

2) 郷土資料

本市を知り、研究する上で必要となる本市の歴史や文化、地理、自然、行政、産業などに関する資料を可能な限り収集するほか、本市を含む尾張地域などに関する資料も選択して収集します。また、市にゆかりのある人物やインテリア産業に関連する資料といった江南市らしさの醸成・発信に資する資料も積極的に収集します。収集対象は、図書や新聞、雑誌のほか、パンフレット、視聴覚資料、写真、デジタル化資料といった多様な形態の資料とします。

3) 参考資料

市民の日常的な調べものや専門的な調査研究に役立つ資料として、辞書や事典、年鑑、統計、白書、地図などを幅広い分野に亘り網羅的に収集します。最新の情報を提供するために適切に資料を更新し、年鑑、統計、白書などは継続的に収集します。館内閲覧の用途で供することを原則として収集しますが、利用状況に応じて貸出用の持ち運びに適したサイズの資料も収集します。また、必要に応じて電子媒体の資料も収集対象とします。

4) ティーンズ資料

ティーンズ世代が対象の資料だけでなく、成人や児童が対象の資料も含んだ上で、ティーンズ世代の心の成長や学習、課題解決に役立つ資料を幅広く収集します。また、映画・音楽・アニメ・ファッション・進路といった興味・関心が高いであろう分野の資料やマンガなど、図書館利用や読書のきっかけとなる資料を流行にも留意しつつ積極的に収集します。受験用学習書や参考書は、電子書籍にて対応します。

5) 児童書

絵本や読み物から調べ学習に役立つ参考図書、マンガまで、子どもの成長や学習、課題解決、読書習慣の形成に役立ち、利用の増加やニーズの高まりにも対応した幅広く豊富な資料を収集します。利用状況に応じて定評のある資料の複本購入や買い替えなどにも努め、十分な量・水準を確保します。また、移転に伴う親子連れの利用や立ち寄り利用の増加を見込み、館内での読み聞かせに適した乳幼児向け絵本や紙芝居、布絵本などを積極的に収集します。併せて、子どもの読書活動に関連する団体などの利用にも適した資料も収集します。

6) 視聴覚資料

定評のある資料や市民の生涯学習に役立つ資料を中心として、あらゆる世代のニーズに対応した幅広く豊富な資料を収集します。移転に伴う滞在型利用の増加も見込み、映像資料は館内視聴や上映会に適したアニメや国内外の新作映画、古典的な名作などを含む多岐にわたる資料を収集します。また、録音資料は、音楽のほか朗読などの活字資料の利用が困難な市民に配慮した資料も収集します。収集する媒体は、原則としてCD・DVD・レコードとしますが、今後のメディア技術の進展に合わせたより効果的な媒体の導入を適宜検討します。

7) 雑誌・新聞

利用ニーズの高まりや移転に伴う立ち寄り利用の増加にも対応した幅広い分野の新鮮かつ豊富な資料を収集します。雑誌は、対象とする分野をティーンズ向けの音楽・アニメや、働き世代向けのビジネスやファッション、スポーツや趣味、科学などへと広げ、各分野で基本的なタイトルを複数収集します。新聞は、全国紙や地方紙に加え、スポーツ紙や外国語新聞、子ども向けの新聞、各種専門紙、縮刷版やオンラインデータベースも収集します。

8) 電子書籍

図書資料に準じて収集するものとし、市域全域で平等に読書を楽しむ機会を確保するための幅広く豊富な資料を収集します。特に、活字による読書が困難な市民の利用に対応した音声データ付きの資料や、音楽やアニメーションを活用した知育絵本、紙媒体では収集対象としない受験用学習書や参考書など、電子書籍の特性を活かした資料を積極的に収集します。

8. 新市立図書館の蔵書規模と施設規模

8.1. 蔵書規模の計画値

(1) 収蔵冊数（約 30 万冊）

新市立図書館の収蔵冊数の計画値は、他自治体の中央館整備水準を踏まえて約 30 万冊とします。

「2.7 他自治体図書館との整備水準の比較」を踏まえ、ア) 愛知県内の 36 市、イ) 平成 29 年度の総務省の類似団体の類型区分（市Ⅲ－2）が本市と同一の 29 市、ウ) 「日本の図書館 2017」掲載の人口が本市と同規模（10～15 万人）の 103 市のそれぞれの人口 1 人あたりの蔵書冊数の平均値と本市人口から新市立図書館の必要収蔵冊数を算出すると、表 8-1 に示すとおり約 26 万 6 千～34 万 4 千冊となります。（県内市・類似団体・同規模市の詳細は表 8-4～表 8-6 参照）。

表 8-1 他自治体水準を踏まえた新市立図書館の必要収蔵冊数

番号	区 分	人口1人あたり	新江南市立図書館 必要規模	
		蔵書(冊/人)	江南市人口 (人)	収蔵冊数(冊)
ア)	愛知県内市(36市)平均	3.41	100,915	343,774
イ)	類似団体(29市)平均	2.70		272,232
ウ)	同規模市(103市)平均	2.63		265,899
—	現市立図書館(参考)	1.25		125,695

※人口 1 人あたり蔵書冊数は「日本の図書館 2017」より、本市人口は平成 29 年 4 月 1 日住民基本台帳人口より

その一方で、「[平成 24 年文部科学省告示第 172 号] 図書館の設置及び運営上の望ましい基準活用の手引き」の「目標基準例」を踏まえると、新市立図書館の必要収蔵冊数は約 51 万 3 千冊と、上記他自治体水準を大きく上回ります（表 8-2 参照）。

表 8-2 望ましい基準目標基準例を踏まえた新市立図書館必要収蔵冊数

番号	区 分	人口(人)	蔵書冊数(冊)
ア)	望ましい基準目標基準例 ～15万人	124,209	631,264
	人口1人あたり	—	5.1
イ)	新市立図書館の必要規模	100,915	512,878
	現市立図書館(参考)	—	125,695

※目標基準例は「[平成 24 年文部科学省告示第 172 号] 図書館の設置及び運営上の望ましい基準活用の手引き」より、江南市人口は平成 29 年 4 月 1 日住民基本台帳人口より

そこで、新市立図書館では、主に以下のような理由から収蔵冊数の計画値を他自治体水準を踏まえた約 30 万冊とします。

新市立図書館の収蔵冊数を約 30 万冊とする理由

- 「江南市公共施設等総合管理計画」などで示すとおり、本市が所有する公共施設を現状の規模のまま将来にわたって維持管理し、改修・更新する費用を賄えないことが明らかとなっており、今後の人口減少や人口構造の変化を見据えて施設規模・運営方法の最適化を図る必要があることから、将来的な図書館利用ニーズや資料の鮮度の維持などを想定した過剰とされない収蔵冊数の設定が必要となります。
- 新市立図書館は複合公共施設内に移転予定であり、その整備には既存の基金及び社会資本整備総合交付金の活用を検討していますが、今後厳しさを増すと考えられる財政状況を踏まえ、財政負担を極力抑えることを可能とする収蔵冊数の設定が必要となります。
- 上記を踏まえ、蔵書の規模ではなくその構成や鮮度、立地を活かしたサービス展開などを重視することで図書館サービスの向上を図るものとしします。
- なお、この収蔵冊数約 30 万冊について、現在の約 1.5 倍の資料費（約 1,800 万円／年）を想定した場合の蔵書新鮮度（受入冊数／蔵書冊数）は約 3.0%と他自治体水準と比較して若干低くはなりますが、蔵書の鮮度や魅力の維持の面からは適切な規模であると考えられます（表 8-3 参照）。

表 8-3 他自治体及び新市立図書館の蔵書新鮮度

番号	区 分	蔵書新鮮度(受入冊数／蔵書冊数)		
		平均	貸出密度上位 10%自治体平均	貸出密度上位1/4 自治体平均
ア)	愛知県内市(36市)	3.8%	4.4%	4.1%
イ)	類似団体(29市)	3.2%	3.6%	3.5%
ウ)	同規模市(103市)	3.9%	3.6%	3.4%
—	新市立図書館(想定)	3.0%		

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成、貸出密度は市民 1 人あたりの年間貸出冊数を指す

表 8-4 県内市 36 市の中央館整備水準

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	人口あたり	
						蔵書冊数 (冊/人)	順位
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	1.20	—
1	豊田市中央図書館	422,571	19	12,567	1,762,706	4.17	8
2	一宮市立中央図書館	386,343	5	6,702	582,474	1.51	35
3	岡崎市立中央図書館	382,784	9	7,895	893,255	2.33	29
4	豊橋市中央図書館	378,485	35	5,655	674,947	1.78	34
5	春日井市図書館	311,327	18	4,983	784,900	2.52	26
6	安城市図書情報館	185,818	1	6,808	706,388	3.80	14
7	豊川市中央図書館	185,273	19	5,773	485,636	2.62	25
8	西尾市立図書館	170,734	34	2,722	722,724	4.23	7
9	小牧市立図書館	153,655	40	2,224	327,226	2.13	32
10	刈谷市中央図書館	149,262	28	5,509	735,760	4.93	3
11	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	4.53	5
12	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	2.37	28
13	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	3.61	17
14	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	2.66	24
15	おおぶ文化交流の杜図書館	89,788	4	3,650	336,655	3.75	15
16	あま市美和図書館	88,527	24	754	118,084	1.33	36
17	日進市立図書館	88,024	10	6,102	363,427	4.13	9
18	知多市立中央図書館	86,084	38	3,229	327,602	3.81	13
19	北名古屋市東図書館	84,433	28	3,022	185,612	2.20	31
20	尾張旭市立図書館	82,605	37	1,393	205,654	2.49	27
21	蒲郡市立図書館	81,291	49	1,986	272,189	3.35	20
22	犬山市立図書館	74,790	27	4,962	238,165	3.18	23
23	碧南市民図書館	71,673	25	4,327	423,888	5.91	2
24	知立市図書館	71,010	31	2,477	226,321	3.19	22
25	豊明市立図書館	68,706	38	2,923	271,860	3.96	11
26	清須市立図書館	67,118	6	3,339	127,645	1.90	33
27	愛西市中央図書館	64,699	23	2,012	144,170	2.23	30
28	田原市中央図書館	64,078	16	3,972	451,379	7.04	1
29	津島市立図書館	64,074	18	5,900	292,404	4.56	4
30	みよし市立中央図書館	60,383	2	3,807	211,679	3.51	18
31	常滑市立図書館	58,240	47	1,447	203,524	3.49	19
32	長久手市中央図書館	55,555	26	4,201	223,951	4.03	10
33	新城図書館（ふるさと情報館）	48,553	31	2,021	162,130	3.34	21
34	岩倉市図書館	47,758	35	2,588	177,875	3.72	16
35	高浜市立図書館	46,756	39	1,105	204,901	4.38	6
36	弥富市立図書館	44,399	33	1,978	174,198	3.92	12
	平均	131,557		3,849	407,934	3.41	

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成、おおぶ文化交流の杜図書館延床面積は施設案内パンフレットより

表 8-5 類似団体（Ⅲ-2）29市の中央館整備水準

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	人口あたり	
						蔵書冊数 (冊)	順位
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	1.20	—
1	石巻市図書館	148,798	45	1,463	186,843	1.26	27
2	各務原市立中央図書館	148,409	27	4,015	550,311	3.71	5
3	周南市立中央図書館	147,482	36	3,681	338,069	2.29	20
4	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	3,299	364,139	2.48	16
5	古河市古河図書館	144,715	34	604	127,968	0.88	29
6	桑名市立中央図書館	143,149	13	3,169	335,745	2.35	19
7	尾道市立中央図書館	142,462	27	3,376	539,921	3.79	4
8	焼津市立焼津図書館	142,016	33	1,422	202,897	1.43	26
9	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	4.53	2
10	富士宮市立中央図書館	134,526	29	3,802	422,310	3.14	7
11	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	2.37	18
12	草津市立図書館	130,385	35	2,781	324,423	2.49	15
13	大東市立中央図書館	123,397	31	891	146,547	1.19	28
14	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	26	3,072	301,622	2.47	17
15	佐野市立図書館	121,183	35	3,042	268,114	2.21	22
16	長浜市立長浜図書館	120,995	35	1,749	269,262	2.23	21
17	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	3.61	6
18	防府市立防府図書館	117,713	12	3,527	455,645	3.87	3
19	掛川市立中央図書館	117,609	17	4,611	333,809	2.84	10
20	桐生市立図書館	116,934	38	2,369	302,538	2.59	14
21	東近江市立八日市図書館	115,304	33	2,289	299,508	2.60	13
22	加須市立加須図書館	114,289	13	2,480	248,477	2.17	23
23	丸亀市立中央図書館	113,587	26	3,405	342,759	3.02	8
24	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	2.66	12
25	白山市立松任図書館	112,829	15	4,337	337,841	2.99	9
26	彦根市立図書館	112,786	38	2,743	756,285	6.71	1
27	小松市立図書館	108,573	36	1,840	202,584	1.87	24
28	可児市立図書館	101,148	33	1,528	170,661	1.69	25
29	三条市立図書館	100,884	34	2,233	284,225	2.82	11
29館 平均		125,841		2,699	337,200	2.70	

※「日本の図書館2017」掲載のデータを基に作成

表 8-6 同規模市 103 市の中央館整備水準

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	人口あたり	
						蔵書冊数 (冊/人)	順位
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	1.20	—
1	米子市立図書館	149,731	5	2,925	300,695	2.01	77
2	入間市立図書館	149,593	33	1,934	249,523	1.67	90
3	刈谷市中央図書館	149,262	28	5,509	735,760	4.93	3
4	石巻市図書館	148,798	45	1,463	186,843	1.26	98
5	各務原市立中央図書館	148,409	27	4,015	550,311	3.71	15
6	多摩市立図書館	147,849	10	5,480	325,460	2.20	72
7	周南市立中央図書館	147,482	36	3,681	338,069	2.29	68
8	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	3,299	364,139	2.48	54
9	深谷市立図書館	145,053	27	2,291	259,330	1.79	87
10	古河市古河図書館	144,715	34	604	127,968	0.88	103
11	守口市生涯学習情報センター	144,615	24	2,245	163,024	1.13	102
12	土浦市立図書館	144,088	0	1,159	350,274	2.43	59
13	武蔵野市立中央図書館	143,262	23	7,529	634,215	4.43	7
14	桑名市立中央図書館	143,149	13	3,169	335,745	2.35	62
15	尾道市立中央図書館	142,462	27	3,376	539,921	3.79	13
16	焼津市立焼津図書館	142,016	33	1,422	202,897	1.43	95
17	沖繩市立図書館	140,503	1	5,041	217,271	1.55	91
18	諫早市立諫早図書館	140,140	17	7,405	439,274	3.13	24
19	岩国市中央図書館	139,986	24	4,278	631,088	4.51	5
20	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	4.53	4
21	三郷市立図書館	137,656	4	311	159,348	1.16	100
22	青梅市中央図書館	136,750	10	3,860	297,902	2.18	74
23	朝霞市立図書館	135,928	31	2,752	521,796	3.84	11
24	箕面市立中央図書館	135,587	29	1,910	378,268	2.79	35
25	戸田市立図書館	135,243	34	3,611	408,782	3.02	27
26	富士宮市立中央図書館	134,526	29	3,802	422,310	3.14	23
27	木更津市立図書館	134,002	43	1,855	356,000	2.66	40
28	大崎市図書館	133,958	1	3,855	185,493	1.38	96
29	我孫子市民図書館	132,853	16	2,125	256,855	1.93	81
30	鶴岡市立図書館	131,758	33	2,181	264,063	2.00	78
31	成田市立図書館	131,739	33	5,179	826,681	6.28	2
32	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	2.37	60
33	海老名市立中央図書館	130,627	33	3,579	330,795	2.53	52
34	八代市立図書館	130,572	33	2,636	301,051	2.31	66
35	飯塚市立飯塚図書館	130,517	22	1,806	247,651	1.90	82
36	草津市立図書館	130,385	35	2,781	324,423	2.49	53
37	伊勢市立伊勢図書館	129,764	25	2,397	306,543	2.36	61
38	座間市立図書館	129,701	35	3,524	411,945	3.18	20
39	延岡市立図書館	127,924	21	3,168	338,068	2.64	43
40	霧島市立国分図書館	126,966	21	2,058	253,024	1.99	79

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	人口あたり	
						蔵書冊数 (冊/人)	順位
41	唐津市近代図書館	126,280	25	4,351	343,808	2.72	37
42	門真市立図書館	125,409	41	1,598	186,694	1.49	93
43	橿原市立図書館	124,113	22	2,436	302,869	2.44	57
44	大東市立中央図書館	123,397	31	891	146,547	1.19	99
45	市立小樽図書館	122,927	35	2,489	311,359	2.53	51
46	会津若松市立会津図書館	122,749	7	2,809	355,831	2.90	31
47	一関市立一関図書館	122,644	4	7,905	281,667	2.30	67
48	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	26	3,072	301,622	2.47	55
49	うるま市立中央図書館	122,099	27	3,284	224,278	1.84	85
50	松原市民松原図書館	121,962	38	1,551	395,178	3.24	19
51	奥州市立水沢図書館	121,282	29	2,543	284,118	2.34	63
52	佐野市立図書館	121,183	35	3,042	268,114	2.21	71
53	北見市立中央図書館	121,048	2	4,799	294,936	2.44	58
54	長浜市立長浜図書館	120,995	35	1,749	269,262	2.23	70
55	生駒市図書館	120,944	31	1,381	406,009	3.36	18
56	別府市立図書館	120,658	30	1,353	217,310	1.80	86
57	国分寺市立本多図書館	119,940	35	963	136,351	1.14	101
58	江別市情報図書館	119,517	28	2,821	377,316	3.16	21
59	大牟田市立図書館	119,407	27	2,203	307,414	2.57	49
60	鴻巣市立鴻巣中央図書館	119,192	7	1,157	199,798	1.68	89
61	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	3.61	16
62	那須塩原市西那須野図書館	118,308	39	1,370	179,203	1.51	92
63	小金井市立図書館	117,978	42	1,956	288,397	2.44	56
64	防府市立防府図書館	117,713	12	3,527	455,645	3.87	9
65	掛川市立中央図書館	117,609	17	4,611	333,809	2.84	33
66	はつかいち市民図書館	117,292	21	1,466	243,456	2.08	76
67	東久留米市立中央図書館	117,128	31	2,545	273,590	2.34	65
68	桐生市立図書館	116,934	38	2,369	302,538	2.59	48
69	東近江市立八日市図書館	115,304	33	2,289	299,508	2.60	46
70	富田林市立中央図書館	114,919	42	764	299,904	2.61	45
71	加須市立加須図書館	114,289	13	2,480	248,477	2.17	75
72	浦添市立図書館	114,165	33	3,037	297,974	2.61	44
73	羽曳野市立中央図書館	114,146	17	2,661	249,969	2.19	73
74	三田市立図書館	113,996	28	2,676	310,302	2.72	38
75	丸亀市立中央図書館	113,587	26	3,405	342,759	3.02	28
76	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	2.66	39
77	多治見市図書館	113,419	21	3,307	439,106	3.87	8
78	春日市民図書館	113,026	23	2,632	326,365	2.89	32
79	ふじみ野市立大井図書館	112,919	30	1,403	166,921	1.48	94
80	昭島市民図書館	112,897	45	1,506	334,858	2.97	30

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	人口あたり	
						蔵書冊数 (冊/人)	順位
81	白山市立松任図書館	112,829	15	4,337	337,841	2.99	29
82	彦根市立図書館	112,786	38	2,743	756,285	6.71	1
83	西条市立西条図書館	112,230	9	5,137	341,833	3.05	26
84	三島市立図書館	111,601	21	3,068	415,179	3.72	14
85	富士見市立中央図書館	110,045	23	4,464	423,296	3.85	10
86	河内長野市立図書館	109,545	16	3,910	487,475	4.45	6
87	鎌ヶ谷市立図書館	109,458	31	1,634	303,599	2.77	36
88	取手市立取手図書館	108,957	39	1,528	213,498	1.96	80
89	小松市立図書館	108,573	36	1,840	202,584	1.87	83
90	筑西市立中央図書館	107,807	20	4,673	242,833	2.25	69
91	酒田市立中央図書館	106,733	36	1,449	276,516	2.59	47
92	鹿屋市立図書館	104,949	37	2,073	194,711	1.86	84
93	飯田市立中央図書館	104,247	37	2,507	363,739	3.49	17
94	津山市立図書館	103,954	19	3,229	323,330	3.11	25
95	池田市立図書館	102,671	38	2,512	324,002	3.16	22
96	筑紫野市民図書館	102,459	27	2,213	262,000	2.56	50
97	坂戸市立中央図書館	101,408	34	2,707	268,048	2.64	42
98	可児市立図書館	101,148	33	1,528	170,661	1.69	88
99	泉佐野市立中央図書館	101,035	22	3,025	383,852	3.80	12
100	三条市立図書館	100,884	34	2,233	284,225	2.82	34
101	島田市立島田図書館	100,441	6	2,631	265,947	2.65	41
102	新発田市立中央図書館	100,314	2	2,414	234,609	2.34	64
103	糸島市図書館	100,126	2	1,659	136,356	1.36	97
103館 平均		123,528		2,822	324,512	2.63	

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成

(2) 開架・閉架比率（開架：閉架＝50%：50%）

新市立図書館の開架・閉架比率の計画値は、他自治体の状況や開架資料更新率（年間受入冊数／開架冊数：1年間に更新される開架資料の割合）を踏まえ、開架50%：閉架50%とします。

表 8-7 に示すとおり、現市立図書館は収蔵冊数が限界に達していることなどから開架比率が約 80%と高くなっていますが、他自治体中央館の開架比率の平均は 50%程度となっています（県内市・類似団体市・同規模市の詳細は表 8-9～表 8-11 参照）。

新市立図書館の収蔵冊数を約 30 万冊、開架比率を 50%とした場合の開架冊数は約 15 万冊で、現市立図書館の約 1.5 倍の開架冊数となります。また、「(1) 収蔵冊数（約 30 万冊）」と同様に資料費約 1,800 万円／年を想定した場合の開架資料更新率は約 6.0%で他自治体水準をやや下回りますが、開架比率 50%は開架冊数の確保と資料の新鮮さや魅力の維持の両立の面から無理のない値であると考えられます（表 8-8 参照）。

表 8-7 現市立図書館及び他自治体中央館の開架比率

番号	区 分	蔵書冊数 (冊)	開架	
			冊数(冊)	開架比率
ア)	愛知県内市(36市)平均	407,934	195,406	53.1%
イ)	類似団体(29市)平均	337,200	163,701	51.7%
ウ)	同規模市(103市)平均	324,512	163,811	53.1%
—	現市立図書館(参考)	121,745	97,702	80.3%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成

表 8-8 新市立図書館及び他自治体中央館の開架資料更新率

番号	区 分	開架資料更新率(年間受入冊数／開架冊数)		
		平均	貸出密度上位 10%自治体平均	貸出密度上位1/4 自治体平均
ア)	愛知県内市(36市)	7.4%	6.7%	7.3%
イ)	類似団体(29市)	6.6%	6.1%	7.6%
ウ)	同規模市(103市)	9.2%	8.4%	7.5%
—	新市立図書館(想定)	6.0%		

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成

表 8-9 県内市 36 市の中央館開架比率

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	開架図書	
						冊数(冊)	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	97,702	80.3%
1	豊田市中央図書館	422,571	19	12,567	1,762,706	880,281	49.9%
2	一宮市立中央図書館	386,343	5	6,702	582,474	—	—
3	岡崎市立中央図書館	382,784	9	7,895	893,255	494,175	55.3%
4	豊橋市中央図書館	378,485	35	5,655	674,947	195,406	29.0%
5	春日井市図書館	311,327	18	4,983	784,900	—	—
6	安城市図書情報館	185,818	1	6,808	706,388	449,510	63.6%
7	豊川市中央図書館	185,273	19	5,773	485,636	282,599	58.2%
8	西尾市立図書館	170,734	34	2,722	722,724	326,716	45.2%
9	小牧市立図書館	153,655	40	2,224	327,226	214,968	65.7%
10	刈谷市中央図書館	149,262	28	5,509	735,760	202,639	27.5%
11	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	—	—
12	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	120,000	38.7%
13	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	135,743	31.7%
14	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	168,569	55.8%
15	おおぶ文化交流の杜図書館	89,788	4	3,650	336,655	226,755	67.4%
16	あま市美和図書館	88,527	24	754	118,084	79,963	67.7%
17	日進市立図書館	88,024	10	6,102	363,427	189,413	52.1%
18	知多市立中央図書館	86,084	38	3,229	327,602	177,344	54.1%
19	北名古屋市東図書館	84,433	28	3,022	185,612	73,787	39.8%
20	尾張旭市立図書館	82,605	37	1,393	205,654	108,683	52.8%
21	蒲郡市立図書館	81,291	49	1,986	272,189	118,883	43.7%
22	犬山市立図書館	74,790	27	4,962	238,165	149,870	62.9%
23	碧南市民図書館	71,673	25	4,327	423,888	197,597	46.6%
24	知立市図書館	71,010	31	2,477	226,321	109,483	48.4%
25	豊明市立図書館	68,706	38	2,923	271,860	127,744	47.0%
26	清須市立図書館	67,118	6	3,339	127,645	92,929	72.8%
27	愛西市中央図書館	64,699	23	2,012	144,170	102,328	71.0%
28	田原市中央図書館	64,078	16	3,972	451,379	327,510	72.6%
29	津島市立図書館	64,074	18	5,900	292,404	171,403	58.6%
30	みよし市立中央図書館	60,383	2	3,807	211,679	130,329	61.6%
31	常滑市立図書館	58,240	47	1,447	203,524	127,585	62.7%
32	長久手市中央図書館	55,555	26	4,201	223,951	85,632	38.2%
33	新城図書館（ふるさと情報館）	48,553	31	2,021	162,130	75,639	46.7%
34	岩倉市図書館	47,758	35	2,588	177,875	127,170	71.5%
35	高浜市立図書館	46,756	39	1,105	204,901	88,723	43.3%
36	弥富市立図書館	44,399	33	1,978	174,198	89,033	51.1%
	平均	131,557		3,849	407,934	195,406	53.1%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成、おおぶ文化交流の杜図書館延床面積は施設案内パンフレットより

表 8-10 類似団体（Ⅲ-②）29市の中央館開架比率

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	開架図書	
						冊数	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	97,702	80.3%
1	石巻市図書館	148,798	45	1,463	186,843	—	—
2	各務原市立中央図書館	148,409	27	4,015	550,311	366,544	66.6%
3	周南市立中央図書館	147,482	36	3,681	338,069	142,137	42.0%
4	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	3,299	364,139	276,485	75.9%
5	古河市古河図書館	144,715	34	604	127,968	103,416	80.8%
6	桑名市立中央図書館	143,149	13	3,169	335,745	186,407	55.5%
7	尾道市立中央図書館	142,462	27	3,376	539,921	310,586	57.5%
8	焼津市立焼津図書館	142,016	33	1,422	202,897	132,005	65.1%
9	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	—	—
10	富士宮市立中央図書館	134,526	29	3,802	422,310	174,189	41.2%
11	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	120,000	38.7%
12	草津市立図書館	130,385	35	2,781	324,423	159,869	49.3%
13	大東市立中央図書館	123,397	31	891	146,547	87,980	60.0%
14	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	26	3,072	301,622	160,739	53.3%
15	佐野市立図書館	121,183	35	3,042	268,114	109,756	40.9%
16	長浜市立長浜図書館	120,995	35	1,749	269,262	87,109	32.4%
17	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	135,743	31.7%
18	防府市立防府図書館	117,713	12	3,527	455,645	198,048	43.5%
19	掛川市立中央図書館	117,609	17	4,611	333,809	190,482	57.1%
20	桐生市立図書館	116,934	38	2,369	302,538	241,116	79.7%
21	東近江市立八日市図書館	115,304	33	2,289	299,508	118,522	39.6%
22	加須市立加須図書館	114,289	13	2,480	248,477	139,920	56.3%
23	丸亀市立中央図書館	113,587	26	3,405	342,759	151,620	44.2%
24	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	168,569	55.8%
25	白山市立松任図書館	112,829	15	4,337	337,841	172,753	51.1%
26	彦根市立図書館	112,786	38	2,743	756,285	142,880	18.9%
27	小松市立図書館	108,573	36	1,840	202,584	124,009	61.2%
28	可児市立図書館	101,148	33	1,528	170,661	91,022	53.3%
29	三条市立図書館	100,884	34	2,233	284,225	128,034	45.0%
	29館 平均	125,841		2,699	337,200	163,701	51.7%

※「日本の図書館2017」掲載のデータを基に作成

表 8-11 同規模市 103 市の中央館開架比率

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	開架図書	
						冊数	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	97,702	80.3%
1	米子市立図書館	149,731	5	2,925	300,695	147,526	49.1%
2	入間市立図書館	149,593	33	1,934	249,523	130,066	52.1%
3	刈谷市中央図書館	149,262	28	5,509	735,760	202,639	27.5%
4	石巻市図書館	148,798	45	1,463	186,843	—	—
5	各務原市立中央図書館	148,409	27	4,015	550,311	366,544	66.6%
6	多摩市立図書館	147,849	10	5,480	325,460	—	—
7	周南市立中央図書館	147,482	36	3,681	338,069	142,137	42.0%
8	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	3,299	364,139	276,485	75.9%
9	深谷市立図書館	145,053	27	2,291	259,330	149,797	57.8%
10	古河市古河図書館	144,715	34	604	127,968	103,416	80.8%
11	守口市生涯学習情報センター	144,615	24	2,245	163,024	122,020	74.8%
12	土浦市立図書館	144,088	0	1,159	350,274	182,080	52.0%
13	武蔵野市立中央図書館	143,262	23	7,529	634,215	191,667	30.2%
14	桑名市立中央図書館	143,149	13	3,169	335,745	186,407	55.5%
15	尾道市立中央図書館	142,462	27	3,376	539,921	310,586	57.5%
16	焼津市立焼津図書館	142,016	33	1,422	202,897	132,005	65.1%
17	沖縄市立図書館	140,503	1	5,041	217,271	105,887	48.7%
18	諫早市立諫早図書館	140,140	17	7,405	439,274	378,119	86.1%
19	岩国市中央図書館	139,986	24	4,278	631,088	365,363	57.9%
20	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	—	—
21	三郷市立図書館	137,656	4	311	159,348	153,781	96.5%
22	青梅市中央図書館	136,750	10	3,860	297,902	138,370	46.4%
23	朝霞市立図書館	135,928	31	2,752	521,796	317,976	60.9%
24	箕面市立中央図書館	135,587	29	1,910	378,268	170,743	45.1%
25	戸田市立図書館	135,243	34	3,611	408,782	225,255	55.1%
26	富士宮市立中央図書館	134,526	29	3,802	422,310	174,189	41.2%
27	木更津市立図書館	134,002	43	1,855	356,000	—	—
28	大崎市図書館	133,958	1	3,855	185,493	93,850	50.6%
29	我孫子市民図書館	132,853	16	2,125	256,855	134,381	52.3%
30	鶴岡市立図書館	131,758	33	2,181	264,063	74,153	28.1%
31	成田市立図書館	131,739	33	5,179	826,681	335,500	40.6%
32	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	120,000	38.7%
33	海老名市立中央図書館	130,627	33	3,579	330,795	252,040	76.2%
34	八代市立図書館	130,572	33	2,636	301,051	133,718	44.4%
35	飯塚市立飯塚図書館	130,517	22	1,806	247,651	137,626	55.6%
36	草津市立図書館	130,385	35	2,781	324,423	159,869	49.3%
37	伊勢市立伊勢図書館	129,764	25	2,397	306,543	165,855	54.1%
38	座間市立図書館	129,701	35	3,524	411,945	373,715	90.7%
39	延岡市立図書館	127,924	21	3,168	338,068	138,102	40.9%
40	霧島市立国分図書館	126,966	21	2,058	253,024	185,040	73.1%

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	開架図書	
						冊数	割合
41	唐津市近代図書館	126,280	25	4,351	343,808	84,913	24.7%
42	門真市立図書館	125,409	41	1,598	186,694	138,939	74.4%
43	橿原市立図書館	124,113	22	2,436	302,869	111,528	36.8%
44	大東市立中央図書館	123,397	31	891	146,547	87,980	60.0%
45	市立小樽図書館	122,927	35	2,489	311,359	-	-
46	会津若松市立会津図書館	122,749	7	2,809	355,831	124,418	35.0%
47	一関市立一関図書館	122,644	4	7,905	281,667	160,007	56.8%
48	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	26	3,072	301,622	160,739	53.3%
49	うるま市立中央図書館	122,099	27	3,284	224,278	164,034	73.1%
50	松原市民松原図書館	121,962	38	1,551	395,178	8,600	2.2%
51	奥州市立水沢図書館	121,282	29	2,543	284,118	127,266	44.8%
52	佐野市立図書館	121,183	35	3,042	268,114	109,756	40.9%
53	北見市立中央図書館	121,048	2	4,799	294,936	170,634	57.9%
54	長浜市立長浜図書館	120,995	35	1,749	269,262	87,109	32.4%
55	生駒市図書館	120,944	31	1,381	406,009	222,411	54.8%
56	別府市立図書館	120,658	30	1,353	217,310	96,530	44.4%
57	国分寺市立本多図書館	119,940	35	963	136,351	110,377	81.0%
58	江別市情報図書館	119,517	28	2,821	377,316	192,950	51.1%
59	大牟田市立図書館	119,407	27	2,203	307,414	207,947	67.6%
60	鴻巣市立鴻巣中央図書館	119,192	7	1,157	199,798	159,145	79.7%
61	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	135,743	31.7%
62	那須塩原市西那須野図書館	118,308	39	1,370	179,203	137,705	76.8%
63	小金井市立図書館	117,978	42	1,956	288,397	124,765	43.3%
64	防府市立防府図書館	117,713	12	3,527	455,645	198,048	43.5%
65	掛川市立中央図書館	117,609	17	4,611	333,809	190,482	57.1%
66	はつかいち市民図書館	117,292	21	1,466	243,456	125,234	51.4%
67	東久留米市立中央図書館	117,128	31	2,545	273,590	105,694	38.6%
68	桐生市立図書館	116,934	38	2,369	302,538	241,116	79.7%
69	東近江市立八日市図書館	115,304	33	2,289	299,508	118,522	39.6%
70	富田林市立中央図書館	114,919	42	764	299,904	-	-
71	加須市立加須図書館	114,289	13	2,480	248,477	139,920	56.3%
72	浦添市立図書館	114,165	33	3,037	297,974	129,605	43.5%
73	羽曳野市立中央図書館	114,146	17	2,661	249,969	82,964	33.2%
74	三田市立図書館	113,996	28	2,676	310,302	131,489	42.4%
75	丸亀市立中央図書館	113,587	26	3,405	342,759	151,620	44.2%
76	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	168,569	55.8%
77	多治見市図書館	113,419	21	3,307	439,106	165,370	37.7%
78	春日市図書館	113,026	23	2,632	326,365	142,649	43.7%
79	ふじみ野市立大井図書館	112,919	30	1,403	166,921	97,207	58.2%
80	昭島市民図書館	112,897	45	1,506	334,858	174,460	52.1%

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	開架図書	
						冊数	割合
81	白山市立松任図書館	112,829	15	4,337	337,841	172,753	51.1%
82	彦根市立図書館	112,786	38	2,743	756,285	142,880	18.9%
83	西条市立西条図書館	112,230	9	5,137	341,833	171,077	50.0%
84	三島市立図書館	111,601	21	3,068	415,179	182,645	44.0%
85	富士見市立中央図書館	110,045	23	4,464	423,296	234,365	55.4%
86	河内長野市立図書館	109,545	16	3,910	487,475	200,821	41.2%
87	鎌ヶ谷市立図書館	109,458	31	1,634	303,599	-	-
88	取手市立取手図書館	108,957	39	1,528	213,498	153,319	71.8%
89	小松市立図書館	108,573	36	1,840	202,584	124,009	61.2%
90	筑西市立中央図書館	107,807	20	4,673	242,833	126,715	52.2%
91	酒田市立中央図書館	106,733	36	1,449	276,516	-	-
92	鹿屋市立図書館	104,949	37	2,073	194,711	148,825	76.4%
93	飯田市立中央図書館	104,247	37	2,507	363,739	154,226	42.4%
94	津山市立図書館	103,954	19	3,229	323,330	172,142	53.2%
95	池田市立図書館	102,671	38	2,512	324,002	163,971	50.6%
96	筑紫野市民図書館	102,459	27	2,213	262,000	155,445	59.3%
97	坂戸市立中央図書館	101,408	34	2,707	268,048	90,762	33.9%
98	可児市立図書館	101,148	33	1,528	170,661	91,022	53.3%
99	泉佐野市立中央図書館	101,035	22	3,025	383,852	271,785	70.8%
100	三条市立図書館	100,884	34	2,233	284,225	128,034	45.0%
101	島田市立島田図書館	100,441	6	2,631	265,947	162,495	61.1%
102	新発田市立中央図書館	100,314	2	2,414	234,609	115,513	49.2%
103	糸島市図書館	100,126	2	1,659	136,356	99,352	72.9%
103館 平均		123,528		2,822	324,512	163,426	53.0%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成

(3) 一般書・児童書比率（一般書：児童書＝70%：30%）

新市立図書館の一般書・児童書比率は、現市立図書館の所蔵・利用状況や他自治体の状況、上位・関連施策などを踏まえて設定します。

現市立図書館の児童書比率は約 25%で、他自治体中央館の児童書比率をやや下回っています。現在は一般書と比較して児童書の利用率が高く、複合公共施設内での子育て支援センターなどとの併設に伴い児童書へのニーズはさらに高まるものと考えられます。さらに、本市では「子育て先進市」をめざした各種施策も展開していることなどから、新市立図書館では児童書比率を現状よりも高めるものとし、一般書・児童書比率の計画値を一般書 70%：児童書 30%とします。なお、この比率は愛知県内自治体中央館の平均値とほぼ同値ですが、児童開架資料の購入比率や更新比率の向上を図ることで、児童書の質・量の両面からさらなる充実を図ります。

表 8-12 現市立図書館及び他自治体中央館の児童書比率

番号	区 分	蔵書冊数 (冊)	児童書	
			冊数(冊)	児童書比率
ア)	愛知県内市(36市)平均	407,934	117,167	29.0%
イ)	類似団体(29市)平均	337,200	97,011	26.3%
ウ)	同規模市(103市)平均	324,512	92,866	26.4%
—	現市立図書館(参考)	121,745	31,112	25.6%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータ及び、各自治体HP掲載の年報を基に作成

表 8-13 県内市 36 市の児童書比率

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	児童書比率	
						冊数(冊)	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	31,112	25.6%
1	豊田市中央図書館	422,571	19	12,567	1,762,706	512,228	29.1%
2	一宮市立中央図書館	386,343	5	6,702	582,474	133,001	22.8%
3	岡崎市立中央図書館	382,784	9	7,895	893,255	—	—
4	豊橋市中央図書館	378,485	35	5,655	674,947	122,954	18.2%
5	春日井市図書館	311,327	18	4,983	784,900	—	—
6	安城市図書情報館	185,818	1	6,808	706,388	220,973	31.3%
7	豊川市中央図書館	185,273	19	5,773	485,636	97,162	20.0%
8	西尾市立図書館	170,734	34	2,722	722,724	—	—
9	小牧市立図書館	153,655	40	2,224	327,226	132,973	40.6%
10	刈谷市中央図書館	149,262	28	5,509	735,760	—	—
11	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	—	—
12	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	92,425	29.8%
13	半田市立図書館	118,733	33	1,749	428,753	—	—
14	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	—	—
15	おおぶ文化交流の杜図書館	89,788	4	3,650	336,655	—	—
16	あま市美和図書館	88,527	24	754	118,084	—	—
17	日進市立図書館	88,024	10	6,102	363,427	92,182	25.4%
18	知多市立中央図書館	86,084	38	3,229	327,602	98,995	30.2%
19	北名古屋市東図書館	84,433	28	3,022	185,612	65,681	35.4%
20	尾張旭市立図書館	82,605	37	1,393	205,654	69,418	33.8%
21	蒲郡市立図書館	81,291	49	1,986	272,189	76,376	28.1%
22	犬山市立図書館	74,790	27	4,962	238,165	67,015	28.1%
23	碧南市民図書館	71,673	25	4,327	423,888	90,818	21.4%
24	知立市図書館	71,010	31	2,477	226,321	—	—
25	豊明市立図書館	68,706	38	2,923	271,860	101,029	37.2%
26	清須市立図書館	67,118	6	3,339	127,645	37,920	29.7%
27	愛西市中央図書館	64,699	23	2,012	144,170	—	—
28	田原市中央図書館	64,078	16	3,972	451,379	—	—
29	津島市立図書館	64,074	18	5,900	292,404	81,721	27.9%
30	みよし市立中央図書館	60,383	2	3,807	211,679	—	—
31	常滑市立図書館	58,240	47	1,447	203,524	56,569	27.8%
32	長久手市中央図書館	55,555	26	4,201	223,951	76,724	34.3%
33	新城図書館(ふるさと情報館)	48,553	31	2,021	162,130	—	—
34	岩倉市図書館	47,758	35	2,588	177,875	—	—
35	高浜市立図書館	46,756	39	1,105	204,901	—	—
36	弥富市立図書館	44,399	33	1,978	174,198	—	—
	平均	131,557		3,849	407,934	117,167	29.0%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成
 児童書冊数及び比率は、各自治体HP掲載の年報における平成 28 年度値より
 おおぶ文化交流の杜図書館延床面積は施設案内パンフレットより

表 8-14 類似団体（Ⅲ-②）29市の児童書比率

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	児童書比率	
						冊数	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	31,112	25.6%
1	石巻市図書館	148,798	45	1,463	186,843	—	—
2	各務原市立中央図書館	148,409	27	4,015	550,311	—	—
3	周南市立中央図書館	147,482	37	3,681	338,069	—	—
4	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	3,299	364,139	—	—
5	古河市古河図書館	144,715	34	604	127,968	—	—
6	桑名市立中央図書館	143,149	14	3,169	335,745	69,646	20.7%
7	尾道市立中央図書館	142,462	28	3,376	539,921	157,618	29.2%
8	焼津市立焼津図書館	142,016	33	1,422	202,897	—	—
9	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	—	—
10	富士宮市立中央図書館	134,526	29	3,802	422,310	124,444	29.5%
11	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	92,425	29.8%
12	草津市立図書館	130,385	35	2,781	324,423	72,434	22.3%
13	大東市立中央図書館	123,397	31	891	146,547	40,251	27.5%
14	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	26	3,072	301,622	—	—
15	佐野市立図書館	121,183	35	3,042	268,114	—	—
16	長浜市立長浜図書館	120,995	35	1,749	269,262	—	—
17	半田市立図書館	118,733	34	1,749	428,753	—	—
18	防府市立防府図書館	117,713	12	3,527	455,645	99,416	21.8%
19	掛川市立中央図書館	117,609	17	4,611	333,809	94,992	28.5%
20	桐生市立図書館	116,934	38	2,369	302,538	—	—
21	東近江市立八日市図書館	115,304	33	2,289	299,508	—	—
22	加須市立加須図書館	114,289	13	2,480	248,477	—	—
23	丸亀市立中央図書館	113,587	26	3,405	342,759	—	—
24	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	—	—
25	白山市立松任図書館	112,829	15	4,337	337,841	65,955	19.5%
26	彦根市立図書館	112,786	38	2,743	756,285	247,390	32.7%
27	小松市立図書館	108,573	36	1,840	202,584	49,103	24.2%
28	可児市立図書館	101,148	33	1,528	170,661	50,463	29.6%
29	三条市立図書館	100,884	34	2,233	284,225	—	—
	29館 平均	125,841		2,699	337,200	97,011	26.3%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成
児童書冊数及び比率は、各自治体HP掲載の年報における平成 28 年度値より

表 8-15 同規模市 103 市の児童書比率

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	児童書比率	
						冊数	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	31,112	25.6%
1	米子市立図書館	149,731	5	2,925	300,695	—	—
2	入間市立図書館	149,593	33	1,934	249,523	—	—
3	刈谷市中央図書館	149,262	28	5,509	735,760	—	—
4	石巻市図書館	148,798	45	1,463	186,843	—	—
5	各務原市立中央図書館	148,409	27	4,015	550,311	—	—
6	多摩市立図書館	147,849	10	5,480	325,460	84,894	26.1%
7	周南市立中央図書館	147,482	37	3,681	338,069	—	—
8	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	3,299	364,139	—	—
9	深谷市立図書館	145,053	27	2,291	259,330	—	—
10	古河市古河図書館	144,715	34	604	127,968	—	—
11	守口市生涯学習情報センター	144,615	25	2,245	163,024	—	—
12	土浦市立図書館	144,088	0	1,159	350,274	80,163	22.9%
13	武蔵野市立中央図書館	143,262	23	7,529	634,215	100,287	15.8%
14	桑名市立中央図書館	143,149	14	3,169	335,745	69,646	20.7%
15	尾道市立中央図書館	142,462	28	3,376	539,921	157,618	29.2%
16	焼津市立焼津図書館	142,016	33	1,422	202,897	—	—
17	沖縄市立図書館	140,503	1	5,041	217,271	71,254	32.8%
18	誂早市立誂早図書館	140,140	17	7,405	439,274	—	—
19	岩国市中央図書館	139,986	24	4,278	631,088	—	—
20	稲沢市立中央図書館	138,089	11	4,968	625,393	—	—
21	三郷市立図書館	137,656	4	311	159,348	53,726	33.7%
22	青梅市中央図書館	136,750	10	3,860	297,902	53,410	17.9%
23	朝霞市立図書館	135,928	31	2,752	521,796	—	—
24	箕面市立中央図書館	135,587	29	1,910	378,268	133,500	35.3%
25	戸田市立図書館	135,243	35	3,611	408,782	121,935	29.8%
26	富士宮市立中央図書館	134,526	29	3,802	422,310	124,444	29.5%
27	木更津市立図書館	134,002	44	1,855	356,000	—	—
28	大崎市図書館	133,958	1	3,855	185,493	—	—
29	我孫子市民図書館	132,853	16	2,125	256,855	57,989	22.6%
30	鶴岡市立図書館	131,758	33	2,181	264,063	—	—
31	成田市立図書館	131,739	34	5,179	826,681	255,611	30.9%
32	瀬戸市立図書館	130,908	48	1,412	309,914	92,425	29.8%
33	海老名市立中央図書館	130,627	33	3,579	330,795	—	—
34	八代市立図書館	130,572	33	2,636	301,051	—	—
35	飯塚市立飯塚図書館	130,517	22	1,806	247,651	79,402	32.1%
36	草津市立図書館	130,385	35	2,781	324,423	72,434	22.3%
37	伊勢市立伊勢図書館	129,764	26	2,397	306,543	74,518	24.3%
38	座間市立図書館	129,701	35	3,524	411,945	109,327	26.5%
39	延岡市立図書館	127,924	21	3,168	338,068	—	—
40	霧島市立国分図書館	126,966	21	2,058	253,024	82,152	32.5%

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	児童書比率	
						冊数	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	31,112	25.6%
41	唐津市近代図書館	126,280	25	4,351	343,808	—	—
42	門真市立図書館	125,409	41	1,598	186,694	—	—
43	橿原市立図書館	124,113	22	2,436	302,869	91,940	30.4%
44	大東市立中央図書館	123,397	31	891	146,547	40,251	27.5%
45	市立小樽図書館	122,927	35	2,489	311,359	54,585	17.5%
46	会津若松市立会津図書館	122,749	7	2,809	355,831	—	—
47	一関市立一関図書館	122,644	4	7,905	281,667	74,476	26.4%
48	新居浜市立別子銅山記念図書館	122,347	26	3,072	301,622	—	—
49	うるま市立中央図書館	122,099	27	3,284	224,278	—	—
50	松原市民松原図書館	121,962	38	1,551	395,178	135,139	34.2%
51	奥州市立水沢図書館	121,282	29	2,543	284,118	—	—
52	佐野市立図書館	121,183	35	3,042	268,114	—	—
53	北見市立中央図書館	121,048	3	4,799	294,936	—	—
54	長浜市立長浜図書館	120,995	35	1,749	269,262	—	—
55	生駒市図書館	120,944	32	1,381	406,009	—	—
56	別府市立図書館	120,658	31	1,353	217,310	—	—
57	国分寺市立本多図書館	119,940	35	963	136,351	—	—
58	江別市情報図書館	119,517	29	2,821	377,316	—	—
59	大牟田市立図書館	119,407	27	2,203	307,414	—	—
60	鴻巣市立鴻巣中央図書館	119,192	8	1,157	199,798	—	—
61	半田市立図書館	118,733	34	1,749	428,753	—	—
62	那須塩原市西那須野図書館	118,308	39	1,370	179,203	—	—
63	小金井市立図書館	117,978	43	1,956	288,397	—	—
64	防府市立防府図書館	117,713	12	3,527	455,645	99,416	21.8%
65	掛川市立中央図書館	117,609	17	4,611	333,809	94,992	28.5%
66	はつかいち市民図書館	117,292	21	1,466	243,456	69,478	28.5%
67	東久留米市立中央図書館	117,128	31	2,545	273,590	—	—
68	桐生市立図書館	116,934	38	2,369	302,538	—	—
69	東近江市立八日市図書館	115,304	33	2,289	299,508	—	—
70	富田林市立中央図書館	114,919	42	764	299,904	—	—
71	加須市立加須図書館	114,289	13	2,480	248,477	—	—
72	浦添市立図書館	114,165	33	3,037	297,974	61,088	20.5%
73	羽曳野市立中央図書館	114,146	17	2,661	249,969	—	—
74	三田市立図書館	113,996	28	2,676	310,302	—	—
75	丸亀市立中央図書館	113,587	26	3,405	342,759	—	—
76	東海市立中央図書館	113,535	41	2,411	302,232	—	—
77	多治見市図書館	113,419	21	3,307	439,106	—	—
78	春日市民図書館	113,026	23	2,632	326,365	60,062	18.4%
79	ふじみ野市立大井図書館	112,919	30	1,403	166,921	—	—
80	昭島市民図書館	112,897	45	1,506	334,858	—	—

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	児童書比率	
						冊数	割合
—	江南市立図書館	101,053	42	962	121,745	31,112	25.6%
81	白山市立松任図書館	112,829	15	4,337	337,841	65,955	19.5%
82	彦根市立図書館	112,786	38	2,743	756,285	247,390	32.7%
83	西条市立西条図書館	112,230	9	5,137	341,833	—	—
84	三島市立図書館	111,601	21	3,068	415,179	89,873	21.6%
85	富士見市立中央図書館	110,045	24	4,464	423,296	—	—
86	河内長野市立図書館	109,545	16	3,910	487,475	145,124	29.8%
87	鎌ヶ谷市立図書館	109,458	31	1,634	303,599	91,388	30.1%
88	取手市立取手図書館	108,957	39	1,528	213,498	60,309	28.2%
89	小松市立図書館	108,573	36	1,840	202,584	49,103	24.2%
90	筑西市立中央図書館	107,807	20	4,673	242,833	—	—
91	酒田市立中央図書館	106,733	36	1,449	276,516	—	—
92	鹿屋市立図書館	104,949	37	2,073	194,711	—	—
93	飯田市立中央図書館	104,247	37	2,507	363,739	73,130	20.1%
94	津山市立図書館	103,954	19	3,229	323,330	—	—
95	池田市立図書館	102,671	38	2,512	324,002	—	—
96	筑紫野市民図書館	102,459	27	2,213	262,000	—	—
97	坂戸市立中央図書館	101,408	34	2,707	268,048	—	—
98	可児市立図書館	101,148	33	1,528	170,661	50,463	29.6%
99	泉佐野市立中央図書館	101,035	22	3,025	383,852	—	—
100	三条市立図書館	100,884	34	2,233	284,225	—	—
101	島田市立島田図書館	100,441	6	2,631	265,947	—	—
102	新発田市立中央図書館	100,314	2	2,414	234,609	—	—
103	糸島市図書館	100,126	3	1,659	136,356	—	—
	103館 平均	123,528		2,822	324,512	92,866	26.4%

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成
児童書冊数及び比率は、各自治体HP掲載の年報における平成 28 年度値より

(4) 資料種別収蔵冊数

「9 新市立図書館の施設整備計画」に向けて、図書、視聴覚資料、雑誌・新聞の収蔵冊数の計画値を表 8-16 のとおり設定します。検討にあたっては、人口同規模（10～15 万人）自治体の蔵書構成比や人口 1 人あたり資料点数、タイトル数を参考としました。

図書は、「(3) 一般書・児童書比率（一般書：児童書＝70%：30%）」から一般書と児童書の冊数を設定します。その上で、コレクション形成には一定期間が必要かつ蔵書の規模と構成比には関連があると考え、同規模自治体の中央館のうち、築 10 年以上かつ蔵書冊数が同程度（25～35 万冊）の事例の蔵書構成比の平均値（表 8-17 参照）から郷土・参考・ティーンズ資料割合を設定します。郷土資料は構成比が現在の約 7% から約 5% に変化しますが、流通量や発行頻度の少なさ、新市立図書館の収蔵冊数などから充分と考えます。

視聴覚資料は、本市と同様自治体内の図書館数が 1 館の同規模自治体全体での人口 1 人あたり資料点数の平均値（表 8-18 参照）と本市人口から設定します。

雑誌・新聞は、移転に伴う利用形態や利用者層の変化を想定し、人口同規模自治体の中央館事例のうち、駅前複合施設内で過去 10 年以内に開館した事例の購入タイトル数から設定します（表 8-19 参照）。

表 8-16 新市立図書館の資料種別収蔵冊数

資料種別	新江南市立図書館		現江南市立図書館（参考）	
	冊数（冊）	構成比（%）	冊数（冊）	構成比（%）
図書	約300,000冊	100.0%	120,454冊	100.0%
一般書	約210,000冊	70.0%	89,342冊	74.2%
（内数）				
郷土資料	約15,000冊	5.0%	8,804冊	7.3%
参考資料	約10,500冊	3.5%	-	-
ティーンズ資料	約9,000冊	3.0%	-	-
児童書	約90,000冊	30.0%	31,112冊	25.8%
視聴覚資料	約6,000点	-	2,742点	
雑誌	約180誌	-	82誌	
新聞	約15紙	-	10紙	

※現市立図書館の図書冊数及び構成比、視聴覚資料点数は「江南市立図書館の概要 2017」、雑誌・新聞のタイトル数は「日本の図書館 2017」のデータを基に作成

表 8-17 同規模自治体の築 10 年以上・蔵書 25～35 万冊の中央館の蔵書冊数・構成比

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	蔵書冊数 (冊)	郷土資料		参考資料		ティーンズ資料	
					冊数 (冊)	構成比 (%)	冊数 (冊)	構成比 (%)	冊数 (冊)	構成比 (%)
1	多摩市立図書館	147,849	10	325,561	20,129	6.2%	9,049	2.8%	3,899	1.2%
2	桑名市立中央図書館	143,149	14	335,745	13,075	3.9%	4,477	1.3%	-	-
3	青梅市中央図書館	136,750	10	299,226	15,212	5.1%	12,859	4.3%	-	-
4	我孫子市民図書館	132,853	16	256,855	7,347	2.9%	13,863	5.4%	8,122	3.2%
5	掛川市立中央図書館	117,609	17	258,228	22,308	8.6%	-	-	-	-
6	春日市民図書館	113,026	23	316,663	8,833	2.8%	-	-	12,875	4.1%
	平均	131,873	15	298,713	14,484	4.9%	10,062	3.5%	8,299	2.8%
-	新江南市立図書館	101,053	-	300,000	15,000	5.0%	10,500	3.5%	9,000	3.0%
-	現江南市立図書館	101,053	42	120,454	8,804	7.3%	-	-	-	-

※奉仕人口及び築年数は「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成
蔵書冊数及び構成比は各自自治体HP掲載の年報における平成 28 年度値より

表 8-18 図書館数が 1 館の同規模自治体の視聴覚資料点数

No.	館名	奉仕人口 (人)	視聴覚資料	
			総数 (点)	人口あたり 点数 (点/人)
1	守口市	144,615	8,843	0.06
2	大崎市	133,958	4,443	0.03
3	橿原市	124,113	5,639	0.05
4	東海市	113,535	14,676	0.13
5	鎌ヶ谷市	109,458	3,271	0.03
	平均	125,136	7,374	0.06
-	新江南市立図書館	101,053	6,000	0.06
-	現江南市立図書館	101,053	2,742	0.03

※奉仕人口は「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成
視聴覚資料点数は各自自治体HP掲載の年報における平成 28 年度値より

表 8-19 同規模自治体で過去 10 年以内に駅前複合施設内に開館した中央館の購入タイトル数

No.	館名	奉仕人口 (人)	築年数 (年)	雑誌購入 タイトル数 (誌)	新聞購入 タイトル数 (紙)
1	藤枝市立駅南図書館	146,609	9	135	15
2	青梅市立中央図書館	136,750	10	352	28
3	鴻巣市立鴻巣中央図書館	119,192	8	149	8
4	島田市立島田図書館	100,441	6	80	9
5	新発田市立中央図書館	100,314	2	191	10
	平均	120,661	7	181	14
-	新江南市立図書館	101,053	-	180	15
-	現江南市立図書館	101,053	42	82	10

※「日本の図書館 2017」掲載のデータを基に作成

8.2. 施設規模の計画値

「8.1 蔵書規模の計画値」を踏まえて新市立図書館の開架スペース及び閉架書庫の面積を試算すると、表 8-20 のとおりとなり、さらにその他の必要空間及びその規模を設定すると表 8-21 のとおりとなることから、新市立図書館の施設規模の計画値は約 3,800 m²とします。

表 8-20 開架・閉架面積

試算項目	適用	数	単位	
開架スペース の面積設定	1 m ² あたりの蔵書数	80	冊/m ²	
	一般開架スペースの面積	105,000 (冊) / 80 (冊/m ²) ≒	1,313 1,320	m ²
	1 m ² あたりの蔵書数	100	冊/m ²	
	児童開架スペースの面積	45,000 (冊) / 100 (冊/m ²) ≒	450 450	m ²
	計		1,770	m ²
閉架書庫 の面積設定	1 m ² あたりの蔵書数	集密書庫	500 冊/m ²	
	閉架書庫の面積	150,000 (冊) / 500 (冊/m ²) ≒	300 300	m ²

表 8-21 必要空間・規模

区分	部門	ゾーン	室名	適用	面積(m ²)			
					室	ゾーン	部門	区分
利用者	導入		ロビー		150	150	150	2,355
			展示スペース					
	開架	児童開架	児童開架スペース		450	530		
			お話しスペース		50			
			児童カウンター		10			
			子ども用トイレ		5			
			授乳室		15			
			一般開架スペース		1,320			
	開架	一般開架	参考資料コーナー (ビジネス支援コーナー含む)		100	1,455	1,985	
			郷土資料コーナー		100			
			ティーンズコーナー		100			
			新聞・雑誌コーナー		50			
			インターネット・AVコーナー	2.5m ² × 10席 + 収蔵スペース	55			
			対面朗読室		10			
			サービスカウンター		20			
			レファレンスカウンター	サービスカウンターに含む	—			
	集会・学習		学習室	2m ² × 100人	200	220	220	
グループ学習室			2m ² × 10人	20				
管理	事務・管理	事務作業室	5m ² × 24人 + 作業スペース	160	260	380		
		会議室	30m ² × 2	60				
		サポーター(ボランティア)室		40				
		休憩室			120			
		更衣室						
		倉庫						
	保存		閉架書庫		300	300	300	
共用		階段・廊下・EV・機械室・トイレ等	20%				759	
合計								3,794
								≒ 3,800

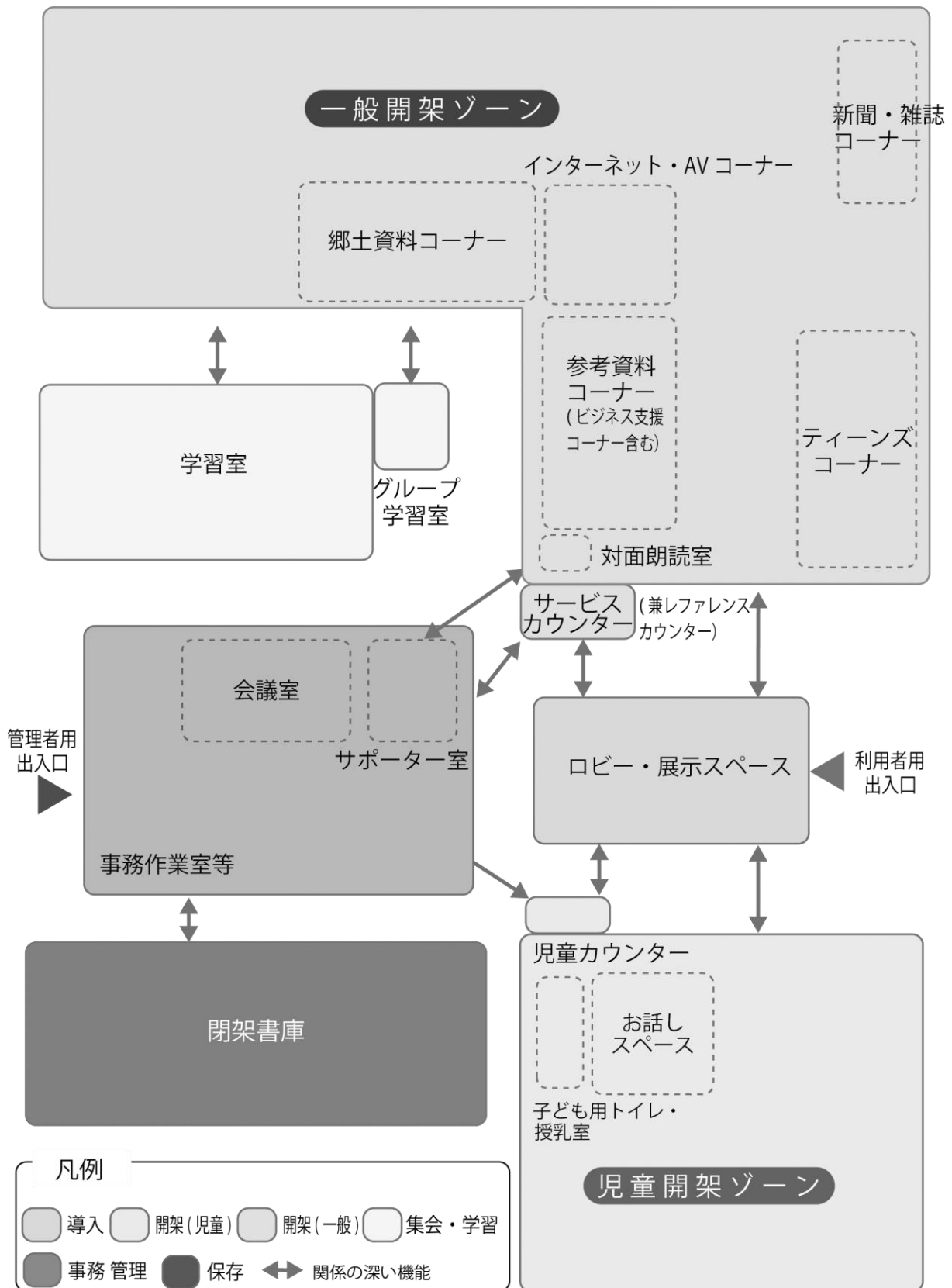


図 8-1 機能相関図

9. 新市立図書館の施設整備計画

9.1. 各諸室のイメージ・必要備品等

(1) 共通事項

利用者の利便性や快適性、管理運営の効率性などに配慮しつつ、「7.1 新市立図書館の基本方針新市立図書館の基本方針・サービス計画と資料収集計画

」にふさわしい施設内容の実現を図ります。利用者動線と管理者動線との区分やスムーズな動線の確保、諸室レイアウト上の工夫やサインの設置などを通じて、市民にとっての利用のしやすさやわかりやすさに配慮します。また、子どもから高齢の方、障害のある方、外国籍の方まで、全ての市民に寄り添う施設として、ユニバーサルデザインへの取り組みを重視します。階層が複数に分かれる場合には、専用の縦動線の確保や吹抜けの配置などを通じて施設としての一体感の創出を図ります。さらに、利用者間の会話や親子間の読み聞かせのほか、飲食なども可能な空間を設けるなど、静寂な空間と賑わいの空間とがほどよく融合し、共存する施設の実現をめざします。その他、複合公共施設内での立地となることから、保健センターや子育て支援センター、交流スペース、民間施設などの併設施設との連携や統一感を考慮します。

(2) 導入部門

行事の情報を発信したり、市民の作品を展示したりすることのできる展示スペースや、市民が休憩したり、会話や交流を楽しんだりすることのできるロビーを確保します。季節に応じた環境音を流したり、植物を配置したりするなど、市民の気軽な利用や滞在を可能とする環境づくりを行うほか、利用者と管理者の双方にとって適切な箇所にBDS（磁気を利用した図書館資料の亡失防止システム）を設置します。



(3) 開架部門

1) 児童開架ゾーン

i. 児童開架スペース

子どもや親子連れにとって居心地がよく親しみやすい空間とするほか、自然採光の確保や変化のある書架レイアウトの採用などにより子どもの本や読書に対する興味や関心を引き出すことができる空間として整備します。子どもや親子連れの気軽な利用を促進するため、一般開架ゾーンを横切らずに利用可能な位置に配置します。4万5千冊程度を収蔵可能な空間とし、低層の書架を中心とした書架構成や表紙を見せた配架の可能な絵本架の設置などを通じて、子どもの身体的特徴や視線



などにも配慮します。書架芯と書架芯との間隔は1,800mmとし、車いすやベビーカー、ブックトラックとの擦れ違いを可能とします。また、子どもが資料を閲覧するための机や椅子だけでなく、保護者同士の情報交換や交流にも使用可能な机や椅子、ベビーベッドなども配置します。

ii. おはなしスペース

おはなし会や読み聞かせ会などの行事に使用するスペースとして児童カウンターに近接して整備しますが、その他の時間帯には親子連れの利用者が読書や読み聞かせなどで使用可能なスペースを兼ねるものとし、開架スペースとカーテンなどで仕切れる構造とした上で、子どもが行事に集中できるように床に直接座ることができるスペースとするほか、行事の円滑の進行のためにスペース内での暗転や照度調整などを可能とします。



iii. 児童カウンター

貸出・返却は利用者のセルフ対応を基本とし、主に子どもの利用者を対象に利用者登録、レファレンスなどの対応を行うものとして、児童開架ゾーン全体を見渡すことのできる位置かつ事務作業室に近接して配置します。子どもの利用に配慮した高さかつ繁忙期・閑散期に伴う職員の増減にも対応可能なカウンターを設置し、児童カウンターから児童開架スペースへの職員のスムーズな移動を可能とするよう配慮します。付近には自動貸出機を設置するほか、サービスカウンターとフロアが分かれる場合には必要に応じて資料の複写受付にも対応するものとし、その場合には近接してセルフサービスのコピー機も設置します。



iv. 子ども用トイレ・授乳室

利用者のプライバシーに配慮可能かつ児童カウンターにも近接して配置します。授乳室には、おむつ替えに利用が可能な設備を設けるほか、男性の保護者の利用も想定した調乳用の給湯設備なども設けます。

2) 一般開架ゾーン

i. 一般開架スペース

利用者が資料を直接手に取り、落ち着いて読書や調べ物をするためのスペースとして、新聞・雑誌コーナーからの独立性を保ちつつ、参考資料コーナー（ビジネス支援コーナー含む）及び郷土資料コーナーとの調和に配慮して全体としてまとまった空間を整備します。



一般開架スペース全体で約10万5千冊の蔵書を収蔵するものとし、壁面書架以外の

書架は5段以下を基本、児童開架ゾーンと同様、書架芯と書架芯との間隔は1,800mmとします。今後は滞在型での利用が増加することも想定し、適宜閲覧席を配置し、そのうち約半数程度には利用者持ち込みのPCに利用可能な電源を確保します。書架や閲覧席の配置にあたっては、サービスカウンターからの見通しの確保や、市民にとって分かりやすく利用しやすいレイアウトとすることに配慮します。一般開架スペースの一部において新刊図書や特集図書、課題解決支援図書などを配置するコーナーを設けるほか、サービスカウンターに近接して3千冊程度収容可能な予約棚を設置します。

ii. 参考資料コーナー（ビジネス支援コーナー含む）

辞書や事典、年鑑、白書・統計、地図、電話帳、新聞縮刷版などを閲覧可能なコーナーとして、5千冊程度の蔵書を収蔵するものとし、適切な数の閲覧席とともにレファレンスカウンターに近接して配置します。一部はビジネス支援コーナーとし、企業・経営・資格取得に関する図書や企業名簿などを閲覧可能なコーナーとして位置付けます。



iii. 郷土資料コーナー

利用者の郷土への誇りや愛着の醸成のために目につきやすい位置かつ参考資料コーナーと近接する位置に配置し、郷土・地域・行政資料1万冊程度を配架可能な書架やパンフレットを開架可能な棚、閲覧席、テーマに沿った資料展示が可能なコーナーなどを設置します。



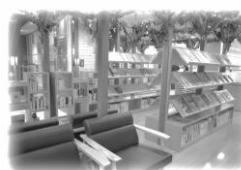
iv. ティーンズコーナー

主に中学生や高校生を中心とするティーンズ世代向けの資料や居場所を提供するコーナーとし、ティーンズ世代向け資料5千冊程度を配架可能な書架や、くつろいで利用することのできる机や椅子を設置します。ティーンズ世代の興味や関心、特性に配慮し、ロビー・展示スペースとの関係を考慮して配置するほか、他コーナーからやや独立した環境となるように整備します。



v. 新聞・雑誌コーナー

新聞や雑誌の閲覧のためのコーナーとして整備します。雑誌の表紙を見せて配架することのできる書架のほか、くつろいで雑誌を閲覧するためのソファや新聞を広げて閲覧するためのテーブルなどを設置します。雑誌は180タイトル程度を1年分のバックナンバーを含めて配架します。新聞は約15紙を1年分程度閲覧可能とします。



vi. インターネット・AVコーナー

インターネットコーナーは、インターネット及び有料データベースの閲覧の用途に使用するものとし、デスクトップ型のPCや、利用者が検索結果などを印刷するための課金プリンターなどを設置します。AVコーナーでは、CD・DVD等の視聴覚資料約6,000タイトルを配架します。利用の際の音や光などが他の利用者へ影響を与えないよう配慮した上で、個人のほか、友人・家族同士など複数人での視聴が可能な環境を設けます。高度情報化社会の進展の速度を踏まえ、機器や媒体の変化への対応にも配慮します。



vii. 対面朗読室

高齢の方や視覚障害のある方を対象とした対面朗読サービスの提供や、録音資料の作成の用途で使用するものとし、一般開架スペースの一角で極力サービスカウンターに近い位置に設置し、内部の状況が確認可能かつ遮音性にも配慮した設えとし、机や椅子のほか、録音・再生用の機器などを設置します。



viii. サービスカウンター

貸出、返却は利用者のセルフ対応を基本とし、サービスカウンターは予約や利用者登録、館内案内、インターネット・AVコーナーやタブレット端末の利用管理などに対応するものとして、一般開架ゾーン全体を見渡すことのできる位置かつBDSや事務作業室に近接した位置に配置します。繁忙期・閑散期に伴う職員の増減に対応可能で、開架スペースへの職員のスムーズな移動も可能なカウンターを設置するほか、付近には自動貸出機やセルフコピー機を設置します。



ix. レファレンスカウンター

利用者からの資料・情報要求や未所蔵資料のリクエストへ対応することなどを主な用途として設置します。効率的な管理運営を可能とするため、レファレンスカウンターはサービスカウンターと連続して配置するものとし、それぞれの機能の独立性を確保するよう配慮します。利用者の気軽な相談を可能とするため、着座での相談や車いすでの利用が可能なカウンターを設置するとともに、わかりやすい案内表示や利用者と職員が1対1で接することのできる環境などを整備します。また、カウンターには、資料検索用のPC端末を設けるものとし、



(4) 集会・学習部門

中高生だけでなく成人の市民の利用にも適した学習スペースを設けます。個人で集中して利用可能な個人学習席と、複数人での学習活動や談話に利用可能なグループ学習席とを設け、それぞれを職員が利用状況を把握可能な設えとするほか、座席管理システムの導入を通じて運用します。個人学習席は、個室形式とブース型の双方を設け、一般開架スペースに近接して配置し、利用者持ち込みのPC利用に対応可能な電源などを確保します。グループ学習席は、利用人数に応じた柔軟な運用や長期休暇期間における開放なども考慮した設えとします。



(5) 事務・管理部門

1) 事務作業室

事務室は、サービスカウンターや閉架書庫などとの動線を考慮して適切に配置し、必要職員数に対応した規模、職員の増減にも柔軟に対応可能な設えとします。作業用スペースは事務室に隣接させた上で資料搬入動線にも配慮し、資料の検品・保管・受入・整理・製本・修理などの作業用スペースや書架を設置します。

2) 会議室

会議室は、職員の会議などを主要な利用としますが、サポーターなどの市民による利用の可能性にも配慮し、事務作業室やサポーター室との近接性にも配慮します。

3) 休憩室・更衣室・倉庫

休憩室は職員の休憩や食事などの用途で使用するものとし、給湯設備を設けます。更衣室は男女別とし、ロッカーを設けます。倉庫は、事務用品やサポーター活動で使用する大型の物品などを整理・補完するために設置し、施錠可能な設えとします。集約を前提としつつ、余剰スペースを有効に活用して設置します。サポーター室は、サポーターの活動・交流・作業のためのスペースとし、サポーターの出入りや、事務作業室との連携に配慮して配置します。各種活動に必要なロッカーや共用の書類棚などを設置します。

(6) 保存部門

今後の保存冊数の増加を見据え、収蔵冊数 15 万冊程度の閉架書庫を設けます。閉架書庫は、事務作業室やサービスカウンター、レファレンスカウンター、児童カウンターとの動線を考慮して適切な位置に配置します。空間の有効活用や事業費縮減の考えに基づき電動もしくは手動の集密書架を採用するものとし、資料の保存に適した空調・照明計画とします。学校図書館への支援の充実に向け、学校等への団体貸出に使用する資料をまとめて保管する区画も設けるものとし、

10. 新市立図書館の管理運営計画

10.1. 開館時間・開館日

新市立図書館では、現市立図書館の状況のほか、鉄道駅に隣接する事例や商業施設に併設する事例といった類似施設の状況（表 10-1 参照）などを踏まえた上で、開館時間帯の拡大を検討します。併せて、複合公共施設全体での一体感の創出や利用者利便性向上の観点から、開館日や開館時間帯の統一などを検討します。

表 10-1 現市立図書館及び類似施設の開館状況

施設名	開館年月	開館時間	休館日	複合施設	備考
(参考) 現市立図書館	昭和 51 年 4 月	9:00～18:30	毎月第 4 木曜日 年末年始 (12 月 29 日～1 月 4 日) 蔵書点検期間	—	—
土浦市立 図書館	平成 29 年 11 月	月～金 10:00～20:00 土・日・祝 10:00～18:00	月曜日 (第 1 月曜日・祝日を除く) 12 月 29 日～1 月 4 日 特別整理日	●	駅前
安城市 図書情報館	平成 29 年 6 月	月～金 9:00～20:00 土・日・祝 9:00～18:00	火曜日 (祝日は開館) 毎月第 4 金曜日 (祝日の場合はその月の末日) 年末年始 特別図書整理期間	●	駅前/ 商業施設併設
玉野市立 図書館	平成 29 年 4 月	火～日 9:00～21:00	月曜日 (祝日の場合は次の平日) 12 月 29 日～1 月 3 日 特別整理期間 (3 月 13 日～16 日)	●	商業施設内
大和市立 図書館	平成 28 年 11 月	月～土 9:00～21:00 日・祝 9:00～20:00 3 階・子ども図書館 9:00～19:00	12 月 31 日、1 月 1 日	●	駅前
新発田市立 中央図書館	平成 28 年 7 月	月～水・金 9:00～20:00 土・日・祝 9:00～17:00	木曜日 (祝日の場合は次の平日) 12 月 29 日～1 月 3 日 蔵書点検期間	●	駅前
つがる市立 図書館	平成 28 年 7 月	10:00～20:00	毎月最終月曜日 特別整理期間 (年 5 日)	●	商業施設内
北茨城市立 図書館	平成 28 年 6 月	火～日 9:30～18:00	月曜日 (祝日の場合は次の平日) 毎月月末 (月末日が土・日・月の場合はその月の最後の金曜日) 12 月 28 日～1 月 3 日 特別整理期間 (年 3 日)	—	駅前
徳島市立 図書館	平成 24 年 4 月	9:00～21:00	毎月第 1 火曜日、1 月 1 日 長期図書整理期間 (年 10 日間以内)	●	商業施設内

※「日本の図書館 2017」及び各館HPより作成

10.2. 管理運営手法

平成 28 年度に策定した「江南市公共施設等総合管理計画」では、新図書館の建設・運営に際しては、民間活力（PPP／PFI／指定管理者制度）の導入を検討するとしています。多様な市民ニーズや本市の財政状況などを踏まえると、新市立図書館では幅広いサービスを展開する一方で効率的な管理運営が求められるほか、複合公共施設全体での一体的なサービス展開も必要となります。今後は、各種運営形態の特性を踏まえた上で、事業進捗に合わせて適切な運営形態を検討していくものとします。

また、管理運営の効率化及び利用者利便性向上の双方の観点から、ICタグシステムによる資料管理を行うものとします。

なお、現市立図書館では平成 19 年度より指定管理者制度を導入しており、「5.4 利用者アンケート調査」で実施した調査では、「イベントや事業の充実度」では 65.3%、「職員の対応」では 93.8%が、「満足」または「やや満足」に回答しています。

表 10-2 運営形態の比較

項目	指定管理者制度	業務委託
受託主体	法人その他の主体 (法人格は必須ではないが個人は不可)	限定なし (議員、長についての禁止規定あり：地方自治法192条の2、142条)
法的性格	管理代行 (公の施設の管理権限を指定を受けた者に委任)	私法上の契約関係 (個別の事務または業務の執行の委託)
期間	原則として複数年	単年度
管理権限	指定管理者	地方公共団体 ※管理の基準、業務の範囲は条例で定める
使用許可	○	×
利用条件の設定、 使用料の強制徴収、 不服申し立てに対する決定、 行政財産の目的外使用許可	×	×
利用料金制	○	×

10.3. 必要職員数

新市立図書館に設置する望ましい必要職員数は、想定する施設規模及び「図書館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書」（平成 24 年 8 月）の目標基準例を用いて算出します。人口同規模自治体の目標基準例から算出される開架資料 1 万冊あたりの職員数は 1.59 人で、この値に開架冊数（約 15 万冊）を乗ざると、望ましい必要職員数は約 24 人となります。なお、新市立図書館に設置する職員数は、上述の管理運営手法と同様に、事業進捗に合わせて今後検討していくものとします。

表 10-3 目標基準例を踏まえた必要職員数

	開架冊数	職員数(人)			開架1万冊当 りの職員数
		(割合(%))	専任職員	非常勤・臨時	
目標基準例 (人口10万人～ 15万人)	352,018	56.1	20.2	32	1.59
		100.0%	36.0%	57.0%	
新江南市立 図書館	150,000	23.9	8.6	13.6	1.59
		100.0%	36.0%	57.0%	
(参考) 現江南市立 図書館	97,702	16.1	0.0	0.0	1.65
		100.0%	0.0%	0.0%	